

自己点検・評価報告書

(平成28年度分)



目 次

序 章

学長あいさつ	1
長野県看護大学の概要	2

第1章 学事と組織

第1節 教育理念・教育目標	4
第2節 大学組織	8
第3節 学生の状況	16

第2章 年間の活動状況

第1節 学部・研究科の行事及び教授会活動	20
第2節 学部の教育活動	23
第3節 研究科の教育活動	26
第4節 看護実践国際研究センターの活動	28

第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修	30
第2節 研究活動	32
第3節 社会・地域貢献活動	45

第4章 社会貢献

第1節 公開講座	50
第2節 分野の活動	50

第5章 学内委員会等の活動

第1節 運営委員会	52
第2節 広報・交流委員会	52
第3節 教務委員会	54
第4節 実習委員会	56
第5節 入試検討委員会	59
第6節 図書委員会	61
第7節 紀要委員会	63
第8節 学生委員会	64
第9節 ネットワーク推進委員会	67
第10節 FD委員会	69
第11節 評価委員会	71
第12節 倫理委員会	72
第13節 ハラスメント防止委員会	74
第14節 動物実験委員会	76
第15節 感染症対策委員会	77
第16節 コンソーシアム信州運営委員会	78
第17節 防災委員会	79

第 18 節	安全衛生委員会	・ ・ ・ ・ ・	8 2
第 19 節	研究科委員会教務部会	・ ・ ・ ・ ・	8 3
第 20 節	研究科委員会入試部会	・ ・ ・ ・ ・	8 5

第 6 章 学生生活及び学生への支援

第 1 節	学生支援活動	・ ・ ・ ・ ・	8 8
第 2 節	キャリア形成支援	・ ・ ・ ・ ・	9 2
第 3 節	保健厚生	・ ・ ・ ・ ・	9 6
第 4 節	修学資金等	・ ・ ・ ・ ・	9 7
第 5 節	サークル活動及び大学祭	・ ・ ・ ・ ・	9 9
第 6 節	関係団体の活動	・ ・ ・ ・ ・	1 0 0
第 7 節	学生生活アンケート	・ ・ ・ ・ ・	1 0 6

第 7 章 施設の管理運営

第 1 節	施設の状況	・ ・ ・ ・ ・	1 0 9
第 2 節	財政の状況	・ ・ ・ ・ ・	1 1 4

第 8 章 点検・評価総括

・ ・ ・ ・ ・	1 1 7
-----------	-------

自己点検・評価報告書（平成 28 年度）の刊行にあたって

自己点検・評価報告書（報告書）が平成 23 年度から毎年刊行されるようになって、今回で 6 刊目となります。

大学の年間活動の概況をまとめることは、1 年間の取り組みを整理し、次年度への課題を認識することにつながります。つまりは、報告書の刊行は、大学の「自律」と「自治」の取り組みの証と考えます。入学から卒業までの、大学教育を充実させるために教育評価を行ない、教育や大学運営の PDCA サイクルを回し、その積み重ねが確かな歩みとなるよう努力したいと思います。

本学は開学以来、2 回目の基準協会の審査を平成 23 年に終え、平成 30 年に 3 回目の受審に向け進んでいます。その中間点として平成 27 年度 7 月末には、努力課題に対する報告を行い、平成 28 年 4 月 4 日付の基準協会からの検討結果では再度報告を求める事項はありませんでした。平成 28 年度は中期構想 3 年目の年にあたり、海外からの研修等の受け入れも多い年でした。教員の業績評価に加え業務評価を導入し、また、看護実践国際研究センターの活動が新たにスタートした 1 年でもありました。

現在、文部科学省は高大接続システム改革を推進しており、大学入学者選抜改革と大学教育改革が進められています。また、看護系大学の増加に伴って看護教育の質保証が大きな課題となっています。私たちは、これらの課題に取り組みながらも、教員と事務局が協働しながら社会から期待される人材育成に邁進しなければなりません。そして、教員一人一人が着実に研究や社会・地域貢献活動を推進していくためにも、教員の確保に努め、職場環境に目を配りながら、リーダーシップを発揮したいと考えます。

平成 29 年 7 月 5 日

長野県看護大学長 清水嘉子

長野県看護大学の概要

1 設置の趣旨・目的

人口の少子高齢化等の社会環境の変化、医療の専門化・多様化・高度化等の対応に指導的役割を果たし得る資質の高い人材を育成するとともに、看護学の発展に寄与し、看護学の研究・研修の拠点となることを目的とする。

2 学部・学科の構成、入学定員等

構 成	修業年限	定 員	総定員	卒業（修了）時取得可能資格
看護学部看護学科	4 年	入学定員 80名 編入学定員 (3年次)10名 (H28から募集停止)	340名	学士（看護学） 看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格（選択） 養護教諭二種（保健師免許取得後）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	2 年	16名	32名	修士（看護学）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	3 年	4名	12名	博士（看護学）

3 施 設

(1) 所 在 地 長野県駒ヶ根市赤穂1694番地

(2) 敷地面積 75,733.00㎡

(3) 建物延床面積 19,151.22㎡

〔建物等の面積及び主な施設・設備〕

区 分	面 積 (㎡)	主 な 施 設 ・ 設 備
管 理 棟	2,248.81	学長室 事務室 健康センター 保健室 会議室 食堂
教育研究棟	9,079.39	講義室 実習室 実験室 情報処理室 研究室 大学院生室
図 書 館	1,200.62	閲覧室68席 キャレル12席 グループ学習室 AVコーナー
体 育 館	893.68	バスケットボール1面 バレーボール2面
屋内温水プール	1,131.64	25m6コース（内スロープコース1）健康増進研究室
講 堂	962.43	511席 AV設備 ピアノ
学 生 棟	802.21	学生ホール 自治会室 クラブ室
非常勤講師宿舎	328.00	1棟8室
学生寄宿舍	2,504.44	2棟80室
グラウンド	15,948.00	250mトラック テニスコート4面
有酸素運動研究コース	12,505.00	コース延長600m
語らいの並木		90m×2

4 沿革

昭和 60(1985) 年	5 月	・県行政審議会答申 「看護婦養成体制の質的強化を図るため、看護専門学校は、将来一校体制(看護大学等)として充実すべきである。」
平成 2(1990) 年	10 月	・県看護婦等養成確保対策研究会報告 「高度な看護教育を行なうため 4 年制大学を設置する必要がある。」
平成 3(1991) 年	6 月	・看護大学設置決定
	8 月	・県立看護大学設置準備委員会の設置
平成 5(1993) 年	4 月	・看護大学設立準備室の設置
平成 6(1994) 年	12 月	・看護学部看護学科設置認可

平成 7(1995) 年	4 月	・長野県看護大学開学(看護学部看護学科定員 80 名) ・第1回入学式
	6 月	・開学式
平成 9(1997) 年	4 月	・3年次編入制度(定員 10 名)開始
平成 10(1998) 年	4 月	・科目等履修生制度開始
	12 月	・長野県看護大学大学院看護学専攻博士前期課程設置認可
平成 11(1999) 年	3 月	・第 1 回卒業式
	4 月	・大学院博士前期課程(定員 16 名)開設
	11 月	・屋内プール棟完成
平成 12(2000) 年	12 月	・長野県看護大学大学院看護学専攻博士後期課程設置認可
平成 13(2001) 年	3 月	・第 1 回大学院修了式
	4 月	・大学院博士後期課程(定員 4 名)開設
	7 月	・長野県看護大学とサモア国立大学との相互協力に関する協定の締結
平成 15(2003) 年	2 月	・大学院小児看護分野 CNS コース認定申請承認
	4 月	・社会人特別選抜制度開始
	7 月	・長野県看護大学と放送大学との間における単位互換に関する協定の締結
	12 月	・大学院老年看護分野 CNS コースの認定申請承認
平成 16(2004) 年	7 月	・長野県看護大学とカリフォルニア大学サンフランシスコ校との相互協力に関する協定の締結
	11 月	・創立 10 周年記念式典
平成 17(2005) 年	1 月	・長野県内 7 大学単位互換に関する協定締結
平成 19(2007) 年	4 月	・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成 19 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)
平成 20(2008) 年	4 月	・長野県組織規則に看護実践国際研究センターを位置付け
平成 22(2010) 年	3 月	・駒ヶ根市と災害時における協力体制に関する協定を締結
	11 月	・健康センター開設
平成 23(2011) 年	2 月	・大学院小児看護分野の CNS コースの更新申請承認
平成 23(2011) 年	4 月	・講座の再編
	6 月	・認定看護師教育課程開講(皮膚・排泄ケア分野、感染管理分野)
平成 24(2012) 年	3 月	・大学院老年看護分野の CNS コースの更新申請承認
		・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成 24 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)
	4 月	・大学院長期履修制度開始
平成 25(2013) 年	6 月	・認定看護師教育課程認知症看護分野開講、皮膚・排泄ケア分野休講
平成 26(2014) 年	2 月	・駒ヶ根市と長野県看護大学との包括的連携に関する協定締結
	3 月	・大学院精神看護分野 CNS コースの認定申請承認
	11 月	・創立 20 周年記念式典
	12 月	・長野県立こころの医療センター駒ヶ根、伊那中央病院、昭和伊南総合病院、飯田市立病院と看護連携型ユニフィケーション事業基本協定締結
平成 28(2016) 年	4 月	・3年次編入生募集停止

第1章 学事と組織

第1節 教育理念・教育目標

(1) 教育理念

本学は、1995年に長野県立では初めて設立された4年制の看護の単科大学であり、学年進行に沿って、大学院博士前期課程、博士後期課程を開設してきた。それらの時期、および2006年の学部新カリキュラム導入時には、教育理念および教育目標の見直しを行った。教育理念の見直しは、これまでの学生個々人の資質を向上させることに加えて、看護職者としての基本である人間理解、特に人間の生のありようを理解すること（「さまざまな生を営む人間を深く理解し」）を盛り込んでおり、その教育理念は学部・研究科とも共通である。

○本学の教育理念

学生個々人のもつ可能性が最大限に開花することを目指し、自立性、主体性を育むとともに、さまざまな生を営む人間を深く理解し、人々への配慮が自然にできる豊かな人間性と幅広い視野を養う。

これらを基盤として、看護実践に関する総合的な能力を養成し、看護の社会的機能を担い人々の健康福祉の向上に貢献する人材を育成する。さらに、看護の発展に寄与する実践者、教育者及び研究者を育成する。

(2) 学部の教育目標

1. 豊かな人間性と幅広い視野を養う。
 - (1) 学びの体験を通して命の尊さに触れ、人間の理解を深める。
 - (2) 豊かな感受性を養い、想像力と洞察力を身につける。
 - (3) さまざまな文化や社会の中で生活する人々を理解し、多様な価値を尊重できる。
2. 看護専門職者として社会に貢献できる能力を養う。
 - (1) 生命の尊厳を理解し、人間としての権利を尊重して主体的に行動できる。
 - (2) 看護の対象となる人を身体的、精神的、社会文化的側面から全人的に理解できる。
 - (3) 対象となる人の主体性を尊重し、協力して援助関係を築くことができる。
 - (4) あらゆる健康段階にある人々に対して、よりよい社会生活を支援する看護実践を展開できる。
 - (5) 科学的な根拠に基づいて適切な判断を下し、問題を解決することができる。
 - (6) 自らの看護実践をふりかえり、新たな課題に取り組むことができる。
 - (7) 専門職としての責任を自覚して行動し、リーダーシップを発揮できる。
 - (8) 保健・医療・福祉等に携わる人々と協働し、看護をより有効に機能させることができる。
3. 看護実践における課題の究明に取り組む能力を養う。
 - (1) 看護実践における課題を見出すことができる多角的な視点を身につける。
 - (2) 課題解決にむけた創造的で論理的な思考能力を身につける。

（３）学部のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

卒業までに所定の単位を修得し、看護の基盤となる豊かな人間性と幅広い視野を備え、深い人間理解にもとづいた看護を創造的に実践する能力を有すると認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。

- 看護の対象となる人と援助関係を築くことができる
- 科学的なアセスメントに基づいて看護を実践することができる
- ケアに関わる人々と協働することができる
- 看護職者としての専門性を生涯にわたって高めていくことができる

（４）学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学生個々の可能性を最大限開花させるという教育理念のもと、深く人間を理解し豊かな人間性を持った看護専門職の育成のために、４年間のカリキュラムを以下のように構成しています。

【 人間理解の基礎科目 】

看護を学ぶ上で必要不可欠である、人を深く知るための能力、幅広い視野と創造性を養うことを目的としています。

生物学的な存在としての「ヒト」のみならず、自然・文化・社会の中でさまざまな環境と深く関わりながら生活を営む「人」を総体として理解する能力を育むために、以下の２つの科目群で構成されます。

- １．生命を維持する仕組みと機能
- ２．人と人を取り巻く環境

【 看護専門科目 】

看護専門職者としての基盤となる力を育み、看護に関わる諸問題をとらえて論理的に説明し、問題解決に向けた実践・研究能力を養うことを目的としています。以下の４つの科目群で構成されます。

- １．人と健康
- ２．看護の基本
- ３．看護の実践
- ４．看護の実践と統合

このようなカリキュラムをとおして、看護職者としての基礎的な能力を養うとともに、主体性と自律性をもった専門職として生涯にわたり学び続ける力を育みます。

また、長野県民の健康長寿を支える県内の豊かな健康資源について学生が理解し、多様な場で様々な健康レベルに合わせた看護実践能力を身に付けることができるよう、地域交流を積極的に取り入れています。

さらに、国際的な視野を持って地域社会に貢献できる看護実践者の育成を目指し、海外の大学との教育協定等により国際的に看護を学ぶ場を提供しています。

カリキュラムの構成（平成27年度以降入学生）

斜字：選択必修科目及び選択科目

分類	科目群	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年	
		前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期
人間理解の基礎科目	生命を維持する仕組みと機能	生物学 化学 運動実技・理論Ⅰ 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 情報処理科学	生化学 薬理学 人体の構造と機能演習 <i>生命科学演習</i>		運動実技・理論Ⅱ	運動理論			
	人と人を取り巻く環境	統計学 英文読解の基礎 英会話の基礎 教育学 社会学 信州学 数学 英語 コミュニケーション論 心理学	倫理学 医療英文読解演習Ⅰ 医療英会話の基礎Ⅰ 家族社会学 人間発達論 人間関係論 教育心理学	医療英文読解演習Ⅱ 医療英会話の基礎Ⅱ 哲学 文化人類学 経済学 人間工学 臨床心理学	法学 生命倫理	保健統計学 英会話演習 英語文化研究 論理学 医療経済学	芸術と人間		仏語
看護専門科目	人と健康	保健・医療・福祉システム看護論Ⅰ	病理学 病理学演習 公衆衛生学	疾病学Ⅰ 疾病学Ⅱ 感染学 疫学	感染学演習	看護栄養学	遺伝と人間		
	看護の基本	看護学概論 基礎看護方法Ⅰ 基礎看護実習Ⅰ	フィジカルアセスメント 基礎看護方法Ⅱ	看護過程の理論と展開 基礎看護実習Ⅱ		症状マネジメント論	看護倫理		
	看護の実践			慢性期看護概論 老年看護概論 精神看護概論Ⅰ 母性看護概論 小児看護概論Ⅰ 地域看護概論 在宅ケア論	慢性期看護方法 急性期看護概論 老年看護方法Ⅰ 精神看護概論Ⅱ 母性看護方法Ⅰ 小児看護概論Ⅱ 小児看護方法Ⅰ 地域看護方法Ⅰ 在宅ケア方法Ⅰ 家族援助論 多文化共生看護学	急性期看護方法 老年看護方法Ⅱ 精神看護方法 母性看護方法Ⅱ 小児看護方法Ⅱ 地域看護方法Ⅱ 在宅ケア方法Ⅱ 災害看護論 <i>助産概論</i> <i>地域母子保健</i> 助産方法Ⅰ 助産方法Ⅲ <i>国際看護実習</i>	成人看護実習 老年看護実習 精神看護実習 母性看護実習 小児看護実習 地域看護実習 在宅看護実習 <i>助産方法Ⅱ</i>	 <i>助産実習</i>	
	看護の実践と統合					医事法学	看護研究方法	看護管理論 看護統合実習 <i>助産業務管理</i>	<i>看護論</i> <i>看護教育論</i> 卒業研究

（５）学部のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

【求める学生像】

本学は、看護師、保健師、助産師として長野県をはじめ日本各地の医療・保健機関や自治体において、多様な文化を理解し地域社会の人々の健康と幸せを守ることに貢献できる看護実践者の育成を目指しています。

このような多様な可能性をもつ看護実践者の育成を目指す本学では、以下のような人を求めています。

- ①自然や人間の様々な現象に興味を持ち、積極的に学ぼうとする人
- ②相手の話に耳をよく傾け、自分の考えを適切に表現しようとする人
- ③人間の尊厳を重んじ、相手の個性を尊重して協調しようとする人
- ④問題に自ら進んで向き合い、柔軟な考え方で解決しようとする人
- ⑤看護専門職として社会に貢献しようとする人

【選抜方法】

本学の教育理念、求める学生像に見合った人を選抜するため、一般選抜入試(前期日程、後期日程)と特別選抜入試(推薦、社会人)を実施しています。

一般選抜入試では、入学者の選抜は、看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する人を求めるため大学入試センター試験を課し、本学が実施する小論文及び面接並びに調査書の審査の結果を総合して行います。特別選抜入試(推薦)では、本学が実施する小論文(英語の課題文の読解を含む。)及び面接並びに調査書等の審査の結果を総合して行います。

(6) 研究科の教育目標

1. 博士前期課程

- (1) 専門分野に関連する理論と技術を学び、質の高い看護実践能力を養う。
- (2) 研究のプロセスを修得し、研究に必要な基礎的能力を養う。
- (3) 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力を養う。
- (4) 専門性を基盤にして他職種と協働し、調整する能力を養う。

2. 博士後期課程

- (1) 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力を養う。
- (2) 国内外で学術的な交流をする能力を養う。
- (3) 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力を養う。
- (4) 専門性を基盤に、優れた人材を育成する教育能力を養う。

(7) 研究科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

1. 博士前期課程

課程修了の要件を満たし、次に該当する者に修士（看護学）の学位を授与する。

広い視野を持ち看護学に関する専門分野の学識を深め、科学的な思考力を身に付け、保健医療福祉の現場において、研究成果を活用できる高度な専門知識と実践能力を有する者。

修士論文コースにおいては、看護の質向上に貢献できる研究能力を備えた者。

専門看護師コースにおいては、高度な専門知識と実践能力に基づき、多様な健康課題を解決でき、看護の質向上に貢献できる者。

2. 博士後期課程

学際的な視野を持ち、看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力ならびに優れた人材を育成する教育能力を有し、課程修了の要件を満たした者に博士（看護学）の学位を授与する。

(8) 研究科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1. 博士前期課程

博士前期課程では、看護学に関する理論と実践を専門的かつ学際的に探求することを目指し、修士論文コースと専門看護師コースを設け、以下のようにカリキュラムを編成している。

- (1) 広い視野と創造性を養うための科目から編成される「共通選択科目」（8 単位）、修士論文コース・専門看護師コースどちらのコースにおいても看護学の基礎的能力と倫理観を養うための「必修科目」（修士論文コース 12 単位、専門看護師コース 8 単位）を置いている。
- (2) 専門性を深め研究遂行能力を養う、または専門職の実践力を育てるための 4 領域 11 分野において、特論（4 単位以上）、演習（6 単位）を置いている。
- (3) 修士論文の作成にあたっては「修士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、論文作成に着手する手続きを課している。
- (4) 修士論文コースにおいては、学際的な視野から教育を行うために主指導教員に加え副指導教員を配置し、「看護学課題研究」（6 単位）を課している。
- (5) 専門看護師コースにおいては、卓越した専門的能力を育成し、保健医療福祉分野でのケアと倫理的課題について調整する能力を養うため、「専門科目」の特論、演習、実習を置いている。これに加え、実践者としての分析・考察力を養うため「看護実践課題研究」（2 単位）を課している。

(6) 修士論文審査の透明性と客観性を確保するため「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

2. 博士後期課程

博士後期課程では、看護学の発展に貢献する教育者・研究者を養成するために、以下のようにカリキュラムを編成している。

- (1) 学際的視野を広げるため、「共通選択科目」（4単位以上）を置いている。
- (2) 領域別専門科目 9 分野において、専門的な研究能力と倫理観を養うため、特論（2単位）、演習（4単位）を置いている。
- (3) 博士論文の作成にあたっては、「博士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、博士論文作成に着手する手続きを課している。
- (4) 博士論文審査の透明性と客観性を確保するために「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

(9) 研究科のアドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）

【修士課程】

1. 臨床現場の課題を探究し、専門的で質の高い看護実践者となることを目指す人
2. 基礎的研究能力を培い、看護学の探究を目指す人
3. 看護の専門性を基に他職種と協働し、地域の人々の健康への貢献を目指す人

【博士課程】

1. 基礎的な研究能力を有し、人々の健康の保持・増進および生活の質の向上に関連した研究に自立して取り組む人
2. 専門分野で修得した高度な看護実践能力を国際的・学際的な視点から養い、理論的・実践的に発展させる人
3. 高度な研究能力や看護実践能力を看護実践の質の向上や人材の育成に役立てられる人

第2節 大学組織

(1) 組織

1) 組織図

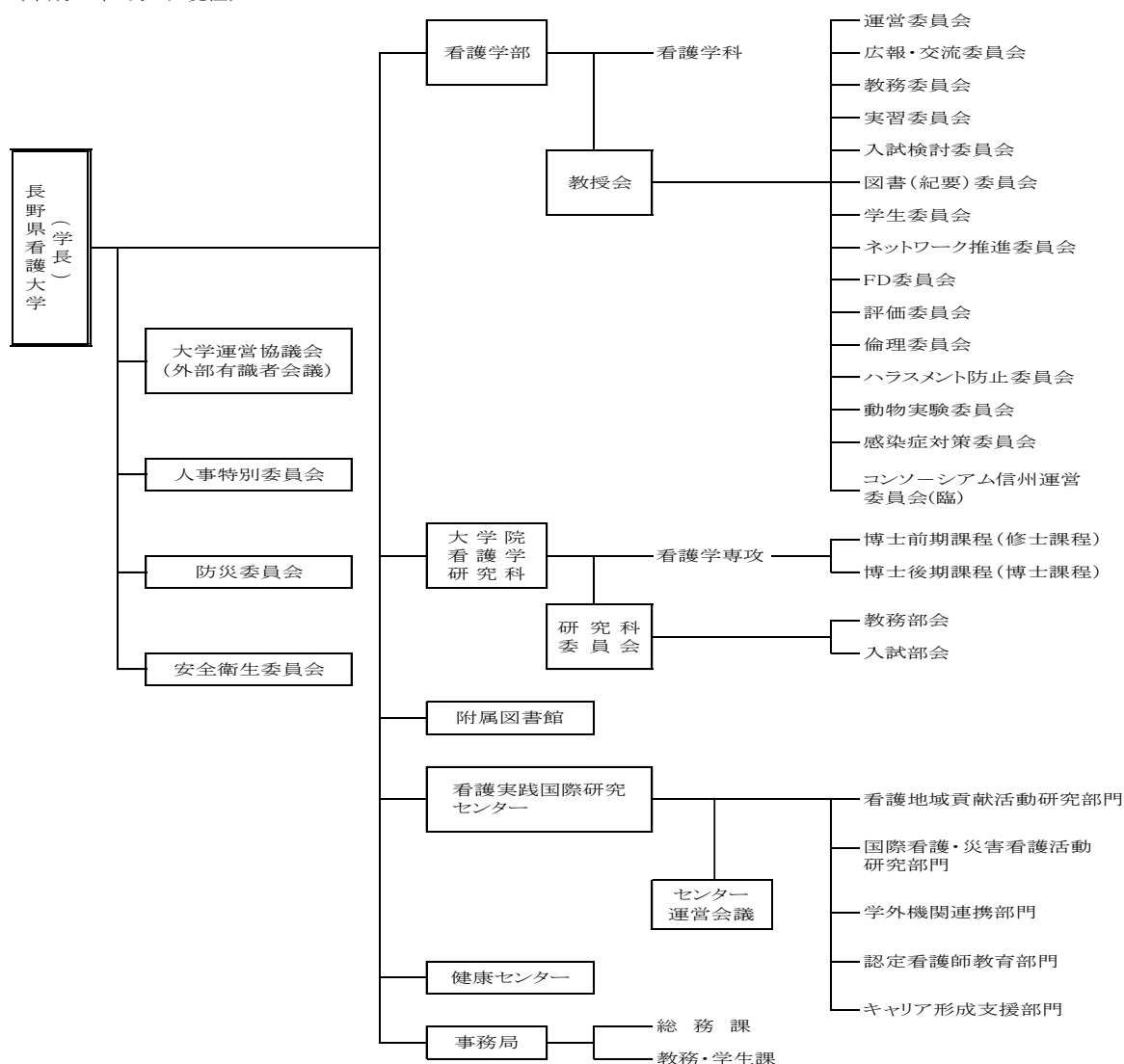
本学の管理運営体制については、設置主体が県であり、知事の指揮監督の下に置かれ、予算については毎年県議会の承認を得るとともに、執行状況について監査委員の監査を受けている。

こうした体系の中で、学内体制は表2-1のとおりとなっており、大学全体の管理運営責任を負う学長の下、大学運営に関する重要事項を審議する機関として教授会及び研究科委員会がある。

また、本学では、教員、大学院生等が専門領域・講座を超えて研究プロジェクトに参加、地域貢献を行う看護実践国際研究センターを設置しており、看護地域貢献活動研究部門他4つの部門が置かれ、各々活動を行っている。

事務局の体制は、大学運営全般を行う総務課と学生支援及び教務全般を業務とする教務・学生課との2つの課で成り立っている。

(表2-1)
(平成28年4月1日現在)



2) 組織構成

①学部は、平成 22 年度に看護学体系における各専門分野間の連携を深めるため、学部講座制の見直しを行い、平成 23 年度から新たに 4 つの大講座に再編を行ったものである。組織構成は、表 2-2 のとおりである。

②研究科は、基本的には学部の教育研究組織の上にのせる形で組織されているが、学部の講座を超えた 5 つで構成している。(表 2-3) そのうち、広域看護学領域の里山・遠隔看護学分野は、本学が立地する長野県の地域特性に配慮した地域貢献の視点からの看護研究の領域・分野として平成 18 年度から開設している。

表2-2 学部の組織構成

人間基礎科学講座	哲学・倫理学分野
	心理学分野
	社会・経済学分野
	健康・保健学分野
	生物・化学分野
	英語・英米文化学分野
	基礎医学・疾病学分野
	病態・治療学分野
基礎看護学講座	基礎看護学分野
発達看護学講座	母性・助産看護学分野
	小児看護学分野
	成人看護学分野
広域看護学講座	老年看護学分野
	精神看護学分野
	地域・在宅看護学分野

表2-3 研究科の組織構成

看護基礎科学領域	病態機能学分野
	病態治療学分野
	基礎看護学領域
基礎看護学領域	基礎看護学分野
	看護管理学分野
	母性・助産看護学分野
発達看護学領域	小児看護学分野
	成人看護学分野
	老年看護学分野
広域看護学領域	精神看護学分野
	地域・在宅看護学分野
	里山・遠隔看護学分野
専門関連領域	哲学・倫理学
	心理学
	社会・経済学
	健康・保健学
	生物・化学
	英語・英米文化学

また、研究科には、質の高い看護実践能力を養うという本学研究科博士前期課程の教育目標に基づいて、平成 13 年度に小児看護学分野・老年看護学分野、平成 24 年度に精神看護学分野の専門看護師(以後 CNS と省略する)コースを開設している。

3) 大学運営協議会

① 概要

県立大学の運営に広く県民の意見を反映させるため、運営協議会を設置している。本協議会は、下表のとおり学外の委員で構成されている。学内規程として「長野県看護大学運営協議会規程」を設けて、協議会の審議結果等を大学運営に反映させるよう定めている。

運営協議会委員名簿（任期：平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月）

区分	職	氏名	所属
地方公共団体	伊那市長	白鳥 孝	市長会 社会環境部会長
看護現場	副院長 看護部長	宮坂 佐知子	諏訪赤十字病院
〃	副院長 看護部長	斎藤 依子	長野県立こども病院
〃	協議会長	山本 由紀子	長野県訪問看護ステーション連絡協議会
保健現場	課長	古畑 崇子	松本市健康福祉部健康づくり課
教育研究機関	学部長	坂江 千寿子	佐久大学
〃	副学監	笠原 悦男	松本歯科大学
〃	学部長	川島 良雄	長野大学社会福祉学部
学識経験者	小児科部長	藪原 明彦	伊那中央病院
卒業生	看護師長	久保 貴三子	諏訪中央病院

（平成 28 年 4 月 1 日現在、敬称略）

② 平成 28 年度の開催概要

開催日	開催場所	協議事項等
平成 28 年 11 月 9 日	看護大学 大会議室	(1)看護大学の概要について ・大学の概要 ・入学者・卒業生の状況 (2)看護大学中期構想の進捗状況について ・中期構想の内容と進捗状況 ・学部教育の充実 ・大学院教育の強化 ・看護実践国際研究センターの強化

(2) 教職員

1) 教職員名簿

① 学部専任教員

(平成28年5月1日現在)

講座	分野	職位	氏名
人間基礎科学		学長	清水嘉子
		学部長	安田貴恵子
		准教授	屋良朝彦
	哲学・倫理学	准教授	松本淳子
	心理学	特任教授	多賀谷昭
	社会・経済学	教授	北山秋雄
	健康・保健学	講師	秋山 剛
	生物・化学	教授	太田克矢
	英語・英米文化学	教授	西垣内磨留美
	基礎医学・疾病学	准教授	井村俊義
		教授	喬 炎
		助教	三浦大志
	病態・治療学	助教	島袋 梢
		教授	坂田憲昭
		助教	中畑千夏子
基礎看護学	基礎看護学	教授	小林たつ子
		教授	伊藤祐紀子
		教授	金子さゆり*
		准教授	宮越幸代
		助教	近藤恵子
		助教	那須淳子
		助教	上條こずえ
		助教	田中真木
		助教	塩澤実香
		助手	田村かおり
発達看護学	母性・助産看護学	准教授	阿部正子
		准教授	藤原聡子
		講師	西村理恵
		助教	塩澤綾乃
		助教	佐々木美果
		助教	廣瀬紀子
		助手	井出彩織
		助手	白川あゆみ

*H28.10.1 着任

講座	分野	職位	氏名
発達看護学	小児看護学	教授	内田雅代
		准教授	竹内幸江
		助教	白井 史
		助教	高橋百合子
	成人看護学	助教	足立美紀
		教授	安東由佳子
		助教	熊谷理恵
		助教	浦野理香
		助手	牛山陽介
		助手	伊藤祐季
広域看護学	老年看護学	教授	渡辺みどり
		准教授	千葉真弓
		助教	細田江美
		助教	曾根千賀子
		助教	有賀智也
		助手	上原 章
	精神看護学	教授	岡田 実
		講師	東 修
		講師	有賀美恵子
		助教	長南幸恵
		助教	森野貴輝
	地域・在宅看護学	教授	安田貴恵子
		講師	御子柴裕子
		講師	柄澤邦江
		講師	小野塚元子
		助教	酒井久美子
		助教	村井ふみ
認定看護師教育課程		助手	中林明子
		助手	下村聡子
		主任教員	中畑千夏子
		主任教員	細田江美
		専任教員	西脇伸也
		専任教員	鎌倉寿美子
		専任教員	高山陽子

② 大学院の領域別科目担当専任教員

(平成28年5月1日現在)

領域	分野	氏名等
	研究科長	渡辺 みどり
看護基礎科学	病態機能学	教 授 喬 炎※
	病態治療学	教 授 太田 克矢※
基礎看護学	基礎看護学	教 授 坂田 憲昭※
		教 授 小林 たつ子※
		教 授 伊藤 祐紀子※
	看護管理学	准教授 宮越 幸代※
発達看護学	看護管理学	教 授 金子さゆり※*
		教 授 清水 嘉子※
		准教授 阿部 正子
		准教授 藤原 聡子
	母性・助産看護学	講 師 西村 理恵
		教 授 内田 雅代※
		准教授 竹内 幸江
	小児看護学	教 授 安東由佳子※
	成人看護学	教 授 安東由佳子※

領域	分野	氏名等
広域看護学	老年看護学	教 授 渡辺 みどり※
		准教授 千葉 真弓
	精神看護学	教 授 岡田 実※
		講 師 東 修
		講 師 有賀 美恵子
	地域・在宅看護学	教 授 安田 貴恵子※
		講 師 柄澤 邦江
		講 師 小野塚元子
	里山・遠隔看護学	教 授 北山 秋雄※
		特任教授 多賀谷 昭※
		講 師 秋 山 剛※
専門関連	倫理学・哲学	准教授 屋良 朝彦※
	心理学	准教授 松本 淳子※
	英語・英米文化学	教 授 西垣内 磨留美※
		准教授 井村 俊義※

※博士後期課程の科目担当専任教員 *H28.10.1 着任

③非常勤講師

看護学部非常勤講師

(平成28年5月1日現在)

担当科目	氏 名	現 職
統計学	中村 寛志	信州大学名誉教授
保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ	原 正光	飯田女子短期大学非常勤講師
教育学	加藤 和之	下條村児童館館長
独語	浜 泰子	信大高等教育システムセンター非常勤講師
数学	二宮 晏	放送大学長野学習センター所長
感染学演習	碓井 之雄	東京医療保健大学医療保健学部教授
人間工学	加藤 麻樹	早稲田大学人間科学部准教授
経済学	樋口 均	信州大学名誉教授
法学	成澤 孝人	信州大学大学院法曹法務研究科教授
看護栄養学	志塚ふじ子	長野県短期大学教授
医療経済学	今野 広紀	日本大学スポーツ科学部准教授
英会話演習	北原アツミ	信州大学非常勤講師
医事法学	浅村 英樹	信州大学医学部教授
芸術と人間	鷺沢寿美子	ピアノ教室「花の会」主宰
	長江 朱夏	八事病院 音楽療法士
人間関係論	原田 慶子	東京純心大学看護学部准教授
運動実践・理論ⅠⅡ、 運動理論、運動心理学Ⅱ	杉本 光公	信州大学学術研究院教授

大学院非常勤講師

(平成28年5月1日現在)

担当科目	氏 名	現 職
看護倫理	小西恵美子	長野県看護大学名誉教授
精神看護学特論	樋掛 忠彦	長野県立こころの医療センター院長
フィジカルアセスメント	山内 豊明	名古屋大学大学院教授
量的研究方法論	萩原 素之	信州大学農学部教授
コミュニティ・デベロップメント論特講	色平 哲郎	佐久総合病院地域医療部地域ケア科医長
	長 純一	石巻市立病院内科部長
語法特殊講義	滝沢 秀男	高崎経済大学非常勤講師
家族看護論	柳原 清子	金沢大学医薬保健学域保健学類准教授
看護理論	阿保 順子	長野県看護大学名誉教授
看護管理学	白鳥さつき	愛知医科大学看護学部教授
看護教育・援助論		
コンサルテーション論	大石ふみ子	愛知医科大学看護学部教授

④事務局

本学の事務組織は、事務局及び附属図書館で構成されている。事務局は、総務課、教務・学生課の2課体制で、事務局長以下職員9名及び嘱託職員3名が配置されている。平成22年までは、事務局外に学生支援として学生部があり、学生支援課と就職支援課の2課体制であったが、組織の見直しを行い、事務局内の教務・学生課として総合的な支援を行っている。

附属図書館には、図書委員会委員長の教員が兼務する図書館長と、司書2名（1名嘱託職員）が配置されている。

事務局職員

(平成28年5月1日現在)

	事務局長	小口由美
総務課	次長	石坂秀彦
	専門幹兼課長補佐	竹澤隆幸
	主幹	知久達彦
	主任	小出誠治
教務・学生課	課長	大日方隆
	課長補佐	小林郁雄
	主事	栗岡真理子
	担当係長保健師	熊谷晶子
図書館	主査学校司書	原 猛
	学校司書	堀内みちよ
行政嘱託員	学生支援員	篠原睦美
	学生支援員	荒巻詩織
	就職支援員	米窪伸一郎

2) 教員の募集・採用状況

教員の募集・採用は、欠員が生じた場合や新たに採用の必要が生じた場合に「長野県看護大学教員選考基準に関する規程」（以下「規程」という。）及び「長野県看護大学教員選考基準細則」（以下「細則」という。）等に基づいて、適時実施している。

原則として公募により募集し、教員選考委員会（選考委員は委員会立ち上げの都度学長が指名）による選考審査を経て、教授会に諮り、採否を決定している。

平成28年度教職員採用状況

(人)

教授	准教授	講師	助教	助手	認定看護師 教育部門	計	学内昇任
3	—	1	2	1	—	(0) 3	—

(注) 上段の () は任期付職員で外書数である（臨任、育休任期付を除く）

(3) 全学委員会

1) 委員会の構成

教授会の下部組織として、委員会組織（常設の委員会 14、臨時の委員会 1）を設置しており、大学運営上の様々な課題については、委員会で検討のうえ、教授会に諮ることとしている。委員会組織は、助教・助手を含む全教員で構成している。

また、研究科委員会においても、下部組織として教務部会と入試部会の二つの部会組織を設けている。両部会は、講師以上の職位にあるものによって構成している。

委員会及び部会等の構成員は、次表のとおりである。

1 教授会委員会等							(H28. 5. 1 現在)
委員会等		委員長等	委 員 等				事務局
教授会	運営委員会	清水学長	安田学部長 坂田教授	渡辺研究科長 内田教授	北山教授 太田教授	西垣内教授 岡田教授 小口事務局長	石坂次長 大日方教学課長
	広報・交流委員会	太田教授	○松本准教授 那須助教	西村講師 塩澤（綾）助教	有賀講師 白井助教	小野塚講師 熊谷助教 下村助手	小林課長補佐
	教務委員会	安田学部長	○伊藤教授 西村講師	安東教授 柄澤講師	屋良准教授 高橋助教	千葉准教授 浦野助教	栗岡主事
	実習委員会	内田教授	伊藤教授 東講師 足立助教	○安東教授 御子柴講師 伊藤助手	阿部准教授 上條助教 上原助手	千葉准教授 廣瀬助教 中林助手	栗岡主事
	入試検討委員会	坂田教授	○北山教授 有賀講師	伊藤教授	井村准教授	竹内准教授	小林課長補佐
	図書委員会 紀要委員会	西垣内教授	○宮越准教授 塩澤（実）助教	藤原准教授 佐々木助教	東講師 村井助教	柄澤講師 白川助手	原主査司書
	学生委員会	岡田教授	※金子教授 御子柴講師 田村助手	松本准教授 長南助教	井村准教授 酒井助教 (就職支援員、学生支援員出席)	○藤原准教授 井出助手	栗岡主事 熊谷保健師
	ネットワーク推進委員会	秋山教授	○東講師	三浦助教	有賀助教	牛山助手	竹澤専門幹
	FD委員会	安東教授	○西垣内教授 島袋助教	宮越准教授 曾根助教	西村講師	小野塚講師	小林課長補佐
	評価委員会	清水学長	○安田学部長 西垣内教授 安東教授 秋山講師	○渡辺研究科長 喬教授 内田教授 井村准教授	北山教授 坂田教授 岡田教授	太田教授 小林教授 小口事務局長	大日方教学課長
	倫理委員会	小林教授	太田教授 ○竹内准教授	※金子教授 秋山講師	屋良准教授 (外部委員)	藤原准教授	知久主幹
	ハラスメント 防止委員会	喬教授	○内田教授 森野助教	西村講師 石坂次長	御子柴講師 大日方教学課長	田中助教	
	動物実験委員会	井村准教授	喬教授	○秋山講師	※金子教授	阿部准教授	知久主幹
	感染症対策委員会	坂田教授	○安田学部長 小口事務局長	内田教授 大日方教学課長	岡田教授 熊谷保健師	中畑助教	
	コンソーシアム信 州運営委員会	喬教授	宮越准教授	○松本准教授			大日方教学課長
人事特別委員会		清水学長	安田学部長	渡辺研究科長	岡田教授	小口事務局長	
防災委員会		宮越准教授	安田学部長 近藤助教	岡田教授 廣瀬助教	○屋良准教授 小口事務局長	柄澤講師 小出主任 竹澤専門幹	
安全衛生委員会		清水学長	東講師 石坂次長	有賀助教 竹澤専門幹	小口事務局長	熊谷保健師	
図書館長		西垣内教授					
学年顧問		1 学年	藤原准教授	小野塚講師	2 学年	有賀講師	島袋助教
		3 学年	千葉准教授	秋山講師	4 学年	竹内准教授	松本准教授

「委員等」欄の氏名に○印がある委員が副委員長

※金子教授は H28. 10. 1 着任

2 研究科委員会

部 会	部会長	部 会 員				事務局
教務部会	渡辺研究科長	北山教授 ※金子教授	○西垣内教授	坂田教授	岡田教授	大日方教学課長
入試部会	北山教授	喬教授	内田教授	岡田教授	○阿部准教授	小林課長補佐

(4) 人事特別委員会

長野県看護大学人事特別委員会設置要綱に基づき、委員会では、教員の処分に関し必要な事項や、教員の職務遂行に関する事項を審査する。

委員会の構成員は、要綱の規定により学長（委員長）、学部長、研究科長、教務委員長、学生委員長、事務局長の6名であり、該当案件が生じた場合に活動を行う。

平成28年度は1回開催し、分野に所属していない教員に関して、28年度の業務実施状況等の確認や、29年度以降の業務内容について検討を行い、必要な事項は教授会で協議した。

(5) 教員業績評価

1) 概 要

平成23年度（対象：22年度）からスタートした教員の業績評価は、長野県看護大学教員として自らの仕事を点検し、よりよい仕事を実践していくために行い、その結果を翌年度の研究費に反映している。

評価は、「教育活動」、「研究活動」、「社会・地域貢献活動」、「大学運営」の4領域について行い、教員が活動実績を自己申告し点数化している。また、評価の最後の部分に記述式の自己評価欄を設けている。そして、自己評価の妥当性を高めるため、分野責任者、講座主任による他者評価を行っている。さらに平成24年度からは、分野や講座を横断する形で大学全体の仕事内容を評価するという観点から、学長による加点を行う仕組みを導入している。

28年度の業績評価（対象：27年度）は、(6)の人事評価の導入に伴い自己評価欄の記載項目を見直したほかは、前年度実施した内容を踏襲した。

なお、29年度に実施する業績評価（対象：28年度）については、看護実践国際研究センターの体制整備などの状況の変化や、教員からの意見・要望を踏まえ、28年度中に評価内容の大幅な見直しを行った。

<集計結果の概要（対象：平成27年度）>

区 分	評価領域・職位別平均					学長 加算後 平均 (A)	最高値 (B)	指 数 (B)/(A)	授業時間	
	教育	研究	地域	運営	小 計				平均	最高
教授(9名)	44.4	42.8	8.6	17.8	113.6	131.9	189.7	144	351.7	945
准教授(8名)	36.1	38.8	5.4	14.7	95.1	113.2	154.8	137	227.9	351
講師(6名)	37.8	25.6	4.1	13.3	80.7	98.2	133.2	136	433.7	734
助教(22名)	33.7	26.5	1.7	9.9	71.9	86.2	119.7	139	700.1	1,154
助手(7名)	33.2	9.0	1.5	9.3	53.0	63.7	81.4	128	910.3	1,136

2) 平成29年度研究費への反映

各職位で、平均100に対する指数値が110以上となった者を研究費の増額対象とした。

(52名中15名が対象：28.8%)

教授：2名、准教授：2名、講師：1名、助教：7名、助手：3名

(6) 教員人事評価

1) 概 要

県が実施している人事評価制度について、地方公務員法等の一部改正に伴い大学教員も対象とすることになったため、平成 28 年度から新たに教員人事評価を実施した。この評価は、教員が教育・研究活動等を遂行するに当たり発揮した能力及び挙げた実績を把握し、主体的な業務の遂行及び人材の育成を行うとともに、能力・実績に基づく人事管理を行うことにより、教育研究等の向上につなげることを目的としている。

<制度の概要>

区 分	人事評価	
	職務遂行力評価	業務評価
概 要	教員に求められる能力や仕事に対する意欲や姿勢を、日常の行動に照らして評価	期首に自らが業務目標を設定し、中間及び期末にその目標の達成度により評価
評価方法	職務遂行力評価表により、次のとおり評価を行う 1 自己評価 2 一次評価 3 二次評価	業務評価シート（目標設定・中間評価・年間評価）により、次のとおり評価を行う 1 自己評価 2 一次評価（評価面談を実施） 3 二次評価

2) 評価結果の活用

評価結果は、査定昇給の際に重要な判断材料として活用した。また、業務評価の結果は勤勉手当に反映した。

(7) 健康センター

1) 概要

精神的な問題や不調を抱える人々は増加し、職場におけるメンタルヘルスの維持・増進は喫緊の課題となっていたため、比較的早期の段階から専門的に関与していく機関として、2010 年 11 月に学長直属の機関として「健康センター」を設置し、精神分野の専門看護師を 1 人配置して、学生や教職員に対する心の健康相談を実施してきた。その後、職場におけるメンタルヘルスが改善されたため、2015 年 7 月から相談員は常勤保健師と非常勤の臨床心理士が担当することとした。

健康センターでは、精神的な問題や不調を抱えている人に対して、治療の必要性の有無を判断し医療につなげること、また現在、治療を受けている学生や教員の場合は、症状の重症化、長期化を防ぎ、早期回復に向けた支援を行うことを目的に、次に掲げる業務を実施している。

- ① 学生・教職員からの相談・指導
- ② 学年顧問など他の相談窓口からの相談への対応
- ③ 休学・休職中の人への復学・復職に向けた支援
- ④ 学内外における心の健康づくりに関すること

2) 実績

<教員及び学生に対する心の健康相談実績（延べ件数）>

年 度	学 生	教 員	合 計
2 4	4 6	1 7	6 3

2 5	8 8	6 0	1 4 8
2 6	7 9	1 6	9 5
2 7	5 2	0	5 2
2 8	4 0	0	4 0

① 学生の相談状況

- ・件数は減少している。
- ・前年度中に、特に友人関係で何らかの問題があった学生が、それを抱えたまま新学期に突入したと思われるケースが数件見受けられた。
- ・単科大学であるが故の人間関係の狭さに起因するものがあると感じられた。
- ・自分の意志でなくしぶしぶ来た、こんなはずではなかったなどからくる「大学をやめたい気持ち」や理想と現実のギャップなどがストレスになっている学生が見受けられた。
- ・一般的に発病が多いと思われる思春期世代であるが、家庭や家族関係の問題が、精神面の不安定さなどに影響を及ぼしていると思われる学生も見受けられる。
- ・大学入学、初めての一人暮らしなどの環境変化によって、発達障害に関する問題が発覚するケースが今後増えるのではないかとと思われる。
- ・年度始めに学生が提出する「健康質問票」のメンタル系の項目にチェックが入っている学生については、個別面接を実施した。

② 教職員の相談状況

- ・センター開設以来、11人の教員の精神疾患に対応してきたが、現在、対応が必要な教員はおらず、28年度中の相談実績もなかった。

3) 課題及び今後の展開

健康センターは、本学関係者の精神疾患の改善に大きな成果をあげてきた。今後も引き続き、学生や教職員に対する相談機能を堅持する必要がある。

しかし、相談者が減少したため、平成27年7月から常勤の精神分野専門看護師の配置を終了し、外部機関から相談員（臨床心理士）を非常勤で雇うことで、必要に応じて心の健康相談が実施可能となるような新たな体制を整備した。今後も学内の状況に応じた体制の整備を行っていく。

第3節 学生の状況

(1) 学部

1) 入学試験の状況

1. 状況

1995年の開学以来、学部入学定員は80名で、3年次に10名の編入生を受け入れていたが、2016年度入学から編入生の募集を停止している。選抜試験では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づく小論文や面接を課して、一般選抜試験、特別選抜試験を行っている。

入学試験の過去5年間の状況は、以下のとおりである。

項目／入試実施年度		H24 (25年度入学)	H25 (26年度入学)	H26 (27年度入学)	H27 (28年度入学)	H28 (29年度入学)
一般入試	志願者	170	261	161	263	213
	合格者	56	56	53	56	56
	入学者(A)	53	53	50	53	54
	入学定員(B)	50	50	50	50	50
	A/B	1.06	1.06	1.00	1.06	1.08

推薦入試	志願者	56	55	55	61	59
	合格者	30	29	28	29	31
	入学者(A)	30	29	28	29	31
	入学定員(B)	30	30	30	30	30
	A/B	1.00	0.97	0.93	0.97	1.03
社会人入試	志願者	5	8	7	8	3
	合格者	3	2	3	3	0
	入学者(A)	2	1	3	3	0
	入学定員(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	A/B	—	—	—	—	—
編入学試験	志願者	24	17	17	—	—
	合格者	10	4	5	—	—
	入学者(A)	2	2	4	—	—
	入学定員(B)	10	10	10	募集停止	募集停止
	A/B	0.20	0.20	0.40	—	—
合計	志願者	255	341	240	332	275
	合格者	96	91	89	88	87
	入学者(A)	87	85	85	85	85
	入学定員(B)	90	90	90	90	90
	A/B	0.97	0.94	0.94	0.94	0.94

(1) 特別選抜試験

県内の高等学校からの推薦を受けた者及び一定の社会人経験を有する者を対象とする選抜である。定員はあわせて 30 名で、同一の小論文試験と面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

- ① 推薦：県内の高等学校の卒業予定者で「全体の評定平均値」が 4.0 以上。推薦枠は各校 2 名（分校は 1 名）以内。
- ② 社会人(平成 15 年度から受け入れ)：大学入学資格と一定の基準による社会人としての経験を 3 年以上有する者。

(2) 一般選抜試験

分離分割方式で前期と後期に分けて実施し、定員は前期日程 42 名、後期日程 8 名である。大学入試センター試験と小論文試験及び個別面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

(3) 編入学試験

専門科目（基礎看護学、在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学）と英語の筆記試験、個別面接を行い、結果を総合的に評価して選抜を行っていたが、編入生の定員割れが続いたこと等から平成 27 年度試験（平成 28 年度入学）から募集を停止している。

2. 課題及び方策

編入制度廃止と、それに伴う学部定員の増（どの試験区分を増とするかを含む。）について、入試検討委員会等で検討していく。

2) 学年別学生数

1. 状況

在校生数は、定数の 340 名に対し、ほぼ同数であり、うち男子学生が全体の 10%程度となっている。また、近年の傾向として卒業延期生が増加している。

県内出身者は全体の 70.1%で、年により増減しているが、従前に比べその率は、高まってきている。

平成28年5月1日 現在

(単位：人)

学 部	総 数	数		県内 出身者	県外 出身者
		男	女		
1 年生	85	7	78	57	28
2 年生	80	9	71	59	21
3 年生	82	7	75	54	28
4 年生	84	6	78	65	19
編入 1 年生	0	0	0	0	0
編入 2 年生	4	2	2	0	4
卒業延期生	6	1	5	4	2
計	341	32	309	239	102

(2) 研究科

1) 入学試験の状況

項目／入試実施年		H24 (25 年度)	H25 (26 年度)	H26 (27 年度)	H27 (28 年度)	H28 (29 年度)
(博士前期) 看護学専攻	志願者	9	4	5	9	6
	合格者	8	4	2	6	5
	入学者(A)	8	4	2	6	5
	入学定員	16	16	16	16	16
	充足率	50%	25%	13%	38%	31%
(博士後期) 看護学専攻	志願者	4	3	2	3	1
	合格者	3	2	2	1	1
	入学者(A)	3	2	2	1	1
	入学定員	4	4	4	4	4
	充足率	75%	50%	50%	25%	25%
合 計	志願者	13	7	7	12	7
	合格者	11	6	4	7	6
	入学者(A)	11	6	4	7	6
	入学定員	20	20	20	20	20
	充足率 A/B	55%	30%	20%	35%	30%

2) 学年別院生数

在学生数は、博士前期課程が定数の 32 名に対し、定員割れが続いている。近年の傾向として、入学者が少なく、休学等による卒業延期生が増加している。

また、博士後期課程は、定数 12 名に対し定員を上回っているが、休学等により標準修業年限を超える学生が多い傾向となっている。

平成28年5月1日 現在 (単位：人)

大学院	総 数		県内 出身者	県外 出身者
	男	女		
修士課程	15	2	13	2
博士課程	13	1	12	9
計	28	3	25	11

(3) 学部及び研究科の休学、退学の状況

学部生は体調不良や進路再検討、大学院生は仕事の都合による休学が多く、そのうちの一部が退学へとつながっている。

1 学部・研究科の退学者数

		平成26年度					平成27年度					平成28年度				
		1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部				1		1	1		1	1	3		1	1		2
研究科	修士課程		1			1		1			1		1			1
	博士課程			1		1			1		1			1		1
	小計	0	1	1		2	0	1	1		2		1	1		2
合計		0	1	3	0	3	1	1	2	1	5	0	2	2	0	4

※ 研究科のうち博士後期課程における単位取得退学者は、退学者数に計上していない。

2 学部・研究科の休学者数

		平成26年度					平成27年度					平成28年度				
		1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部		1	4	2		7	2	2	3	3	10		1	2	2	5
研究科	修士課程		5			5		3			3		2			2
	博士課程		1	3		4			6		6			5		5
	小計	0	6	3		9	0	3	6		9	0	2	5		7
合計		1	10	5	0	16	2	5	9	3	19	0	3	7	2	12

※ 休学者数のうち、年度を越える休学は各年度毎に計上しているが、年度内の同一人物による複数の休学は実人数で計上している。

第2章 年間の活動状況

第1節 学部及び研究科の行事及び教授会活動

(1) 1年間の行事

月 日	内 容	月 日	内 容
4月 4日 (月)	入学式	11月 9日 (水)	大学運営協議会
4月 5日 (火)	教務ガイダンス	11月 12日 (土)	特別選抜入学試験
6日 (水)	健康診断	12月 1日 (木)	※認定看護師教育課程選抜試験
4月 7日 (木)	新入生オリエンテーション	12月 23日 (金)	冬季休業
8日 (金)		～1月 9日 (月)	
4月 5日 (火)	履修登録期間	1月 10日 (火)	後期授業再開
～12日 (火)		1月 14日 (土)	大学入試センター試験
4月 8日 (金)	前期授業開始	15日 (日)	
5月 1日 (日)	創立記念日	1月 21日 (土)	博士前期・後期課程二次募集入学試験
6月 1日 (水)	※認定看護師教育課程開講式	1月 25日 (水)	※認定看護師教育課程修了式
7月 30日 (土)	オープンキャンパス	2月 11日 (土)	春季休業
8月 13日 (土)	夏季休業	～3月 31日 (金)	
～10月 2日 (日)		2月 25日 (土)	一般選抜入学試験（前期）
9月 10日 (土)	鈴風祭	3月 11日 (土)	卒業式・修了式
11日 (日)		3月 14日 (火)	一般選抜入学試験（後期）
10月 3日 (月)	後期授業開始		
10月 15日 (土)	博士後期課程入学試験 博士前期課程入学試験		

※は看護実践国際研究センター認定看護師教育部門の行事

(2) 教授会の活動

回	開催月日	協 議 事 項
1	4月 5日	協議事項なし（報告事項のみ）
2	4月 19日	1 休学願について 2 平成28年度予算状況について 3 社会・人類学の教員（准教授又は講師）の公募について
3	5月 17日	1 入学前の既修得単位の認定について 2 平成28年度学部非常勤講師（追加）について 3 平成28年度入学者選抜に関する要項（案）について 4 JAIROCLOUD 継続加入に伴う料金徴収について 5 「長野県看護大学みらい基金」管理委員会規約改正（案）について（教授のみ）特別な配慮を必要とする教員について
4	6月 7日	1 客員研究員の受入れについて 2 平成28年度下半期教授会日程について 3 平成28年度長野県看護大学臨床教授（案）について
5	6月 21日	1 平成29年度学生募集要項《一般選抜入学試験》（案）について 2 平成29年度学生募集要項《推薦入学試験》（案）について 3 平成29年度学生募集要項《社会人特別選抜試験》（案）について 4 教員の平成27年度の業績評価について 5 教員人事評価の実施（平成28年度～）について
6	7月 5日	1 PsycINFO の契約中止について
7	7月 19日	1 休学願について 2 社会・人類学の教員（准教授又は講師）の採用について（審査結果報告）

8	8月2日	1 老年看護学の任期付き教員（助教又は助手）の公募について 2 教員人事評価について 3 社会・人類学の教員（准教授）の採用について（投票）
9	9月20日	1 国際・災害看護学のポストについて
10	10月4日	1 教員の昇任に関する日程について 2 看護実践国際研究センター実績報告書の作成について （教授のみ）学長の業績評価について
11	10月18日	1 老年看護学任期付教員（助教又は助手）の応募状況について
12	11月1日	1 P s y c I N F O 契約中止について 2 看護大学公的研究費内部監査規程（案）について
13	11月15日	1 平成29年度推薦・社会人入学試験結果について 2 平成29年度学年暦（案）について 3 平成29年度非常勤講師について 4 老年看護学任期付教員（助手）の採用について（審査結果報告） （教授のみ）学長の職務遂行力評価について
臨時	11月16日	1 平成29年度推薦・社会人入学試験結果について
14	12月6日	1 成人看護学【急性期看護学】の教員（講師）の公募について 2 老年看護学任期付教員（助手）の採用について（投票）
15	12月20日	1 教員の退職について 2 科目名等の変更について
16	1月10日	1 臨時的任用（育休任期付）教員の採用について
17	1月17日	1 教員の退職について 2 精神看護学の教員（助教又は助手）の公募について 3 平成29年度科目履修生募集要項について 4 平成29年度県内大学単位互換履修生募集要項について
臨時	1月24日	（教授のみ）成人看護学【急性期看護学】の教員（講師）の採用について（審査結果報告）
18	2月7日	1 平成29年度非常勤講師について 2 平成29年度上半期教授会等の日程について 3 基礎看護学の臨時的任用教員（育休任期付・助教）の採用について 4 任期付職員の任期の更新について 5 基礎看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について 6 成人看護学【急性期看護学】の教員（講師）の採用について
19	2月21日	1 平成28年度卒業認定について 2 助産概論の開講時期の変更について 3 休学願について 4 平成30年度学部入学試験関係日程について
臨時	2月28日	1 平成29年度一般選抜入学試験（前期日程）の試験結果について
20	3月7日	1 平成29年度教授会等の日程（案）について 2 長野県看護大学教授会規程及びFD委員会規程の改正について 3 ハラスメント防止委員の選任について 4 業績評価（対象年度H28年度）の実施内容について
臨時	3月15日	1 平成29年度一般選抜入学試験（後期日程）の試験結果について
21	3月21日	1 休学願について 2 平成28年度単位認定について 3 履修規程の一部改正について 4 看護実践国際研究センター各部門等構成員について 5 看護実践国際研究センター認定看護師教育部門運営規程の改正について 6 教職員の休職について 7 小児看護学、精神看護学の教授人事について

(3) 研究科委員会の活動

回	開催月日	協 議 事 項
1	4 月 19 日	1 退学願について 2 前学期博士論文研究計画書審査体制（案）及び発表会（案）について 3 研究生の研究期間延長について
2	5 月 17 日	1 平成 29 年度大学院博士前期（修士）課程学生募集要項（案）について 2 平成 29 年度大学院博士後期（博士）課程学生募集要項（案）について 3 平成 28 年度修士論文研究テーマ・論文指導及び審査委員（案）について
3	6 月 21 日	1 受験者確保のための医療機関等の訪問について
4	7 月 5 日	1 平成 29 年度県看護大学大学院に関する県内病院等施設訪問について
5	8 月 2 日	1 大学院博士前期課程「英語」問題作成等の変更について
6	9 月 20 日	1 休学願について 2 研究生の研究期間延長について 3 研究生の選考について
7	10 月 4 日	協議事項なし（報告事項のみ）
8	10 月 18 日	1 平成 29 年度博士前期課程入学試験結果について 2 平成 29 年度博士前期課程入学試験（二次募集）について 3 平成 29 年度博士後期課程入学試験（二次募集）について
9	11 月 15 日	1 休学願について 2 平成 29 年度大学院学年暦（案）について （教授のみ）平成 28 年度後期博士論文研究計画書の審査について（審査結果報告及び投票）
10	12 月 6 日	1 休学願について 2 平成 28 年度後期博士論文審査委員（案）について 3 平成 29 年度大学院非常勤講師について
11	1 月 17 日	1 休学願について
12	1 月 24 日	1 平成 29 年度博士前期課程二次募集入学試験結果について 2 平成 29 年度博士後期課程二次募集入学試験結果について
13	2 月 7 日	1 平成 28 年度修士論文発表会について 2 平成 29 年度科目履修生募集要項（案）について 3 平成 29 年度研究生募集要項（案）について 4 平成 29 年度長野県看護大学県内大学単位互換履修生募集要項（案）について
14	2 月 21 日	1 平成 30 年度大学院入学試験関係日程について 2 平成 28 年度博士前期（修士）課程修得単位の認定について 3 平成 28 年度修士論文審査結果及び最終試験結果報告について 4 平成 28 年度博士前期（修士）課程の学位授与について（投票）
15	3 月 21 日	1 長期履修在学期間の短縮について 2 退学願について 3 休学願について 4 博士前期課程の修得単位認定について 5 博士後期課程の修得単位認定について 6 平成 29 年度研究生の選考について 7 平成 29 年度大学院時間割について 8 平成 29 年度大学院学年暦について （教授のみ）研究科委員の学内審査について

第2節 学部の教育活動

(1) カリキュラム

＜必修科目＞

平成28年度入学生

	科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
1 学 年	生 物 学	前学期	1	30	倫 理 学	後学期	1	15
	化 学	前学期	1	30	家 族 社 会 学	後学期	1	15
	運 動 実 技 ・ 理 論 I	前学期	1	30	医 療 英 文 読 解 演 習 I	後学期	1	30
	統 計 学	前学期	1	15	医 療 英 会 話 の 基 礎 I	後学期	1	30
	英 文 読 解 の 基 礎	前学期	1	15	生 化 学	後学期	1	30
	英 会 話 の 基 礎	前学期	1	30	人 体 の 構 造 と 機 能 演 習	後学期	1	30
	人 体 の 構 造 と 機 能 I	前学期	2	30	フイジカルアセスメント	後学期	1	30
	人 体 の 構 造 と 機 能 II	前学期	1	30	病 理 学	後学期	1	15
	看 護 学 概 論	前学期	2	30	薬 理 学	後学期	2	30
	基 礎 看 護 方 法 I	前学期	1	30	病 理 学 演 習	後学期	1	30
	基 礎 看 護 実 習 I	前学期	1	45	基 礎 看 護 方 法 II	後学期	2	60
	保健・医療・福祉システム看護論 I	前学期	1	15	人 間 発 達 論	後学期	1	15
	情 報 処 理 科 学	前学期	1	30	人 間 関 係 論	後学期	1	30
					公 衆 衛 生 学	後学期	1	30
					保健・医療・福祉システム看護論 II	後学期	1	15
					小 計 (28科目)		32	765
2 学 年	臨 床 心 理 学	前学期	1	30	運 動 実 技 ・ 理 論 II	後学期	1	30
	医 療 英 文 読 解 演 習 II	前学期	1	30	感 染 学 演 習	後学期	1	30
	医 療 英 会 話 の 基 礎 II	前学期	1	30	慢 性 期 看 護 方 法	後学期	2	60
	疾 病 学 I	前学期	1	30	急 性 期 看 護 概 論	後学期	1	15
	疾 病 学 II	前学期	1	30	老 年 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	感 染 学	前学期	1	30	精 神 看 護 概 論 II	後学期	1	15
	看護過程の理論と展開	前学期	1	15	母 性 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	慢 性 期 看 護 概 論	前学期	1	15	小 児 看 護 概 論 II	後学期	1	15
	老 年 看 護 概 論	前学期	2	30	小 児 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	精 神 看 護 概 論 I	前学期	1	15	地 域 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	母 性 看 護 概 論	前学期	1	15	家 族 援 助 論	後学期	1	15
	小 児 看 護 概 論 I	前学期	1	15	在 宅 ケ ア 方 法 I	後学期	1	30
	地 域 看 護 概 論	前学期	1	15	多 文 化 共 生 看 護 学	後学期	2	30
	在 宅 ケ ア 論	前学期	1	15	基 礎 看 護 実 習 II	後学期	2	90
	疫 学	前学期	1	30				
					小 計 (29科目)		33	795
3 学 年	医 療 経 済 学	前学期	1	15	災 害 看 護 論	前学期	1	30
	看 護 栄 養 学	前学期	1	15	在 宅 ケ ア 方 法 II	前学期	1	30
	症 状 マ ネ ジ メ ン ト 論	前学期	1	15	保 健 統 計 学	前学期	1	15
	急 性 期 看 護 方 法	前学期	2	60	保健・医療・福祉システム看護論Ⅲ	前学期	1	15
	老 年 看 護 方 法 II	前学期	1	30	遺 伝 と 人 間	後学期	1	15
	精 神 看 護 方 法	前学期	2	60	看 護 倫 理	後学期	1	15
	母 性 看 護 方 法 II	前学期	1	30	看 護 研 究 方 法	後学期	1	30
	小 児 看 護 方 法 II	前学期	1	30				
	地 域 看 護 方 法 II	前学期	1	30	小 計 (16科目)		18	435
4 学 年	看 護 管 理 論	前学期	1	15	卒 業 研 究	全期	4	180
	看 護 統 合 実 習	前学期	2	90	小 計 (3科目)		7	285
3 4 学 年	成 人 看 護 実 習		4	180	小 児 看 護 実 習		3	135
	老 年 看 護 実 習		4	180	地 域 看 護 実 習		4	180
	精 神 看 護 実 習		3	135	在 宅 看 護 実 習		2	90
	母 性 看 護 実 習		2	90	小 計 (7科目)		22	990

必修科目合計

科 目	単位数	時間数
83 科 目	112	3,270

<選択必修科目>

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
教 育 学	1年前学期	2	30	英 会 話 演 習	3年前学期	1	30
教 育 心 理 学	1年後学期	2	30	英 語 文 化 研 究	3年前学期	1	30

<選択科目>

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	1年前学期	1	15	論 理 学	3年前学期	1	15
心 理 学	1年前学期	2	30	運 動 理 論	3年前学期	1	15
社 会 学	1年前学期	2	30	助 産 概 論	3年前学期	1	15
信 州 学	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 I	3年前学期	2	30
数 学	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 II	3年前学期	1	15
独 語	1年前学期	1	15	国 際 看 護 実 習	3年前学期	2	90
生 命 科 学 演 習	1年後学期	1	30	医 事 法 学	3年後学期	1	15
哲 学	2年前学期	2	30	芸 術 と 人 間	3年後学期	2	30
文 化 人 類 学	2年前学期	2	30	地 域 母 子 保 健	3年後学期	1	15
経 済 学	2年前学期	2	30	仏 語	4年後学期	1	15
人 間 工 学	2年前学期	2	30	看 護 論	4年後学期	1	15
生 命 倫 理	2年後学期	1	15	看 護 教 育 論	4年後学期	2	30
法 学	2年後学期	2	30	エ ン カ ウ ン タ ー	4年後学期	1	30

(2) 臨地実習

学年	科 目 名	期 間	単 位
1	基礎看護実習 I	6月20日 ～ 6月24日	1
2	基礎看護実習 II	9月26日 ～ 10月7日 10月11日 ～ 10月21日	2
3	成人看護実習	9月26日 ～ 12月16日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	国際看護実習 (選択)	8月1日 ～ 8月12日	2
	助産実習実習 (選択)	2月13日 ～ 3月12日	10
4	成人看護実習	5月9日 ～ 7月29日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	看護統合実習	8月1日 ～ 8月12日	2
	助産実習実習 (選択)	9月5日 ～ 11月4日	10

(3) 臨地実習施設

① 病 院

施 設 名	所在地	科 目	施 設 名	所在地	科 目
昭和伊南総合病院	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、成人看護、在宅看護、看護総合	こども病院	安曇野市	小児看護、助産
伊那中央病院	伊那市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、母性看護、小児看護、看護総合、助産	下伊那赤十字病院	松川町	在宅看護
こころの医療センター駒ヶ根	駒ヶ根市	精神看護、在宅看護	飯田市立病院	飯田市	基礎看護Ⅰ、看護総合
飯田病院	飯田市	精神看護	諏訪赤十字病院	諏訪市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、看護総合、助産
伊那神経科病院	伊那市	精神看護	諏訪中央病院	茅野市	助産
信州大学医学部附属病院	松本市	精神看護			

② 保健・福祉施設

施 設 名	所在地	科 目	施 設 名	所在地	科 目
エーデルこまがね	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ	親愛の里シンフォニー	宮田村	精神看護
大原こだま園	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ	はなみずきの郷	飯田市	精神看護
観成園	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ	すずたけ	伊那市	老年看護
フラワーハイツ	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ	はびろの里	伊那市	老年看護
ブラムの里	宮田村	基礎看護Ⅰ	センテナリアン	高森町	老年看護
コスモスの家	伊那市	精神看護	信濃医療福祉センター	下諏訪町	在宅看護
たんぼぼの家	駒ヶ根市	精神看護			

③助産所

施 設 名	所在地	科 目	施 設 名	所在地	科 目
おひさま助産院	駒ヶ根市	助産	幸助産院	駒ヶ根市	助産
野ノ花助産院	駒ヶ根市	助産	さくらこ助産院	伊那市	助産

④ 保健福祉事務所

施 設 名	所在地	科 目	施 設 名	所在地	科 目
諏訪保健福祉事務所	諏訪市	地域看護	飯田保健福祉事務所	飯田市	地域看護
伊那保健福祉事務所	伊那市	地域看護	木曾保健福祉事務所	木曾町	地域看護

⑤ 市町村

施 設 名	所在地	科 目	施 設 名	所在地	科 目
伊那市役所	伊那市	地域看護	飯島町役場	飯島町	地域看護
駒ヶ根市役所	駒ヶ根市	地域看護、母性看護	宮田村役場	宮田村	地域看護
辰野町役場	辰野町	地域看護	木曾町役場	木曾町	地域看護
箕輪町役場	箕輪町	地域看護	上松町役場	上松町	地域看護

⑥ 訪問看護ステーション

施 設 名	所在地	科 目	施 設 名	所在地	科 目
伊南訪問看護ステーション	駒ヶ根市	在宅看護	訪問看護ステーションふれあい	箕輪町	在宅看護
訪問看護ステーションすずたけ	伊那市	在宅看護	下伊那赤十字訪問看護ステーション	松川町	在宅看護
訪問看護ステーションみどり	箕輪町	在宅看護	円会訪問看護ステーション	高森町	在宅看護

⑦ 学 校

施 設 名	所在地	科 目	施 設 名	所在地	科 目
伊那西小学校	伊那市	地域看護	辰野南小学校	辰野町	地域看護
高遠小学校	伊那市	地域看護	川島小学校	辰野町	地域看護
高遠北小学校	伊那市	地域看護	中川西小学校	中川村	地域看護
長谷小学校	伊那市	地域看護	中川東小学校	中川村	地域看護
西箕輪小学校	伊那市	地域看護	伊那中学校	伊那市	地域看護
箕輪南小学校	箕輪町	地域看護	南箕輪中学校	南箕輪村	地域看護
南部小学校	南箕輪村	地域看護	中川中学校	中川村	地域看護
辰野東小学校	辰野町	地域看護			

⑧ 保育園

施 設 名	所在地	科 目	施 設 名	所在地	科 目
赤穂保育園	駒ヶ根市	小児看護	すずらん保育園	駒ヶ根市	小児看護
飯坂保育園	駒ヶ根市	小児看護	桜ヶ丘保育園	駒ヶ根市	小児看護
北割保育園	駒ヶ根市	小児看護	福岡保育園	駒ヶ根市	小児看護
経塚保育園	駒ヶ根市	小児看護			

第3節 研究科の教育活動

(1) カリキュラム

1) 授業科目

博士前期(修士)課程授業科目 (平成28年度入学生)

授業科目				科目 番号	単位数	学年別時間数				計
						1年		2年		
						前学期	後学期	前学期	後学期	
必修科目				○ 看護倫理	3201	2	30(一部集中講義)			30
				○ 看護理論	3101	2	30(一部集中講義)			30
				○ 看護研究法	3102	2	30		30	
＊領域別分野専門科目 (10単位)	看護基礎領域	病態機能学分野	○ 病態機能学特論Ⅰ	3401	2	30			30	
			○ 病態機能学特論Ⅱ	3402	2	30			30	
			○ 病態機能学演習	3403	6	90			90	
		病態治療学分野	○ 病態治療学特論Ⅰ	3404	2	30			30	
			○ 病態治療学特論Ⅱ	3405	2	30			30	
			○ 病態治療学演習	3406	6	90			90	
	基礎看護学領域	基礎看護学分野	○ 基礎看護学特論Ⅰ	3411	2	30			30	
			○ 基礎看護学特論Ⅱ	3412	2	30			30	
			○ 基礎看護学演習Ⅰ	3413	6	90			90	
	看護管理学分野	○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅰ	3414	2	30			30		
		○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅱ	3415	2	30			30		
		○ 看護管理学・看護教育学演習Ⅰ	3416	6	90	90		180		
	発達看護学領域	母性・助産看護学分野	○ 母性看護学特論Ⅰ	3242	2	30			30	
			○ 母性看護学特論Ⅱ	3243	2	30			30	
			○ 母性看護学演習Ⅰ	3251	6	90			90	
		小児看護学分野	○ 小児看護学特論Ⅰ	3252	2	30			30	
			○ 小児看護学特論Ⅱ	3253	2	30			30	
			○ 小児看護学演習Ⅰ・A	3247	2	30			30	
			○ 小児看護学演習Ⅰ・B	3248	2	30			30	
			○ 小児看護学演習Ⅰ・C	3249	2	30			30	
			小児看護学実習	3250	6		270		270	
		成人看護学分野	○ 成人看護学特論Ⅰ	3222	2	30			30	
			○ 成人看護学特論Ⅱ	3223	2	30			30	
			○ 成人看護学演習Ⅰ	3235	6	90			90	
	広域看護学領域	老年看護学分野	○ 老年看護学特論Ⅰ	3225	2	30			30	
			○ 老年看護学特論Ⅱ	3226	2	30			30	
			○ 老年看護学特論Ⅲ	3234	2	30			30	
			○ 老年看護学演習Ⅰ・A	3227	2	60			60	
			○ 老年看護学演習Ⅰ・B	3231	2	60			60	
			○ 老年看護学演習Ⅰ・C	3232	2	60			60	
			老年看護学実習	3233	6		270		270	
		精神看護学分野	★ ○ 精神看護学特論Ⅰ	3228	2	30			30	
			★ ○ 精神看護学特論Ⅱ	3229	2	30			30	
			★ ○ 精神看護学特論Ⅲ	3421	2	30			30	
			★ ○ 精神看護学演習Ⅰ・A	3422	2	60			60	
			★ ○ 精神看護学演習Ⅰ・B	3423	2		60		60	
			○ 精神看護学演習Ⅰ・C	3424	2			60	60	
			精神看護学実習	3425	10		450		450	
		地域・在宅看護学分野	○ 地域・在宅看護学特論Ⅰ	3431	2	30			30	
			○ 地域・在宅看護学特論Ⅱ	3432	2	30			30	
			○ 地域・在宅看護学演習Ⅰ	3433	3	90			90	
			○ 地域・在宅看護学演習Ⅱ	3434	3	90			90	
		里山・遠隔看護学分野	★ ○ 里山・遠隔看護学特論Ⅰ	3441	2	30			30	
			★ △ 里山・遠隔看護学特論Ⅱ	3442	2	30			30	
			★ △ 里山・遠隔看護学特論Ⅲ	3443	2	30			30	
			○ 里山・遠隔看護学演習Ⅰ	3444	6	180			180	
選択必修科目	○ 看護学課題研究		3103	6			90	90	180	
(参考) 看護実践課題研究(専門看護師コース)				3104	2		30	30	60	
共通選択科目 (8単位以上)		看護学原論	3501	1	15			15		
		フィジカルアセスメント	3502	2	30(集中講義)			30		
		家族看護論	3503	1	15(一部集中講義)			30		
		健康心理学特論	3510	2	30			30		
		看護心理学	3511	2	30			30		
		質的研究方法論	3505	1	15			15		
		環境疫学特講	3304	1	15			15		
		★ 言語文化特講Ⅰ	3506	2	30			30		
		★ 保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅰ	3307	2	30			30		
		量的研究方法論	3507	1	15			15		
		★ コミュニティ・ディベロップメント論特講	3311	2	30(集中講義)			30		
		語法特殊講義	3314	2	30			30		
		看護海外研修	3315	1	15			15		
		看護臨床薬理学	3508	2	30			30		
		臨床病態学	3509	2	30			30		
		コンサルテーション論	3273	2	30			30		
		看護管理学	3262	2	30			30		
		看護教育・援助論	3261	2	30			30		
		女性と子どもの健康問題と看護	3241	2	30			30		
		★ 遠隔看護論	3281	2	30			30		
		国際看護論	3202	1	15			15		

博士後期課程授業科目（平成 28 年度入学生）

授業科目				科目 番号	単位数	時 間 数			
						1年		計	
						前学期	後学期		
領域別分野専門科目（6単位）	基礎看護学領域	基礎看護学分野	基礎看護学特論Ⅲ	AI01	2	30		30	
			基礎看護学演習Ⅱ	AI02	4		120	120	
		看護管理学分野	看護管理学・看護教育学特論Ⅲ	AJ01	2	30		30	
			看護管理学・看護教育学演習Ⅱ	AJ02	4		120	120	
	発達看護学領域	母性・助産看護学分野	母性看護学特論Ⅲ	AC01	2	30		30	
			母性看護学演習Ⅱ	AC02	4		120	120	
		小児看護学分野	小児看護学特論Ⅲ	AF01	2	30		30	
			小児看護学演習Ⅱ	AF02	4		120	120	
		成人看護学分野	成人看護学特論Ⅲ	AB01	2	30		30	
			成人看護学演習Ⅱ	AB02	4		120	120	
	広域看護学領域	老年看護学分野	老年看護学特論Ⅳ	AB03	2	30		30	
			老年看護学演習Ⅱ	AB04	4		120	120	
		精神看護学分野	精神看護学特論Ⅳ	AB07	2	30		30	
			精神看護学演習Ⅱ	AB06	4		120	120	
		地域・在宅看護学分野	地域・在宅看護学特論Ⅲ	AG01	2	30		30	
			地域・在宅看護学演習Ⅲ	AG02	4		120	120	
		里山・遠隔看護学分野	★ 里山・遠隔看護学特論Ⅳ	AH01	2	30		30	
			里山・遠隔看護学演習Ⅱ	AH02	4		120	120	
	共通選択科目 (4単位以上)			★ ケアの哲学	BA01	2	30		30
				健康心理学特講	BA17	2		30	30
人類学的研究方法論				BA12	2	30		30	
感染生物学特論				BA13	2		30	30	
★ 言語文化特講Ⅱ				BA05	2	30		30	
健康科学特講				BA06	2		30	30	
★ 保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅱ				BA14	2	30		30	
国際看護援助論				BA10	2		30	30	
生命科学特論				BA08	2	30		30	
病理病態学特論				BA15	2	30		30	
★ 現象学的研究方法論				BA16	2	30		30	

★遠隔授業対応科目

第4節 看護実践国際研究センターの活動

概要

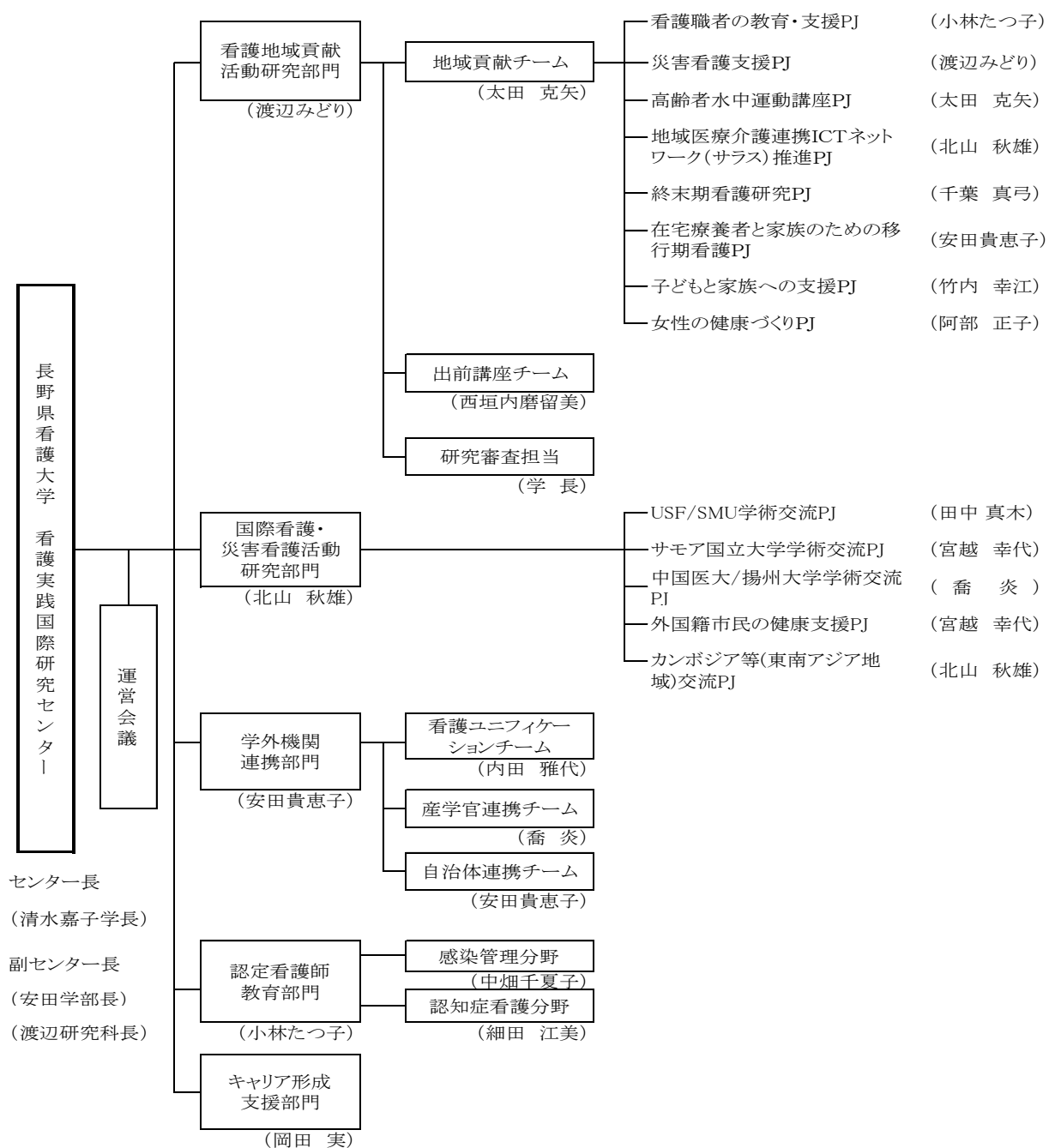
看護実践国際研究センターは国際的視野の涵養を背景に置き、講座や分野などの専門的な枠を超えた研究実践活動部門として平成14年度に設置された。

活動を推進するため、部門の名称・内容・運営等の見直しを行い、28年度より「看護地域貢献活動研究部門」、「国際看護・災害看護活動研究部門」、「学外機関連携部門」、「キャリア形成支援部門」、「認定看護師教育部門」の5つの部門とした。

28年度の活動状況は、看護大学研究集会（平成29年3月17日）で報告された。なお、各部門の活動の詳細については、新たに作成する「看護実践国際研究センター実績報告書」に記載する。

長野県看護大学 看護実践国際研究センター 組織図

平成28年4月1日現在 （ ）内は代表者



1) 看護地域貢献活動研究部門

地域貢献チーム、出前講座チーム、研究審査担当が活動を推進した。

地域貢献チームは、看護職者の教育・支援PJ、災害看護支援PJ、高齢者水中運動講座PJ、地域医療介護連携ICTネットワーク（サラス）推進PJ、終末期看護研究PJ、在宅療養者と家族のための移行期看護PJ、子どもと家族への支援PJ、女性の健康づくりPJが、地域住民へのケアの質やQOLの向上などに貢献する様々な活動を行った。

出前講座チームは、教員による出前講座の平成29年度からのスタートに向け、準備を行った。

研究審査担当は、県内看護職者との共同研究や特別研究・課題研究の審査を行った。

2) 国際看護・災害看護活動研究部門

国際看護、災害看護に関する教育研究を支援する拠点として活動した。

USF/SMU 学術交流PJ、サモア国立大学学術交流PJ、中国医大/揚州大学学術交流PJ、外国籍市民の健康PJ、カンボジア等（東南アジア地域）交流PJが、国際交流活動を推進するとともに、地域との連携を踏まえた防災・災害支援の活動を進めた。

本学に4つの視察団（ネパールポカラ医療スタッフ、台湾台中市朝陽科技大学、ドイツデュースブルク・エッセン大学、揚州大学医学部看護学院）が来訪し、その受け入れを行った。

3) 学外機関連携部門

看護ユニフィケーションチーム、産学官連携チーム、自治体連携チームが活動を推進した。

本学は、平成26年度に南信地域の4病院との間で「看護連携型ユニフィケーション事業基本協定」を締結し、教育連携、相互研修、研究交流を推進しており、看護ユニフィケーションチームは、28年度は臨床研究研修や臨床指導者研修等を開催した。

産学官連携チームは、本学の「知の活用」を図り、学外機関との交流を推進するための窓口として活動しており、共同研究・受託研究の窓口としての活動、「スマート看護・福祉研究会」での活動、伊那谷アグリイノベーション推進機構との連携による活動等が進められた。また、学内教職員を対象に、産学官連携を促進するための研修会を開催した。

自治体連携チームは、駒ヶ根市との包括連携協定に基づく事業の推進を図るため、市における先端的ICTを用いた特定健診受診者のフォローアップシステムの構築に関する研究や、市ネパール交流市民の会の活動への協力、市の少子化対策にかかる事業への協力、市地域包括支援センターと住民の協働活動への支援などを行った。

4) キャリア形成支援部門

本学で看護学を修めた卒業生・修了生が、その後も実践を通して大学との交流を継続できるよう、教育・研究機会の提供、研究活動に係る支援、進学・転職等に係る相談や情報提供などを行っている。

学部卒業生1年目に対する支援として「平成27年度卒業生あつまれ！」を企画し開催するとともに、卒業生に対するキャリア形成支援を検討する資料とするため、職場の支援体制の調査を行った。

5) 認定看護師教育部門

認定看護師教育課程を開講し、感染管理、認知症看護の2分野（定員各20名）の教育を行った。感染管理分野の受講生が減少していることから、県内調査を踏まえて検討を行い、平成29年度は認知症看護分野のみを開講し、定員を25人に増員することとした。

第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修

(1) 国内研修

平成 28 年度に本学教員が国内で受けた研修は、延べ 81 件であった（表 1-1）。
また、この他に CITI Japan e-Learning を 57 名が受講し修了した。

（表 1-1） 本学教員が受けた国内研修（五十音順）

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
足立美紀	平成 28 年 8 月	長野県看護教育研究会 臨床指導者研修会 「これからの看護師を育てる教育を考えるー講義・演習・臨地実習の教育方法ー」	松本市
阿部正子	平成 28 年 6 月	不妊カウンセラー・体外受精コーディネーター養成講座	東京都
	平成 28 年 11 月	公立大学の地域連携に関する協議会	東京都
有賀美恵子	平成 28 年 8 月	教育カウンセラー養成講座（子育て支援カウンセリング講座）	東京都
伊藤佑季	平成 28 年 8 月	長野県看護教員養成講習会公開講座「看護教育は面白い」	松本市
	平成 28 年 8 月	長野県看護協会研修がん看護Ⅱ「がん治療の看護と緩和ケア総論」	松本市
	平成 29 年 1 月	第 28 回日本循環器看護学会教育セミナー（中級編） すぐに活かせる！循環器ケアの know-how	大阪市
伊藤祐紀子	平成 28 年 10 月	平成 28 年度看護学教育ワークショップ 卒業時到達目標の評価をどう行い、どう生かすか～大学改革時代における看護学教育の継続的質改善への挑戦～	千葉市
岡田実	平成 28 年 9 月	第 47 回日本看護学会（精神看護）学術集会	青森市
	平成 28 年 10 月	第 24 回日本精神科救急学会学術総会	久留米市
小野塚元子	平成 28 年 7 月	佐久大学公開講義：「導入基礎演習」プレゼンテーション	佐久市
	平成 28 年 7 月	日本在宅ケア学会（在宅ケア学，小児の在宅ケア）	東京都
	平成 28 年 8 月	LPC 国際フォーラム 2016	東京都
	平成 28 年 9 月	伊那中央病院倫理講演会	伊那市
	平成 28 年 11 月	長野県看護協会研修会（地域包括ケアシステム）	諏訪市
	平成 29 年 1 月	伊那中央病院シンポジウム（多職種連携）	伊那市
上條こずえ	平成 29 年 7 月	産業組織心理学会部門別研究会「働く人々の健康支援-医療従事者の健康支援をめぐる」	東京都
	平成 29 年 3 月	産業組織心理学会部門別研究会「感情労働～医療・福祉の現場から～」	東京都
熊谷理恵	平成 28 年 5 月	第 147 回ホスピスケア研究会	東京都
	平成 28 年 6 月	諏訪緩和ケア研修会 2016	松本市
	平成 28 年 8 月	がん治療の看護と緩和ケア総論	松本市
	平成 29 年 1 月	すぐに活かせる！循環器ケアの know-how	大阪市
近藤恵子	平成 28 年 6 月	長野県看護教員養成講習会 特別講義「看護教育へようこそ」講師：池西静江	松本市
	平成 28 年 10 月	臨床指導者研修会 看護職としての「社会人基礎力」講師：箕浦とき子	松本市
塩澤綾乃	平成 29 年 1～2 月	母乳育児支援 20 時間基礎セミナー	伊那市
島袋梢	平成 28 年 10 月	AMED 感染症セミナー「Synthetic Biology and the Control of Mosquito -borne Diseases」	東京都
	平成 28 年 11 月	第 57 回日本熱帯医学会大会ワークショップ「ジカウイルスの輸入リスクと国内伝播リスクの予想」	東京都

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
島袋梢	平成 28 年 11 月	第 57 回日本熱帯医学会大会ワークショップ「Fever and rash with pneumonia after travel to Indonesia」「A Japanese healthy adult manifesting high fever with lymphadenopathies and systemic rash」	東京都
白井 史	平成 28 年 9 月	先天的発達障害と後天的発達障害の見分け方と対処の仕方	伊那市
高橋百合子	平成 28 年 9 月	平成 28 年度倫理講演会「意思決定を支える医療者の役割」	伊那市
高山陽子	平成 28 年 6 月	第 17 回日本認知症ケア学会	神戸市
	平成 28 年 7 月	第 21 回日本老年看護学術集会	大宮市
	平成 28 年 9 月	認知症看護対応力向上研修	東京都
田中真木	平成 28 年 8 月	東京医科歯科大学看護キャリアパスウェイ教育研究セミナー「看護師がつなぐ退院調整 : 米国のケースマネージャー実践事例から学ぶ」	東京都
長南幸恵	平成 28 年 6 月	画像センシング展	横浜市
	平成 28 年 7 月	自閉症協会第 24 回全国大会 in ながの	長野市
	平成 28 年 7 月	上伊那圏域連携サポート会議	伊那市
	平成 28 年 8 月	NVIVO セミナー	東京都
	平成 28 年 11 月	日本保健医療社会学会研究会	東京都
中林明子	平成 28 年 7 月	日本在宅ケア学会シンポジウム「認知症の方の食支援を考える」	東京都
那須淳子	平成 29 年 1 月	看護キャリアパスウェイ教育研修研究センター国際シンポジウム「看護・教育・シミュレーション」「実践の振り返りの学習効果を上げるファシリテーション」	東京都
西村理恵	平成 28 年 6 月	助産実践応力習熟段階レベルⅢ認証式活用できる研修会（母体救命、助産記録、妊婦のフィジカルアセスメント）	東京都
	平成 28 年 9 月	周産期の精神疾患と母親のメンタルヘルス	松本市
	平成 28 年 10 月	日本助産師会 安全管理研修（周産期のDV、助産記録）	東京都
	平成 28 年 10 月	助産師だからできる明日からの保健指導	松本市
	平成 28 年 11 月	乳房トラブルを予防するための支援を学ぶ ～ポジショニング・ラッチオンの基本をふまえて～	松本市
	平成 29 年 2 月	実践講座 表計算ソフトを活用したデータの集計・分析	松本市
	平成 29 年 2 月	長野県助産師会電話相談報告会/若年妊娠への対応	長野市
	平成 29 年 3 月	新生児蘇生法講習会	安曇野市
藤原聡子	平成 29 年 1 月	日本医史学会 1 月 月例会	東京都
	平成 29 年 3 月	日本医史学会 3 月 月例会	東京都
松本淳子	平成 28 年 4 月	日本認知症ケア学会第 53 回教育講演	東京都
	平成 28 年 10 月	日本教育心理学会第 58 回研究委員会企画チュートリアルセミナー「縦断データ分析のはじめの一歩と二歩」	高松市
	平成 28 年 10 月	日本教育心理学会第 58 回総会準備委員会企画チュートリアルセミナー「教師のための教育心理学研究入門」	高松市
	平成 28 年 11 月	心理研修センター秋季研修会「心理職として産業領域で働くために一働く人を支援する心構え」	摂津市
	平成 28 年 11 月	心理研修センター秋季研修会「発達障害のある児童生徒に見られる読み書き・算数障害の基礎理解と指導」	摂津市
	平成 28 年 12 月	Safe Kids Japan 公開シンポジウム「小さないのちを守るためにできること」	東京都
	平成 29 年 2 月	長野市医師会長野うつ病市民公開講座	長野市

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
松本淳子	平成 29 年 2 月	日本臨床心理士会定例研修会 2（大阪）第 9 回障害の理解と支援に関する総合研修会後期（2）	大阪市
	平成 29 年 2 月	日本認知症ケア学会第 58 回教育講演	大阪市
御子柴裕子	平成 29 年 2 月	JICA 企画型プログラム 事業マネジメント研修 基礎編	松本市
	平成 28 年 6 月 （後日 Web 受講）	第 8 回 JANS セミナー 介入研究ことはじめ－デザインと実施－	東京都（後日 Web 受
	平成 29 年 3 月 （後日 Web 受講）	第 9 回 JANS セミナー 看護研究にいかす統計学の基本	東京都（後日 Web 受
森野貴輝	平成 28 年 5 月	オープンダイアログワークショップ	東京都
宮越幸代	平成 28 年 7 月	JICA 国際協力機構；国際緊急援助隊医療チーム「中級研修」ミッションマネジメント研修	神戸市
	平成 29 年 2 月	JICA 国際協力機構；国際緊急援助隊医療チーム「中級研修」電子カルテ・看護班研修	東京都
	平成 28 年 5 月	日本災害看護学会 災害看護教育活動委員会企画セミナー「語り合おう！災害看護の教授法・国家試験対策」	東京都
	平成 28 年 11 月	長野県看護協会「災害支援ナース」フォローアップ研修	松本市
	平成 29 年 2 月	富士市 DIG（災害図上訓練）市民セミナー	富士市
	平成 28 年 6 月	日本トイレ研究所；災害時トイレ衛生管理講習会「基礎編」	東京都
	平成 28 年 12 月	日本トイレ研究所；災害時トイレ衛生管理講習会「計画編」	東京都
	平成 29 年 2 月	日本赤十字社長野県支部；救急法基礎講習	長野市
安田貴恵子	平成 29 年 7 月	グループファシリテーションの理論とスキル	東京都
	平成 29 年 6 月	平成 28 年度第 1 回大学間連携による地域看護学教育ファカルティデヴェロプメント会議	東京都
	平成 29 年 12 月	平成 28 年度第 2 回大学間連携による地域看護学教育ファカルティデヴェロプメント会議	東京都
屋良朝彦	平成 28 年 5 月	オープンダイアログワークショップ（精神障害者との対話技法）	東京都
	平成 28 年 5 月	日本学術振興会 研究倫理 e ラーニング修了	駒ヶ根市
	平成 28 年 8 月	哲学プラクティス集会（哲学的対話技法の研修）	東京都
	平成 28 年 11 月	あいネット（あいち・リカバリー&地域支援ネットワーク）第 7 回交流会（事例検討会）	名古屋市
	平成 28 年 11 月	できることもちよりワークショップ（でもちワークショップ）	名古屋市

（２）国外研修

平成 28 年度に本学教員が国外で受けた研修は、2 件であった。

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
伊藤祐紀子	平成 29 年 2 月	2016 年度 USF/ SMU 看護海外研修／交流プロジェクト	サンフランシスコ
井村俊義	平成 29 年 2 月	2016 年度 USF/ SMU 看護海外研修／交流プロジェクト	サンフランシスコ

第 2 節 研究活動

（１）助成金による研究活動

① 文部科学省及び日本学術振興会が所管する科学研究費による研究

平成 28 年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った研究は 23 件であった。

継続研究は 16 件、新規の研究は 7 件であった。（表 2・3）

(表 2) 平成 28 年度科学研究費助成事業の採択等の状況

	新 規・継 続			左記のうち新規			補助金額 (千円)
	応募件数	採択件数	採択率	応募件数	採択件数	採択率	
本学応募採択分①	3 6	2 1	58.3%	2 1	6	28.6%	20,050
転出分②		0			0		
転入分③		2			1		864
本学執行分①－②＋③		2 3			7		20,914

(表 3) 平成 28 年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った本学の研究

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
基盤研究(A)	北山秋雄	平成 28～31 年度	地方小都市における最先端ITを用いた認知症トータルケアネットワークシステムの構築
基盤研究(B)	内田雅代	平成 26～29 年度	小児がん看護の標準化を目指した「ガイドライン」の臨床活用の検討とケアモデルの開発
	渡辺みどり	平成 24～28 年度	長寿社会における地域参画型認知症トータルケアプログラムの開発と評価
基盤研究(C)	西垣内磨留美	平成 28～30 年度	看護系大学院生のための英文要約作成支援アプリの検討と開発
	長南幸恵	平成 28～32 年度	ASD児の各感覚の特性と生活の困難さに関する研究
	那須 裕	平成 28～31 年度	中山間地域において16年間継続してきた高齢者水中運動講座の効果の縦断的検証
	曾根千賀子	平成 28～30 年度	認知症看護の自己点検評価法の開発および活用法の検討
	柄澤邦江	平成 28～31 年度	がん終末期独居高齢者の在宅看取りを可能とするための訪問看護の実践と医療・介護連携
	金子さゆり	平成 28～30 年度	看護管理者のコンピテンシー獲得メカニズムの解明と組織的人材育成に関する研究
	屋良朝彦	平成 27～29 年度	応用倫理学における精神医療倫理と合意形成
	松本淳子	平成 26～28 年度	快適な病棟のための音環境デザイン
	太田克矢	平成 26～28 年度	看護学科新入生への理科的基礎知識の教授方法の開発
	塩澤綾乃	平成 26～28 年度	入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児支援プログラムの実施と評価
	阿部正子	平成 26～28 年度	生殖医療に携わる看護師の実践能力開発とキャリア形成支援に関する研究
	千葉真弓	平成 26～29 年度	認知症看護の質評価尺度の開発と臨床適用の検討
	竹内幸江	平成 25～28 年度	きょうだいを亡くした子どもへのグリーフケアの早期介入プログラムに関する研究
	有賀美恵子	平成 25～28 年度	精神疾患が疑われる高校生に対処する養護教諭への支援－早期介入と医療との連携－
挑戦的萌芽研究	有賀智也	平成 27～29 年度	矯正施設で高齢受刑者に携わる看護師が抱える困難感の解明と対処方略の検討
	安東由佳子	平成 26～28 年度	看護キャリアモデル構築につながる大学生への体験交流型教育の試みと有効性の検討
若手研究(B)	佐々木美果	平成 27～28 年度	未就学児をもつシングルマザーが体験している育児上の困難とストレス要因の検討
	高橋百合子	平成 27～29 年度	慢性疾患をもつ子どもと家族に関わる外来看護師への教育支援プログラムの作成と評価

若手研究(B)	熊谷理恵	平成 26～29 年度	がん臨床試験に参加する再発・進行がん患者の意思決定を支援する看護プログラムの開発
	中畑千夏子	平成 25～28 年度	新生児に対する常在細菌の移行・定着を目的とした介護介入の確立

② 長野県看護大学特別研究費による研究

平成 28 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究は、11 件であった。(表 4)
継続研究は 4 件、新規の研究は 7 件であった。

(表 4) 平成 28 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名
内田雅代	平成 26～28 年度	食物アレルギーの子どもをもつ家族のケアニーズと家族会の活動 ～日常および災害時のケアニーズに焦点を当てた家族と医療者との協働～
秋山 剛	平成 27～29 年度	長野県の里親が養育上抱える問題とその社会的支援についての研究
西村理恵	平成 27～28 年度	臨床助産師による助産学生の助産実践能力の査定と教育的支援
安田貴恵子	平成 27～28 年度	長野県看護大学看護学部卒業生のキャリア形成の実態
松本淳子	平成 28～29 年度	病棟における音楽療法の実践と効果
北山秋雄	平成 28～29 年度	駒ヶ根市における先端的 ICT を用いた特定健診データ等の活用に関する研究
喬 炎	平成 28 年度	紫外線を用いる早期褥瘡の診断法の確立
岡田 実	平成 28～29 年度	SALUS によるセミナーを通じて精神科熟練看護師のリーダーシップを促すプログラムの開発とその評価
東 修	平成 28～29 年度	SALUS を活用し看護研究支援プログラムを「エアリーチ」方式によって提供する実験的試みとその評価
安田貴恵子	平成 28～29 年度	新任保健師の実践能力を高める支援方法に関する研究
牛山陽介	平成 28～29 年度	火山災害時の死傷者ケアに必要な看護技術と知識の検討

③ 県内看護職者との共同研究

平成 28 年度に県内看護職者との共同研究費で行った研究は 5 件であった。(表 5)
継続研究は 1 件、新規の研究は 4 件であった。

(表 5) 平成 28 年度に県内看護職者との共同研究費補助金を受けて行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名	担当教員 (代表)
唐澤秀明 (伊那中央病院)	平成 27～28 年度	一般病棟看護師の人工呼吸器装着患者への思い～ケアで大切にしていることに焦点を当てて～	那須淳子 伊藤郁恵
荻原香瑞誉 (安曇野赤十字病院)	平成 28～29 年度	社会人経験を有する新人看護師の職場適応を促す師長の支援	渡辺みどり
前田美香子 (伊那中央病院)	平成 28～29 年度	慢性心不全患者の療養生活支援に向けた訪問看護師と病棟看護師が必要とする情報の捉え方	曾根千賀子 伊藤佑季
永島美典 (東御市健康福祉部)	平成 28～29 年度	ソーシャル・キャピタル低地域で見られる共通要因の特定及び地域ネットワーク活性化への検討 — 一定性的手法による地域比較 —	安田貴恵子 御子柴裕子
杉浦恵子 (松本短期大学看護学科)	平成 28～29 年度	長野県における周産期医療体制改善に向けた助産師の活用の検討	西村理恵

④ その他助成金による研究

平成 28 年度にその他の助成金を受けて行った研究は 3 件であった。(表 6)

(表 6) 平成 28 年度にその他の助成金を受けて行った研究

助成金名称	研究代表者	研究期間	研究課題名
委託研究費	喬 炎	平成 28 年度	水素水浴によるラットドライスキンに対する改善効果の観察 (委託料 300 千円)
長野県科学振興会助成金	島袋 梢	平成 28 年度	日本に分布する感染症媒介蚊ヒトスジシマカの産卵行動と光環境の影響 (助成金 70 千円)
宇流麻学術研究助成基金	島袋 梢	平成 28 年度	感染症媒介蚊のヒト可視光領域外の光波長による行動抑制効果の検討 (助成基金 110 千円)

(2) 分野の研究活動

分野	研究題名	研究内容
小児看護学分野	食物アレルギーの子どもをもつ家族のケアニーズと家族会の活動ー日常及び災害時のケアニーズに焦点を当てた家族と専門職者の協働ー(特別研究費活用)	平成 9 年よりアレルギー疾患をもつ子どもと家族の会「たんぽぽの会」の活動の支援を基に、家族へのケアニーズに関する調査と、保育園における食物アレルギーへの対応について園長及び保育士を対象に調査を行った。その結果、家族との話し合いがなされ、園では誤食防止等の様々な取り組みや子どもへの配慮がなされている実態が確認された。また、家族会の主要メンバーとともに、地域の養護教諭の会への講演を実施し、学校現場の課題の一端を把握できた。これらの結果を踏まえ、家族や専門職にも役立つ食物アレルギーのパフレットを作成し、家族と専門職者の協働を促進していく。
成人看護学分野	在宅パーキンソン病患者が療養生活を継続していくための疾病自己管理方略に関する研究	本研究は、成人期にある在宅パーキンソン病患者(PD 患者)が QOL を維持しながら療養生活を継続していくための疾病自己管理方略を明らかにすることを目的としている。QOL に影響を及ぼす変数は、疾病自己管理行動の中の「好きなこと、楽しいことの継続」、「楽観的に考える」であった。人生や生活へのポジティブな思考や行動が、QOL に影響を及ぼすことが示され、趣味や生きがいをもちながら、楽観的に思考する等の疾病自己管理方略が、在宅 PD 患者には重要であることが示唆された。
老年看護学分野	認知症トータルケアプログラムの開発に関する研究(科学研究費活用)	施設ケアマネジャーの職種と経験年数により、施設で行われている看護実践の違いを具体的に検討した。全国約 980 施設のグループホームを分析対象として先行研究によって得られた 48 項目の看護実践の頻度を比較した。看護系ケアマネジャーは福祉系ケアマネジャーよりも有意に多く実施しているケア項目が確認され、経験 10 年以上のケアマネジャーは 10 年未満よりも有意に多く実施しているケア項目が確認された。
	高齢者への水中運動効果に関する研究(科学研究費活用)	地域在住高齢者における、水中運動による身体機能と転倒予防自己効力感などについての関係が認められた。ことに睡眠障害による薬剤の服用の影響と転倒予防自己効力感の関係が確認された。
	認知症看護の質に関する研究(科学研究費活用)	文献検討により認知症看護に関する質の構成要素を検討した。一般病院における認知症者への看護は、認知症ケアと入院目的となった身体治療を受ける高齢者看護の質の統合により保証されるという概念モデルが導かれた。
精神看護学分野	英国の精神医療における強制治療に関するサービス受給者の満足度に関する基礎研究.	英国 NGO (Mind) による英国内のメンタルヘルスサービス調査(Mental health crisis care: physical restraint in crisis; a report on physical restraint in hospital settings in England, June 2013) を訳出し終えて、各学会で講演のスライドに引用しながら英国における当事者の取組みを紹介してきた。
	英国における精神科救急・急性期看護マニュアルに関する文献研究	救急・急性期看護に歴史を有する英国における精神科救急看護マニュアル(Patroc Callaghan edited: Emergencies in Mental Health, Oxford University Press, 2012, UK) の訳出をほぼ終了し、今後は薬の統一を図りながら、出版化の作業を進めて行く。

精神看護学分野	SalusVision を用いた精神科熟練看護師育成セミナーや看護研究支援プログラムの開発に関する基礎研究	大学研究室と臨床現場を Web 会議システムで接続し、移動の必要がなく大学教員と臨床の看護師が職務中に繋がり、双方向で情報の共有とディスカッションを可能にするプログラムを開発し、人材育成と看護研究支援についてその有効性を試験的に実施している。セミナーは 2 クールを修了し、研究支援プログラムは 1 回目を終えた。
看護学・地域・在宅分野	新任保健師の実践能力を高める支援方法に関する研究	長野県内市町村の新任保健師を対象に、活動経験の実態、実践能力育成につながった経験等について質問紙調査を行い、その結果を県内の保健師人材育成検討会議で報告した。特別研究 A の研究費を得て行った。

(3) その他研究活動

助成金を受けて行った研究活動以外の本学の研究活動については、以下のとおり。

① 著書・翻訳（五十音順）

氏 名	内 容
東 修	東 修 (2017): 紹介文, 響き合う街で No.76 特集, 精神科強制入院に人権を問う。森山公夫, 高岡健, 精神医療(85), 133-135, 批評社, 東京。
伊藤祐紀子	井出 訓、井上洋士戸ヶ里泰典、一戸真子、伊藤祐紀子、熊谷たまき、山崎裕美子 (2016): 第 7 章 i 看護学対象論 f4g 社会・文化と看護 第 12 章 i 人間関係援助論 第 13 章 i 看護過程と看護診断。看護学概説, 一般財団法人放送大学教育振興会出版部。
井村俊義	キャンディ・キャンベル (2016)/井村俊義 (2017): お母さんは看護師。Peripatetic Publishing。
近藤恵子	近藤恵子 (2017): 褥瘡。福井罔彦, 藤田勉, 宮坂元鷹, 脳卒中最前線第 4 版, 436-442, 医歯薬出版, 東京。
西垣内磨留美	西垣内磨留美 (2016): 海を渡ったアイリッシュ・コリー。結城英雄, 夏目康子編, アイリッシュ・アメリカンの文化を読む, 91-106, 水声社, 東京。
	Zora Neale Hurston/松本昇, 西垣内磨留美 (2016): マグノリアの花: 珠玉短編集。彩流社, 東京。
	西垣内磨留美, 山本伸, 馬場聡編 (2017): 衣装が語るアメリカ文学。金星堂, 東京。
	西垣内磨留美 (2017): 隠れて騙る、隠して語る。西垣内磨留美, 山本伸, 馬場聡編, 衣装が語るアメリカ文学, 181-195, 金星堂, 東京。
藤原聡子	城ヶ端初子, 日隈ふみ子, 小山敦代, 藤原聡子 (2016): 第 3 章 各国における看護教育第 4 節 中華人民共和国における看護学教育, 第 8 章 私のキャリア開発。城ヶ端初子, 看護継続教育論, 61-68, 191-197, 久美出版, 京都市。

② 論文（五十音順）

氏 名	内 容
秋山剛	Takeshi Akiyama, Tiengkham Pongvongsa, Souraxay Phommala, Tomoyo Taniguchi, Yuba Inamine, Rie Takeuchi, Tadashi Watanabe, Futoshi Nishimoto, Kazuhiko Moji, Shigeyuki Kano, Hisami Watanabe, and Jun Kobayashi (2016): Asymptomatic malaria, growth status, and anaemia among children in Lao People's Democratic Republic: a cross-sectional study. Malaria Journal, 15: 499.
有賀智也	浦野理香, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 有賀智也, 伊藤佑季, 牛山陽介, 井口志保 (2016): 看護専門職的自律性によるせん妄ケア実施頻度の比較。長野県看護大学紀要, 18:41-52..
	浦野 理香, 渡辺 みどり, 千葉 真弓, 曾根 千賀子, 有賀 智也, 伊藤 佑季, 井口 志保, 牛山 陽介 (2016): A 県における一般病棟看護師のせん妄に対するケアの実施状況と困難感。日本看護福祉学会誌, 61-71.
有賀美恵子	有賀美恵子 (2016): 高校生の登校回避感情とその影響要因。学校メンタルヘルス, 19(1):3-13.
	有賀美恵子 (2016): 精神疾患が疑われる高校生への連携支援における実態と課題。日本養護教諭教育学会誌, 20(1):53-63.
安東由佳子	小林敏生, 山内加奈子, 安東由佳子 (2016): 看護系大学生における職業キャリアレディネスおよび進路選択に対する自己効力感と性格傾向の関連性。教育保健研究, 19 号: 31-37.
伊藤佑季	浦野理香, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 有賀智也, 伊藤佑季, 牛山陽介, 井口志保 (2016): 看護専門職的自律性によるせん妄ケア実施頻度の比較。長野県看護大学紀要, 18:41-52.

氏 名	内 容
伊藤佑季	浦野理香, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 有賀智也, 伊藤佑季, 井口志保, 牛山陽介 (2016): A 県における一般病棟看護師のせん妄に対するケアの実施状況と困難感. 日本看護福祉学会誌, 22(1):61-71.
伊藤祐紀子	芹田典子, 伊藤祐紀子, 土田幸子, 中山貴美子 (2017): 早期体験実習の関する研究の動向と課題. 札幌保健医療大学紀要 第1号, p.29-42.
牛山陽介	浦野理香, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 有賀智也, 伊藤佑季, 牛山陽介, 井口志保 (2016): 看護専門職的自律性によるせん妄ケア実施頻度の比較. 長野県看護大学紀要, 18:41-52.
	浦野 理香, 渡辺 みどり, 千葉 真弓, 曾根 千賀子, 有賀 智也, 伊藤 佑季, 井口 志保, 牛山 陽介 (2017): A 県における一般病棟看護師のせん妄に対するケアの実施状況と困難感. 日本看護福祉学会誌, 22(1):61-71.
浦野理香	浦野理香, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 有賀智也, 伊藤佑季, 牛山陽介, 井口志保 (2016): 看護専門職的自律性によるせん妄ケア実施頻度の比較. 長野県看護大学紀要, 18:41-52.
	浦野 理香, 渡辺 みどり, 千葉 真弓, 曾根 千賀子, 有賀 智也, 伊藤 佑季, 井口 志保, 牛山 陽介 (2017): A 県における一般病棟看護師のせん妄に対するケアの実施状況と困難感. 日本看護福祉学会誌, 22(1):61-71.
金子さゆり	Sayuri Kaneko (2016): Infection control and prevention factors affecting outbreaks of influenza and acute viral gastroenteritis in long-term care facilities in Japan. Journal of Applied Medical Sciences, vol.5, no. 2, 45-55.
	樫野香苗, 金子さゆり (2016): 基礎看護学実習における看護学生の SOC 変化とそれに影響するストレス要因. 名古屋市立大学看護学部紀要, 15, 15-21.
	金川仁子, 伊藤道哉, 尾形倫明, 金子さゆり, 藤森研司 (2016): リハビリテーションの提供体制の違いが主介護者の健康関連 QOL に与える影響. 日本医療マネジメント学会雑誌, 17:1, 14-21.
柄澤邦江	矢澤玲子, 千葉真弓, 渡辺みどり, 柄澤邦江 (2017): 病気とともに在宅で生きる高齢夫婦の関心の進展. 日本看護福祉学会誌, 22(2):155-70.
北山秋雄	吉村隆, 北山秋雄(2016): 中山間地域におけるソーシャル・キャピタルの把握—量的調査方法の検討—, 信州公衆衛生学会, 11(1):13-23.
中林明子	柄澤邦江, 安田貴恵子, 中林明子, 伊藤みほ子, 高橋光子 (2017): 訪問看護における在宅感染予防の実践状況と実践できないケアの理由. 日本赤十字看護学会誌, 53-59.
酒井久美子	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子 (2016): 保健師が行う家庭訪問の意義と技術—A 市「健康づくり家庭訪問事業」に従事した保健師の活動をととして. 長野県看護大学紀要, 18:27-40.
清水嘉子	清水嘉子 (2017): 3 歳の子どもをもつ母親の育児への自信と心身の状態、属性、育児サポートの関連. 母性衛生, VOL57 NO4 p660-668.
	松浦志保, 清水嘉子 (2017): ハイリスクな状態にある初妊婦およびその夫の親準備性—正常経過をたどる初妊婦およびその夫との比較を通して—. 日本助産学会誌, VOL30 NO2 p300-311.
下村聡子	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子 (2016): 保健師が行う家庭訪問の意義と技術—A 市「健康づくり家庭訪問事業」に従事した保健師の活動を通して—. 長野県看護大学紀要, 18:27-40.
曾根千賀子	浦野 理香, 渡辺 みどり, 千葉 真弓, 曾根 千賀子, 有賀 智也, 伊藤 佑季, 牛山 陽介, 井口 志保 (2016): 看護専門職的自律性によるせん妄ケア実施頻度の比較. 長野県看護大学紀要, 18:41-52.
	浦野 理香, 渡辺 みどり, 千葉 真弓, 曾根 千賀子, 有賀 智也, 伊藤 佑季, 井口 志保, 牛山 陽介 (2016): A 県における一般病棟看護師のせん妄に対するケアの実施状況と困難感. 日本看護福祉学会誌, 22(1):61-71.
竹内幸江	高橋百合子, 内田雅代, 白井史, 足立美紀, 竹内幸江, 安田貴恵子 (2016): 医療的ケアを要する子どもの母親と外来看護師双方の関わり方の受け止めに関する研究. 長野県看護大学紀要, 18:15-25.
	竹内幸江, 安田貴恵子, 有賀美恵子, 酒井久美子 (2017): 長野県看護大学看護学部卒業生の動向調査—1 期生(1998 年度卒業)から 16 期生(2013 年度卒業)までの調査. 長野県看護大学紀要, 19, 23-32.
田中真木	田中真木 (2016): 倫理問題への対処行動からみた看護学生の倫理観に関する研究. 看護教育研究学会誌 8 巻 2 号, 35-43.
千葉真弓	浦野理香, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 有賀智也, 伊藤佑季, 牛山陽介, 井口志保 (2016): 看護専門職的自律性によるせん妄ケア実施頻度の比較. 長野県看護大学紀要, 18:41-52.
	浦野 理香, 渡辺 みどり, 千葉 真弓, 曾根 千賀子, 有賀 智也, 伊藤 佑季, 井口 志保, 牛山 陽介 (2017): A 県における一般病棟看護師のせん妄に対するケアの実施状況と困難感. 日本看護福祉学会誌, 22(1):61-71.
	矢澤玲子, 千葉真弓, 渡辺みどり, 柄澤邦江 (2017): 病気とともに在宅で生きる高齢夫婦の関心の進展. 日本看護福祉学会誌, 22(2):155-70.

氏 名	内 容
中林明子	柄澤邦江, 安田貴恵子, 中林明子, 伊藤みほ子, 高橋光子 (2017): 訪問看護における在宅感染予防の実践状況と実践できないケアの理由. 日本赤十字看護学会誌, 53-59.
	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子 (2016): 保健師が行う家庭訪問の意義と技術-A 市「健康づくり家庭訪問事業」に従事した保健師の活動を通して. 長野県看護大学紀要, 18:27-40.
藤原聡子	常淑文・袁媛・廖月霞・藤原聡子・王艷薇・北山秋雄・田村かおり・喬炎 (2017): 中日護理高等教育和入職後継続教育的差異性比較. 中華護理教育, 3 月 14 日論文受理(掲載後ページ書き入れ予定).
御子柴裕子	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子 (2016): 保健師が行う家庭訪問の意義と技術-A 市「健康づくり家庭訪問事業」に従事した保健師の活動を通して. 長野県看護大学紀要, 18:27-40.
村井ふみ	村井ふみ, 安田貴恵子 (2016): A 県における感染症集団発生と保健所保健師による支援経験の現状—高齢者福祉施設への支援の現状と困難さに着目して—. 長野県看護大学紀要, 18:1-13.
	下村聡子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子 (2016): 保健師が行う家庭訪問の意義と技術-A 市「健康づくり家庭訪問事業」に従事した保健師の活動をとおして—. 長野県看護大学紀要, 18:27-40.
安田貴恵子	柄澤邦江, 安田貴恵子, 中林明子, 伊藤みほ子, 高橋光子 (2017): 訪問看護における在宅感染予防の実践状況と実践できないケアの理由. 日本赤十字看護学会誌, 第 17 巻 1 号:53-59.
	柄澤邦江, 清水美穂子, 伊藤みほ子, 安田貴恵子, 中林明子, 大石ふみ子 (2017): 緩和ケア外来に通院する患者の地域緩和ケアに関する認識—地域緩和ケアの充実を図る上での課題. 長野県看護大学紀要, 19:11-22.
	竹内幸江, 安田貴恵子, 有賀美恵子, 酒井久美子 (2017): 長野県看護大学看護学部卒業生の動向調査—1期生(1998 年度卒業)～16 期生(2013 年度卒業)までの調査. 長野県看護大学紀要, 19:23-32.
渡辺みどり	矢澤玲子, 千葉真弓, 渡辺みどり, 柄澤邦江 (2016): 病気とともに在宅で生きる高齢夫婦の関係の進展. 日本看護福祉学会誌, 22:2. 155-170.
	浦野 理香, 渡辺 みどり, 千葉 真弓, 曾根 千賀子, 有賀 智也, 伊藤 佑季, 井口 志保, 牛山 陽介 (2016): A 県における一般病棟看護師のせん妄に対するケアの実施状況と困難感. 日本看護福祉学会誌, 22:2, 61-71.
	浦野理香, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 有賀智也, 伊藤佑季, 牛山陽介, 井口志保 (2016): 看護専門職的自律性によるせん妄ケア実施頻度の比較. 長野県看護大学紀要, 18:41-52.

③ 学会発表 (五十音順)

氏 名	内 容
秋山剛	秋山 剛, 竹内幸枝, 柄澤邦江, 北山秋雄: 専門里親のライフヒストリー. 平成 28 年度長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市.
足立美紀	Masayo Uchida , Fumi Shirai , Yoshie Ohara , Naoko Takenouchi , Mika Hirata , Miki Adachi , Yuriko Takahashi , Sachie Takeuchi: EVALUATION OF NURSING CARE GUIDELINES FOR CHILDREN WITH CANCER AND THEIR FAMILIES IN JAPAN. 48th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology , 2016.10.20, Dublin .
	内田雅代, 白井史, 小原美江, 平田美佳, 竹之内直子, 足立美紀, 高橋百合子, 竹内幸江: 小児がんの子どもと家族のケアに関する看護師の認識 ケア 46 項目の実践の頻度と重要性の程度. 第 14 回日本小児がん看護学会学術集会, 2016.12.16, 東京都.
阿部正子	塩澤綾乃: 小児病棟に入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児支援に対する看護者の課題の認識. 塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵, 2016.6.18, 久留米市.
	佐々木美果, 清水嘉子, 塩澤綾乃, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵: 未就学児をもつシングルマザーの育児ストレスと蓄積疲労. 第 18 回日本母性看護学会学術集会, 2016.6.18, 久留米市.
有賀智也	Tomoya Aruga, Midori Watanabe, Katsuya Ota, Mayumi Chiba, Yuka Matsuzawa, Chikako Sone, Emi Hosoda: Influence of sleep inducing drug on the subjective health status and fall-prevention self-efficacy of the elderly living in a region : Lessons from analysis of the elderly with exercise habits in Japan. 31th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest,Hungary.
	Midori Watanabe, Emi Hosoda, Mayumi Chiba, Chikako Sone, Tomoya Aruga, Yuka Egashira: Individualized care practices in care-homes for elderly people with dementia in Japan : Comparison of administrators' experience of dementia care. 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest,Hungary.
	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 曾根千賀子, 江頭有夏, 細田江美: バランス維持機能と健康関連 QOL および抑うつとの関係. 日本看護福祉学会, 2016.6.25-6.26, 奈良県広陵町.
有賀美恵子	有賀美恵子: 精神疾患が疑われる高校生への養護教諭のかかわり-保護者(家族)との連携支援における課題-. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 2016.12.10, 東京.

氏 名	内 容
安東由佳子	安東由佳子, 阿部朱美, 植木美乃, 山脇健盛, 尾崎伊都子, 大谷玲子, 小林敏生: パーキンソン病患者の疾病自己管理の実態および抑うつとの関連. 日本健康教育学会学術集会, 2016.6.11~12, 沖縄県.
	小林敏生, 山内加奈子, 安東由佳子: 看護系大学生における職業キャリアレディネスと性格傾向の関連. 中国・四国学校保健学会, 2016.6.25~26, 福山市.
	安東由佳子, 金子典代, 池田由紀, 小林敏生: 大学入学早期の看護学生における社会人基礎力と性格傾向および職業キャリアレディネスの関連. 日本看護研究学会学術集会, 2016.8.20~21, つくば.
	Yukako Ando, Akemi Abe, Yoshino Ueki, Takemori Yamawaki, Itsuko Ozaki, Akira Inukai, Ikuko Aiba, Yufuko Saito, Noriyuki Matsukawa, Toshio Kobayashi: Association between QOL and the sense of coherence in patients with Parkinson's disease. 4th World PARKINSON, 2016.9.20-23, Portland.
	Toshio Kobayashi, Akemi Abe, Yoshino Ueki, Takemori Yamawaki, Itsuko Ozaki, Akira Inukai, Ikuko Aiba, Yufuko Saito, Noriyuki Matsukawa, Yukako Ando: Depression and its related factors in patients with Parkinson's disease. 4th World PARKINSON, 2016.9.20-23, Portland.
	安東由佳子, 阿部朱美, 奥田鈴美, 植木美乃, 山脇健盛, 小林敏生: パーキンソン病患者における1年後のうつ発症率およびうつ発症とSOCの関連. パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 2016.10.6~8, 京都.
	熊谷理恵, 安東由佳子: がん患者におけるがん臨床試験参加の意思決定に関する文献検討. 日本がん看護学会学術集会, 2017.2.4-5, 高知.
牛山陽介	太田克矢, 牛山陽介, 竹内幸江, 北山秋雄: 看護学科新入生の理科的基礎知識の状況. 第36回日本看護科学学会学術集会, 2016.12.10, 東京都.
内田雅代	Masayo Uchida, Fumi Shirai, Yoshie Ohara, Naoko Takenouchi, Mika Hirata, Miki Adachi, Yuriko Takahashi, Sachie Takeuchi: EVALUATION OF NURSING CARE GUIDELINES FOR CHILDREN WITH CANCER AND THEIR FAMILIES IN JAPAN. 48th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology, 2016.10.20, Dublin.
	内田雅代, 白井史, 小原美江, 平田美佳, 竹之内直子, 足立美紀, 高橋百合子, 竹内幸江: 小児がんの子どもと家族のケアに関する看護師の認識 ケア46項目の実践の頻度と重要性の程度. 第14回日本小児がん看護学会学術集会, 2016.12.16, 東京都.
江頭有夏	Tomoya Aruga, Midori Watanabe, Katsuya Ota, Mayumi Chiba, Yuka Matsuzawa, Chikako Sone, Emi Hosoda: Influence of sleep inducing drug on the subjective health status and fall-prevention self-efficacy of the elderly living in a region: Lessons from analysis of the elderly with exercise habits in Japan. 31th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
	Midori Watanabe, Emi Hosoda, Mayumi Chiba, Chikako Sone, Tomoya Aruga, Yuka Egashira: Individualized care practices in care-homes for elderly people with dementia in Japan: Comparison of administrators' experience of dementia care. 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 曾根千賀子, 江頭有夏, 細田江美: バランス維持機能と健康関連 QOL および抑うつとの関係. 日本看護福祉学会, 2016.6.25-6.26, 奈良県広陵町.
太田克矢	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 曾根千賀子, 江頭有夏, 細田江美: バランス維持機能と健康関連 QOL および抑うつとの関係. 日本看護福祉学会, 2016.6.25-6.26, 奈良県広陵町.
	太田克矢, 牛山陽介, 竹内幸江, 北山秋雄: 看護学科新入生の理科的基礎知識の状況. 第36回日本看護科学学会学術集会, 2016.12.10, 東京都.
	Marumi Nishigauchi, Katsuya Ota: Educational Support for Japanese Graduate Nurse Students by Developing the Application to Write English Abstracts. 15th Hawaii International Conference on Education, 2017.1.6, Honolulu.
	Tomoya Aruga, Midori Watanabe, Katsuya Ota, Mayumi Chiba, Yuka Matsuzawa, Chikako Sone, Emi Hosoda: Influence of sleep inducing drug on the subjective health status and fall-prevention self-efficacy of the elderly living in a region: Lessons from analysis of the elderly with exercise habits in Japan. 31th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
	Midori Watanabe, Emi Hosoda, Mayumi Chiba, Chikako Sone, Tomoya Aruga, Yuka Egashira: Individualized care practices in care-homes for elderly people with dementia in Japan: Comparison of administrators' experience of dementia care. 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
岡田実	東修, 岡田実, 有賀美恵子, 長南幸恵, 森野貴輝, 塩澤実香, 北山秋雄, 秋山剛: SalusVison®を活用し看護研究支援プログラムを「エアリーチ」方式によって提供する実験的試みとその評価, 平成28年度長野県看護大学研究集会, 2017, 3, 17
	岡田実, 東修, 有賀美恵子, 長南幸恵, 森野貴輝, 北山秋雄, 秋山剛: SalusVison®によるセミナーを通じて精神科熟練看護師のリーダーシップを促すプログラムの開発とその評価, 平成28年度長野県看護大学研究集会, 2017, 3, 17

氏 名	内 容
小野塚元子	小野塚元子、家根明子：学生が認識している課題を踏まえての在宅看護実習の検討。第 29 回日本看護福祉学会, 2016.6.26, 奈良県北葛城郡。
	家根明子、小野塚元子：在宅看護実習における高齢者への訪問活動を通しての学生の学び。日本老年看護学会第 21 回学術集会, 2016.7.23, 大宮市。
金子さゆり	金子さゆり：我が国における看護管理者のコンピテンシー獲得に関する研究動向と課題。第 54 回日本医療・病院管理学会学術集会, 2016.9, 東京。
	井本英津子、金子さゆり：我が国における看護教員の能力に関する研究動向と課題。第 36 回日本看護科学学会学術集会, 2016.12., 東京。
柄澤邦江	秋山 剛, 竹内幸枝, 柄澤邦江, 北山秋雄：専門里親のライフヒストリー。平成 28 年度長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市。
	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子：特定年齢住民への積極的家庭訪問において保健師が活用し集積した地域情報。日本地域看護学会第 19 回学術集会, 2016.8.26-27, 栃木県下野市。
北山秋雄	秋山 剛, 竹内幸枝, 柄澤邦江, 北山秋雄：専門里親のライフヒストリー。平成 28 年度長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市。
	太田克矢, 牛山陽介, 竹内幸江, 北山秋雄：看護学科新入生の理科的基礎知識の状況。第 36 回日本看護科学学会学術集会, 2016.12.10, 東京都。
	喬炎, 三浦大志, 島袋梢, 北山秋雄：紫外線を用いる早期褥瘡の診断法の確立。平成 28 年度長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市。
熊谷理恵	熊谷理恵, 安東由佳子：がん患者におけるがん臨床試験参加の意思決定に関する文献検討。日本がん看護学会学術集会, 2017.2.4-5, 高知。
近藤恵子	伊藤眞由美, 白鳥さつき, 大石ふみ子, 山幡朗子, , 田嶋紀子, 近藤恵子, 草野純子：放射線診療に携わる看護師が実践している医療被曝による有害事象への看護に関する調査。第 5 回日本放射線看護学会, 2016.9.3-4, 東京。
	山幡朗子, 白鳥さつき, 大石ふみ子, 田嶋紀子, 伊藤眞由美, 近藤恵子, 春田佳代：がん放射線療法看護認定看護師の配置の有無による放射線治療患者への看護への影響。第 5 回日本放射線看護学会, 2016.9.3-4, 東京。
	白鳥さつき, 大石ふみ子, 田嶋紀子, 山幡朗子, 伊藤眞由美, 春田佳代, 近藤恵子：全国の看護管理者を対象とした職業被ばくの防護行動に関する調査。第 36 回日本看護科学学会, 2016.12.10-11, 東京。
	伊藤眞由美, 白鳥さつき, 大石ふみ子, 春田佳代, 山幡朗子, 田嶋紀子, 近藤恵子：全国の放射線診療に携わる看護職者を対象とした職業被ばく教育の調査。第 36 回日本看護科学学会, 2016.12.10-11, 東京。
	春田佳代, 白鳥さつき, 大石ふみ子, 田嶋紀子, 山幡朗子, 伊藤眞由美, 近藤恵子：IVR・血管造影部署と一般放射線科外来に携わる看護職者の職業被ばくに関する実態と認識に関する調査。第 36 回日本看護科学学会, 2016.12.10-11, 東京。
酒井久美子	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子：特定年齢住民への積極的家庭訪問において保健師が活用し集積した地域情報。日本地域看護学会第 19 回学術集会, 2016.8.26-27, 栃木県下野市。
佐々木美果	佐々木美果, 清水嘉子, 塩澤綾乃, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵：未就学児をもつシングルマザーの育児ストレスと蓄積疲労。第 18 回日本母性看護学会学術集会, 2016.6.18, 久留米市。
	塩澤綾乃：小児病棟に入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児支援に対する看護者の課題の認識。塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵, 2016.6.18, 久留米市。
塩澤綾乃	塩澤綾乃：小児病棟に入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児支援に対する看護者の課題の認識。塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵, 2016.6.18, 久留米市。
	佐々木美果, 塩澤綾乃, 清水嘉子, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵：未就学児をもつシングルマザーの育児ストレスと蓄積疲労。第 18 回日本母性看護学会学術集会, . 第 18 回日本母性看護学会学術集会, 2016.6.18, 久留米市。
清水嘉子	塩澤綾乃：小児病棟に入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児支援に対する看護者の課題の認識。塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵, 2016.6.18, 久留米市。
	佐々木美果, 清水嘉子, 塩澤綾乃, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵：未就学児をもつシングルマザーの育児ストレスと蓄積疲労。第 18 回日本母性看護学会学術集会, 2016.6.18, 久留米市。
島袋梢	川田均, 中澤秀介, 島袋梢, Dylo Foster Pemba：メフトリン製剤を用いたマラウイ共和国におけるマラリアコントロールに関する小規模試験(2)メフトリン製剤のマラリア媒介蚊個体群に対する密度抑制効果。第 68 回日本衛生動物学会大会, 2016.4.15, 宇都宮市。

氏 名	内 容
島袋梢	喬炎, 三浦大志, 島袋梢: 異なる 5 泉質の天然温泉浸浴による. 第 81 回日本温泉気候物理医学会, 2016.5.14, 渋川市.
	喬炎, 三浦大志, 島袋梢, 北山秋雄: 紫外線を用いる早期褥瘡の診断法の確立. 平成 28 年度長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市.
	喬 炎, 三浦大志, 島袋梢, 王艶薇: 紫外線を用いた褥瘡の早期診断法の開発 ―発赤所見の先は予測可能か―. 第 18 回日本褥瘡学会, 2016.9.2, 横浜市.
下村聡子	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子: 特定年齢住民への積極的家庭訪問において保健師が活用し集積した地域情報. 日本地域看護学会第 19 回学術集会, 2016.8.26-27, 栃木県下野市.
白井史	Masayo Uchida , Fumi Shirai , Yoshie Ohara , Naoko Takenouchi , Mika Hirata , Miki Adachi , Yuriko Takahashi , Sachie Takeuchi: EVALUATION OF NURSING CARE GUIDELINES FOR CHILDREN WITH CANCER AND THEIR FAMILIES IN JAPAN. 48th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology , 2016.10.20, Dublin .
	内田雅代, 白井史, 小原美江, 平田美佳, 竹之内直子, 足立美紀, 高橋百合子, 竹内幸江: 小児がんの子どもと家族のケアに関する看護師の認識 ケア 46 項目の実践の頻度と重要性の程度. 第 14 回日本小児がん看護学会学術集会, 2016.12.16, 東京都.
曾根千賀子	Tomoya Aruga, Midori Watanabe, Katsuya Ota, Mayumi Chica, Yuka Matsuzawa, Chikako Sone, Emi Hosoda: Influence of sleep inducing drug on the subjective health status and fall-prevention self-efficacy of the elderly living in a region : Lessons from analysis of the elderly with exercise habits in Japan. 31th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest,Hungary.
	Midori Watanabe, Emi Hosoda, Mayumi Chiba, Chikako Sone, Tomoya Aruga, Yuka Egashira: Individualized care practices in care-homes for elderly people with dementia in Japan : Comparison of administrators' experience of dementia care. 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest,Hungary.
	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 曾根千賀子, 江頭有夏, 細田江美: バランス維持機能と健康関連 QOL および抑うつとの関係. 日本看護福祉学会, 2016.6.25-6.26, 奈良県広陵町.
	曾根千賀子, 太田勝正: 病院の看護師が認識する認知症看護ケアの実施の程度を構成する因子の比較. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 2016.12.10-11, 東京.
喬炎	喬 炎, 三浦大志, 島袋梢: 異なる 5 泉質の天然温泉浸浴によるドライスキンへの影響. 第 81 回日本温泉気候物理医学会総会, 2016.5.14, 渋川市.
	笠原美咲, 島袋梢, 三浦大志, 喬 炎: 松代温泉水の浸浴によるドライスキンの改善効果. 第 27 回日本温泉地域学会研究大会, 2016.6.6, 下條村.
	喬 炎, 三浦大志, 島袋梢, 王艶薇: 紫外線を用いた褥瘡の早期診断法の開発 ―発赤所見の先は予測可能か―. 第 18 回日本褥瘡学会, 2016.9.2, 横浜市.
	喬 炎, 三浦大志, 小澤恵美, 範江林, 張樹槐: ブルーライトによる褥瘡の早期診断法の開発. 第 4 回看護理工学会, 2016.10.10, 盛岡市.
	喬炎, 三浦大志, 島袋梢, 北山秋雄: 紫外線を用いる早期褥瘡の診断法の確立. 平成 28 年度長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市.
高橋百合子	Masayo Uchida , Fumi Shirai , Yoshie Ohara , Naoko Takenouchi , Mika Hirata , Miki Adachi , Yuriko Takahashi , Sachie Takeuchi: EVALUATION OF NURSING CARE GUIDELINES FOR CHILDREN WITH CANCER AND THEIR FAMILIES IN JAPAN. 48th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology , 2016.10.20, Dublin .
	内田雅代, 白井史, 小原美江, 平田美佳, 竹之内直子, 足立美紀, 高橋百合子, 竹内幸江: 小児がんの子どもと家族のケアに関する看護師の認識 ケア 46 項目の実践の頻度と重要性の程度. 第 14 回日本小児がん看護学会学術集会, 2016.12.16, 東京都.
竹内幸江	林部麻美, 小笠原真織, 竹内幸江: 『A 病院外来における成人移行期支援プログラム』の導入後の小児がん経験者の病気の理解と自己管理状況の変化. 日本小児看護学会第 26 回学術集会, 2016.7.23, 別府市.
	太田克矢, 牛山陽介, 竹内幸江, 北山秋雄: 看護学科新入生の理科的基礎知識の状況. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 2016.12.10, 東京都.
	竹内幸江, 内田雅代, 白井史, 小原美江, 平田美佳, 竹之内直子, 野中淳子, 小川純子, 森美智子: 小児がんの子ども入院環境. 第 14 回日本小児がん看護学会学術集会, 2016.12.16, 東京都.
	内田雅代, 白井史, 小原美江, 平田美佳, 竹之内直子, 足立美紀, 高橋百合子, 竹内幸江: 小児がんの子どもと家族のケアに関する看護師の認識. 第 14 回日本小児がん看護学会学術集会, 2016.12.16, 東京都.
	秋山 剛, 竹内幸枝, 柄澤邦江, 北山秋雄: 専門里親のライフヒストリー. 平成 28 年度長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市.

氏 名	内 容
竹内幸江	Masayo Uchida , Fumi Shirai , Yoshie Ohara , Naoko Takenouchi , Mika Hirata , Miki Adachi , Yuriko Takahashi , Sachie Takeuchi: EVALUATION OF NURSING CARE GUIDELINES FOR CHILDREN WITH CANCER AND THEIR FAMILIES IN JAPAN. 48th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology , 2016.10.20, Dublin .
千葉真弓	Tomoya Aruga, Midori Watanabe, Katsuya Ota, Mayumi Chica, Yuka Matsuzawa, Chikako Sone, Emi Hosoda: Influence of sleep inducing drug on the subjective health status and fall-prevention self-efficacy of the elderly living in a region : Lessons from analysis of the elderly with exercise habits in Japan. 31th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
	Midori WATANABE, Emi HOSODA, Mayumi CHIBA, Chikako SONE, Tomoya ARUGA, Yuka EGASGIRA: Individualized care practices in care-homes for elderly people with dementia in Japan :Comparison of administrators' experience of dementia care. 31th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
	矢澤玲子, 千葉真弓, 渡辺みどり, 柄澤邦江: 病気とともに在宅で生きる高齢夫婦の関係の進展. 第 29 回日本看護福祉学会学術大会, 2016.6.25-26, 奈良県広陵町.
	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 曾根千賀子, 江頭有夏, 細田江美: バランス維持機能と健康関連 QOL および抑うつとの関係. 第 29 回日本看護福祉学会学術大会, 2016.6.25-26, 奈良県広陵町.
中林明子	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子: 特定年齢住民への積極的家庭訪問において保健師が活用し集積した地域情報. 日本地域看護学会第 19 回学術集会, 2016.8.27, 栃木県下野市.
西垣内磨留美	Marumi Nishigauchi: Women's Messages in Disguise. The International Journal of Arts & Sciences' International Conference for. Social Sciences and Humanities 2016, 2016.6.3, Toronto.
	西垣内磨留美: アイリッシュ・アメリカンの歴史的背景と女性. 第 55 回日本アメリカ文学会全国大会, 2016.10.2, 岡山市.
	Marumi Nishigauchi, Katsuya Ota: Educational Support for Japanese Graduate Nurse Students by Developing the Application to Write English Abstracts. 15th Hawaii International Conference on Education, 2017.1.6, Honolulu.
西村理恵	西村理恵, 阿部正子, 藤原聡子, 佐々木美果, 塩澤綾乃, 廣瀬紀子, 井出沙織, 金子さゆり: 臨床助産師による学生の助産実践能力の査定と教育的支援に関する研究. 長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市.
	奥原香織, 杉浦恵子, 西村理恵: 長野県における周産期医療体制改善に向けた助産師の活用の検討. 長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市.
	塩澤綾乃: 小児病棟に入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児支援に対する看護者の課題の認識. 塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵, 2016.6.18, 久留米市.
	佐々木美果, 清水嘉子, 塩澤綾乃, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵: 未就学児をもつシングルマザーの育児ストレスと蓄積疲労. 第 18 回日本母性看護学会学術集会, 2016.6.18, 久留米市.
藤原聡子	塩澤綾乃: 小児病棟に入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児支援に対する看護者の課題の認識. 塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵, 2016.6.18, 久留米市.
	佐々木美果, 清水嘉子, 塩澤綾乃, 阿部正子, 藤原聡子, 西村理恵: 未就学児をもつシングルマザーの育児ストレスと蓄積疲労. 第 18 回日本母性看護学会学術集会, 2016.6.18, 久留米市.
細田江美	Tomoya Aruga, Midori Watanabe, Katsuya Ota, Mayumi Chica, Yuka Matsuzawa, Chikako Sone, Emi Hosoda: Influence of sleep inducing drug on the subjective health status and fall-prevention self-efficacy of the elderly living in a region : Lessons from analysis of the elderly with exercise habits in Japan. 31th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
	Midori Watanabe, Emi Hosoda, Mayumi Chiba, Chikako Sone, Tomoya Aruga, Yuka Egashira: Individualized care practices in care-homes for elderly people with dementia in Japan : Comparison of administrators' experience of dementia care. 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 曾根千賀子, 江頭有夏, 細田江美: バランス維持機能と健康関連 QOL および抑うつとの関係. 日本看護福祉学会, 2016.6.25-6.26, 奈良県広陵町.
松本淳子	Matsumoto, J.: How effectively does Hitokara singing affect mood?. The 31st International Congress of Psychology, 2016.7.28, Yokohama.
	Matsumoto, J.: Differences between participation in typical Karaoke singing and Hitokara singing among college students. The 14th International Conference on Music Perception and Cognition, 2016.7.9, San Francisco.
	松本じゅん子: カラオケとヒトカラの使い分け. 日本音響学会 2016 年秋季研究発表会, 2016.9.14, 富山市.
	松本じゅん子: 中学生における性格特性とコーピングの関連. 日本教育心理学会第 58 回総会, 2016.10.8, 高松市.
	Matsumoto, J.: Differences of characteristics of music singing between in usual Karaoke and in Hitokara. 5th Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan, 2016.12.2, Honolulu.

氏 名	内 容
松本淳子	松本じゅん子, 多賀谷 昭, 北山秋雄: 病棟における音楽療法の実践. 平成 28 年度長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市.
	松本じゅん子: 歌唱形態の違いによる心身への影響. 日本音響学会 2017 年春季研究発表会, 2017.3.16, 川崎市.
三浦大志	二階堂暁, 望月純二, 林大二郎, 岩崎孝俊, 加藤真由美, 幡芳樹, 三浦大志: 心臓リハビリテーション患者におけるSU 剤の功罪. 第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2016.5.19-21, 京都府.
	二階堂暁, 望月純二, 阿部里美, 田辺奈保美, 塩澤康太, 林大二郎, 岩崎孝俊, 小松洋, 遠藤京子, 森朋子, 加藤真由美, 高橋小枝, 幡芳樹, 三浦大志: 心臓リハビリテーションにおける SU 剤の功罪 ～低侵襲心臓 CT による画像解析の有用性～. 第 22 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2016.7.16-17, 東京都.
	二階堂暁, 望月純二, 阿部里美, 田辺奈保美, 塩澤康太, 林大二郎, 岩崎孝俊, 小松洋, 遠藤京子, 森朋子, 加藤真由美, 高橋小枝, 幡芳樹, 三浦大志: 心臓リハビリテーションにおける糖質制限の有効性 ～異所性脂肪に対する影響も踏まえ～. 第 22 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2016.7.16-17, 東京都.
	喬炎, 三浦大志, 島袋梢: 異なる 5 泉質の天然温泉浸浴による. 第 81 回日本温泉気候物理医学会, 2016.5.14, 渋川市.
	喬炎, 三浦大志, 島袋梢, 北山秋雄: 紫外線を用いる早期褥瘡の診断法の確立. 平成 28 年度長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市.
	喬 炎, 三浦大志, 島袋梢, 王艶薇: 紫外線を用いた褥瘡の早期診断法の開発 ―発赤所見の先は予測可能か―. 第 18 回日本褥瘡学会, 2016.9.2, 横浜市.
	喬 炎, 三浦大志, 小澤恵美, 範江林, 張樹槐: ブルーライトによる褥瘡の早期診断法の開発. 第 4 回看護理工学会, 2016.10.10, 盛岡市.
御子柴裕子	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子: 特定年齢住民への積極的家庭訪問において保健師が活用し集積した地域情報. 日本地域看護学会第 19 回学術集会, 2016.8.27, 栃木県下野市.
宮越幸代	宮越幸代: 平成 28 年(大分)熊本地震災害後の支援活動報告ー NPO で派遣された第一次隊看護師の活動ー. 日本災害看護学会第 18 回年次大会, 2016.8.26-27, 久留米市.
	弘中陽子, 宮越幸代: 2015 年ネパール中部地震被災者医療支援活動ー災害人道医療支援会(HuMA)一次隊での現地医療者との協働ー. 日本災害看護学会第 18 回年次大会, 2016.8.26-27, 久留米市.
	宮越幸代: 在日ブラジル人学校での看護学生による健康教育の取り組み. 第 1 回日本 HPH カンファレンス, 2016.10.8, 東京都.
村井ふみ	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子: 特定年齢住民への積極的家庭訪問において保健師が活用し集積した地域情報. 日本地域看護学会第 19 回学術集会, 2016.8.26-27, 栃木県下野市.
森野貴輝	森野貴輝, 竹内幸江, 松本淳子, 有賀美恵子, 高橋百合子, 村井ふみ, 伊藤佑希, 牛山陽介, 井出彩織, 米窪伸一郎, 篠原睦美, 岡田実(部門長): 平成 27 年度卒業生の職場における新人看護職員の支援体制に関する調査報告. 平成 28 年度長野県看護大学研究集会, 2017.3.17, 駒ヶ根市.
安田貴恵子	御子柴裕子, 下村聡子, 安田貴恵子, 酒井久美子, 村井ふみ, 柄澤邦江, 中林明子: 特定年齢住民への積極的家庭訪問において保健師が活用し集積した地域情報. 日本地域看護学会第 19 回学術集会, 2016.8.26-27., 栃木県下野市.
	田村須賀子, 安田貴恵子, 山崎洋子, 高倉恭子: 福祉サービス利用者・家族に対する福祉部門保健師の支援意図. 日本地域看護学会第 19 回学術集会, 2016.8.26-27., 栃木県下野市.
	柄澤邦江, 安田貴恵子: 過疎化高齢化が進む A 地区における独居高齢者の在宅看取りの現状. 日本ルーラルナース学会第 11 回学術集会, 2016.9.3., 山梨県中央市.
	学士課程において家庭訪問実習を通して公衆衛生看護活動を伝える工夫: 田村須賀子, 安田貴恵子, 時田礼子, 山崎洋子. 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 2016.10.26-28., 大阪市.
屋良朝彦	屋良朝彦: 精神障害者支援における 対話の有効性に関する 哲学的考察. 第 35 回日本医学哲学・倫理学会. 2016.11.05. 兵庫県明石市.
渡辺みどり	Tomoya Aruga, Midori Watanabe, Katsuya Ota, Mayumi Chica, Yuka Matsuzawa, Chikako Sone, Emi Hosoda: Influence of sleep inducing drug on the subjective health status and fall-prevention self-efficacy of the elderly living in a region : Lessons from analysis of the elderly with exercise habits in Japan.. 31th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
	Midori Watanabe, Emi Hosoda, Mayumi Chiba, Chikako Sone, Tomoya Aruga, Yuka Egashira: Individualized care practices in care-homes for elderly people with dementia in Japan : Comparison of administrators' experience of dementia care. 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 曾根千賀子, 江頭有夏, 細田江美: バランス維持機能と健康関連 QOL および抑うつとの関係. 第 29 回日本看護福祉学会学術大会, 2016.6.25-26, 奈良県広陵町.

④ 研究報告書（五十音順）

氏 名	内 容
安東由佳子	安東由佳子、阿部朱美、奥田鈴美、植木美乃、松川則之、山脇健盛、小林敏生： パーキンソン病患者における抑うつ症状の発症・進行に関与する心理・社会的要因の検討。公益財団法人メンタルヘルス岡本記念財団 研究助成報告書 2016 年度(第 28 号), 7-11, 2017.
酒井久美子	安田貴恵子、竹内幸江、有賀美恵子、酒井久美子：長野県看護大学学部卒業生の動向とキャリア形成の実態。平成 27-28 年度長野県看護大学特別研究費課題研究報告書。1-12, 2017.
松本淳子	松本じゅん子、多賀谷 昭、北山秋雄：心身の健康におけるカラオケの効果。平成 26-27 年度長野県看護大学特別研究費補助金研究成果報告書。2016.
安田貴恵子	安田貴恵子、竹内幸江、有賀美恵子、酒井久美子：長野県看護大学学部卒業生の動向とキャリア形成の実態。平成 27-28 年度長野県看護大学特別研究費課題研究報告書。1-12, 2017.

⑤ 講演等（五十音順）

氏 名	内 容
東修	東修：メンタルヘルス-気持の切り替えを中心に-, 2016.6.3, 飯田市, 健和会病院.
	東修：ストレスマネジメント-日常生活にポジティブサイコロジーを！-, 2016.7.5, 函館市, 市立函館病院.
	東修：ストレスマネジメント, 2016.10.12, 松本市, 看護協会.
	東修：TRUE COLORS 入門講座, 2017.1.30, 函館市, 市立函館病院.
足立美紀	内田雅代、足立美紀、宮下かおり：食物アレルギーの幼児をもつ親のケアニーズ-普段の生活と災害時における心配-。上伊那地域看護教諭研修会, 2016.7.29, 伊那市.
有賀智也	有賀智也：アセスメントと援助技術。平成 28 年度 認知症看護対応力向上研修会, 2016.12.19-20, 駒ヶ根市.
	有賀智也：BPSD について。看護職員認知症対応力向上研修事業, 2017.1.14-16, 長野市.
井村俊義	井村俊義：看護以前の思想-近代看護の相対化。精神医療倫理科研第 3 回研究会, 2016.9.18, 駒ヶ根市.
岡田実	岡田実：看護職のメンタルヘルス, 第 47 回日本看護学会(精神看護)学術集会, 2016. 9. 16, 青森市
小野塚元子	小野塚元子：地域連携。看護職員認知症対応力向上研修事業, 2017.2.14-16, 長野市.
	小野塚元子：地域包括ケアと退院支援。平成 28 年度 認知症看護対応力向上研修会, 2016.12.19-20, 駒ヶ根市.
近藤恵子	近藤恵子：褥瘡ケア。2016.5.31, 松本.
	近藤恵子：褥瘡の評価とケアの実践。メディカルケアサポートセミナー in 千葉, 2016.7.9, 千葉県.
	近藤恵子：治療概論 看護師の立場として。メディカルケアサポートセミナー in 横浜, 2016.7.30, 横浜市.
	近藤恵子：退院後のスーパ合併症と生活。日本オストミー協会長野県支部, 2016.11.5, 伊那市.
曾根千賀子	曾根千賀子：第 1 部: 科研の申請に際し考えたこと。科研費獲得のための研修会および説明会, 2016.9.7, 駒ヶ根市.
	曾根千賀子：入院中の認知症患者に必要なアセスメントと援助技術。平成 28 年度 認知症看護対応力向上研修会, 2016.12.19.-20, 駒ヶ根市.
	曾根千賀子：せん妄の知識と対応。看護職員認知症対応力向上研修事業, 2017.1.14-16, 長野市.
喬 炎	喬 炎：紫外線を用いた褥瘡の早期診断法の開発。中国医科大学特別講演会, 2016.9.14, 中国 瀋陽市.
千葉真弓	千葉真弓：認知症の病態・アセスメント・基本的対応。看護職員認知症対応力向上研修事業, 2017.2.14-16, 長野市.
西垣内磨留美	西垣内磨留美：シンポジウム司会(座長)「クロス・エスニックの文学とエコクリティシズム」。エコクリティシズム研究学会・多民族研究学会合同大会, 2016.8.6, 東京.
	西垣内磨留美：ワークショップ責任者「アイリッシュ・アメリカンの世界」。第 55 回日本アメリカ文学学会全国大会, 2016.10.2, 岡山市.
松本淳子	松本じゅん子：口頭発表(一般)(座長)。日本音楽知覚認知学会平成 28 年度秋季研究発表会, 2016.10.30, つくば市.
森野貴輝	森野貴輝：精神科看護師による看護技術の理解度と実施度。精神医療倫理科研第 3 回研究会, 2016.9.18, 駒ヶ根市.
	森野貴輝：臨床経験の異なる 5 人の精神科看護師の語り 患者-看護師間に生じた対立場面の事例を通して。精神医療倫理科研第 4 回研究会, 2017.3.5, 金沢市.
安田貴恵子	安田貴恵子：長野で保健師。～県内養成校と市町村情報交換会～。保健師個々の力を伸ばす組織的な取り組みの充実に向けて, 2016.11.2, 塩尻市.
屋良朝彦	屋良朝彦：レヴィナス研究会特別大会特別シンポジウム「レヴィナスはケアの倫理に寄与しうるのか」コメントーター。2016.8.6. 岡山市
	屋良朝彦：日常の対話・限界状況における対話。精神医療倫理科研第 3 回研究会, 2016.9.18, 駒ヶ根市.
	屋良朝彦：精神の危機と 対話の哲学。精神医療倫理科研第 4 回研究会, 2017.3.5, 金沢市.
渡辺みどり	渡辺みどり：認知症看護の基本。看護職員認知症対応力向上研修事業, 2017.2.14-16, 長野市.

⑥ 出版物等(五十音順)

氏 名	内 容
井村俊義	ラモン・サルディバル (2016): 戦後日本に出現した「ボーダーランズ」と越境する想像力の起源(後半)(翻訳). 東北アメリカ文学研究(第 39 号), 87-102, 宮城.
太田克矢	太田克矢 (2016): 授業がわかる看護のための理科. 看護学生 2016 年 5 月号, 4-16, メヂカルフレンド社, 東京..
小野塚元子	小野塚元子 (2017): 魅力ある認知症カフェの開設・運営 「いまさら聞けない認知症カフェの基本」. 認知症介護, 49-55, 日総研, 名古屋
喬 炎	喬 炎ら (2016.10.6): “紫外線で褥瘡早期診断ーガラス板圧診法より高精度な可能性ー”. Medical Tribune, 7.
中畑千夏子	中畑千夏子 (2016): 【夏場に流行る感染症-予防と早期発見、看護のポイント-】 子どもと家族への支援 子どもへの感染予防と看護. 小児看護, 39 巻 7 号 Page824-828, へるす出版.
西垣内磨留美	西垣内磨留美 (2017): 序文. 西垣内磨留美, 山本伸, 馬場聡編, 衣装が語るアメリカ文学, iii-viii, 金星堂, 東京.
松本淳子	松本じゅん子 (2017): ICMPC (International Conference on Music Perception and Cognition) 14 参加報告. 音楽知覚認知研究, 22, 115-117.
宮越幸代	宮越幸代 (2017): リウマチ熱から子どもたちを守る！サモアで始まったプロジェクト. Nursing BUSINESS, vol.11, no.4, 63, メディカ出版, 東京.

第3節 社会・地域貢献活動

平成 28 年度に本学教員が行った学外の研修会・講演会（第 2 節⑤講演等に記載の講演を除く）、学会等に関する活動は、延べ 177 件であった（表 6）。

また、本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援は、延べ 18 件であった（表 7）。

（表 6） 本学教員が行った社会・地域貢献活動（五十音順）

氏名	活 動 内 容
秋山 剛	国際学校保健コンソーシアム 事務局 構成員
	NPO 法人 メータオ・クリニック支援の会 理事
	飯田女子短期大学 非常勤講師
	信州大学 非常勤講師
	信州公衆衛生学会 理事
	国立大学法人長崎大学 健康な地域社会をつくる学童支援プロジェクト（ケニア共和国）短期専門家
	駒ヶ根市要保護児童等支援ネットワーク 構成員
	長野県子どもを虐待から守る民間ネットワーク 構成員
東 修	看護事例検討会 講師（こころの医療センター駒ヶ根）
	日本看護協会長野県支部、選挙管理委員
阿部正子	M-GTA 研究会 世話人
	日本看護科学学会 代議員
	九州 M-GTA 研究会ワークショップ講師
	長野県母子衛生学会 査読員
有賀智也	高齢者ケア看護研究会 事務局運営
	長野県民主医療機関連合会 「看介護研究講座」 講師
内田雅代	日本看護倫理学会 評議員
	日本小児看護学会 査読委員
	日本小児がん看護学会 理事長
	日本小児がん看護学会 査読委員
	日本小児血液・がん学会評議員
	日本小児保健協会 代議員
	日本小児保健協会 査読委員

氏名	活 動 内 容
内田雅代	長野県小児保健研究会 役員
	日本家族看護学会 査読委員
	宮田村保育園の職員研修会での講演「保育園における食物アレルギーの子どもへの対応」
太田克矢	駒ヶ根市環境審議会 会長
	駒ヶ根市政策研究所政策研究会 研究員
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
岡田 実	長野県看護大学紀要 査読委員
	日本精神保健看護学会誌 査読委員
	日本赤十字看護学会誌 査読委員
	第 47 回日本看護学会（精神看護）（青森市）座長及びシンポジスト
	長野県立こころの医療センター駒ヶ根，倫理審査委員会外部審査委員
	精神科熟練看護師育成セミナー講師
	看護研究支援プログラム講師
小野塚元子	日本老年看護学会「認知症看護対応力向上研修」講師
	長野県看護職員認知症対応力向上研修 講師
	第 29 回日本看護福祉学会 実行委員
	非営利活動法人のぞみの里 運営推進協議会 委員
上條こずえ	下伊那赤十字病院 看護倫理研修会講師
	鍼灸師会上伊那地区 フィジカルアセスメント研修講師分担
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
金子さゆり	医療の質・安全学会 査読委員
	日本看護科学学会 査読委員
	日本医療・病院管理学会 査読委員
	名古屋市立大学病院 看護部研修会「医療現場における看護研究テーマの見つけ方」講師
	名古屋市立大学 看護生涯学習セミナー「チーム医療の質と患者安全を向上させるノンテクニカルスキル」講師
	伊那中央病院 看護部研修会「プリセプター準備研修」講師
	長野県看護大学 看護職者の教育・支援プロジェクト研修会「看護の思考過程と現任教育」講師
北山秋雄	南信里親里子交流支援の会 顧問
	日本ルーラルナーシング学会 評議員
	日本民族衛生学会 評議員
	日本思春期学会 査読委員
	日本ルーラルナーシング学会誌 査読委員
	日本在宅ケア学会 査読委員
	飯田女子短期大学 非常勤講師
	長野県公害審査会 委員
	日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究S) 審査委員
近藤恵子	日本ストーマ・排泄・リハビリテーション学会：評議員・社会保険委員
	長野県ストーマリハビリテーション研究会：世話人（第 22 回研究会会長）
	日本褥瘡学会：評議員
	長野県褥瘡懇話会：世話人
	長野県看護協会：学会委員 ・編集委員
佐々木美果	駒ヶ根市赤穂公民館ベビーマッサージ教室講師
	伊南北消防署救命救急士合同訓練講師
	伊那地域メディカルコントロール協議会学習会講師
	第 1 回女性のための健康講座主催メンバー
	第 2 回女性のための健康講座主催メンバー、ヨガ講師

氏名	活 動 内 容
塩澤綾乃	JICA 草の根技術協力事業「安心・安全な出産のための母子保健改善事業」ネパール人本邦研修受け入れ
	日本助産学会誌専任査読委員
	駒ヶ根市赤穂公民館 およこ学級 産後ヨガ講師
	上伊那地域メディカルコントロール協議会 産科救急講座講師
	第一回女性のための健康講座（8月） 主催メンバー
	第二回女性のための健康講座（11月） 主催メンバー・ヨガ講師
清水嘉子	大学基準協会評価委員会評価分科会第16群（主査）
	日本看護科学学会 代議員
	長野県母子衛生学会 常任理事
	伊那テクノバレー 理事
	スマート看護・福祉研究会 理事
	伊那谷アグリイノベーション 理事
	伊南行政組合昭和伊南総合病院運営審議会 副委員長
	信濃毎日新聞 信毎賞審査委員
	信州コンソーシアム 副委員長
	長野県ナースセンター事業運営委員会委員長
	駒ヶ根市地方創生推進会議副委員長
	駒ヶ根市山水会会員
	日本看護系大学協議会 会員校代表
	公立大学協会 会員校代表
	日本母性看護学会 専任査読委員
	日本看護科学学会学術集会抄録査読
	長野大学評価委員会副委員長
喬 炎	日本未病システム学会 評議員
	JST（独立行政法人科学技術振興機構）審査委員
	日本未病システム誌査読委員
	「形態と機能」誌査読委員
高山陽子	長野県介護支援専門員更新・主任・2回目更新研修「認知症に関する事例」：講師
	長野県介護支援専門員研修委員会：委員
	長野県看護協会：新人看護職員研修会「認知症高齢者への関わり方、精神症状の理解」：講師
	日本老年看護学会 平成28年度認知症対応力向上研修：長野開催：講師
	松本市キャラバンメイト研修「認知症の症状の理解と支援」：講師
	長野県健康福祉部主宰：平成28年度看護職員認知症対応力向上研修：講師
	第37回長野県看護研究学会 交流集会「認知症ケアチームの取り組みと課題」：企画運営
竹内幸江	日本看護倫理学会 評議員
	日本小児看護学会 評議員 査読委員 広報委員 研究奨励賞論文選考委員
	日本小児がん看護学会 査読委員
	日本看護学教育学会 専任査読者
	千葉看護学会 査読者
	長野県看護教員養成講習会 講師
	日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修 講師
田中真木	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
田村かおり	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師（講義・演習分担）
千葉真弓	日本老年看護学会査読員
	日本看護福祉学会 理事・査読員
	愛知県立大学大学院 非常勤講師
	長野県伊那公衆衛生専門学校 非常勤講師

氏名	活 動 内 容
長南幸恵	長野県 LD 等発達障害児者親の会南信地区事務局
那須淳子	昭和伊南総合病院 事例研究発表会 講評 長野県針灸師会フィジカルアセスメント研修会 講師分担
西垣内磨留美	多民族研究学会会長 黒人研究学会役員 アイリッシュ・アメリカン研究会副代表 多民族研究学会第 25 回全国大会 シンポジウム座長 日本アメリカ文学会第 55 回全国大会 ワークショップ責任者 長野県赤穂高等学校評議員 コンソーシアム信州英語教育小部会 部会員 長野県公衆衛生専門学校非常勤講師
西村理恵	長野県助産師会 副会長 長野県立飯田高等学校 評議員
藤原聡子	揚州大学研究員に「日本の助産史」講義
松本淳子	日本音楽知覚認知学会理事 日本音楽知覚認知学会音楽知覚認知研究編集委員 長野県公衆衛生専門学校非常勤講師（心理学，統計学）
三浦大志	平成 28 年度 信州大学教員免許状更新講習会 講師 日本生理学会アウトリーチ活動 登録講師 飯田女子短期大学 非常勤講師
御子柴裕子	上伊那保健師連絡協議会分野別研修「保健師活動に役立つフレクシオン研修」 企画・実施（全 4 回、ファシリテーター）・評価 日本地域看護学会 第 19 回学術集会 ワークショップ 4「学士課程において「保健師の家庭訪問」をどのように教授するか パートⅡ 実習における家庭訪問援助の教授方法の検討」ファシリテーター
宮越幸代	駒ヶ根市「多文化共生のまちづくり」委員会委員 駒ヶ根市「日本語学習事業」委員 駒ヶ根市・宮田村・飯島町・松川町主催「みなこいワールドフェスタ」企画・実行委員 日本災害看護学会 ネットワーク活動・調査調整部 委員 特定営利法人「災害人道医療支援会」2016 年熊本地震 第一次隊派遣チーム看護師（阿蘇市） 長野県看護教員養成講習会「国際看護」講師 信州木曽看護専門学校 「国際看護・災害看護」非常勤講師 駒ヶ根市主催中沢地区「自主防災避難訓練」参加・助言
森野貴輝	Libertà(リベルタ)の会 主催メンバー
安田貴恵子	日本地域看護学会 代議員、日本地域看護学会誌 査読委員 日本ルーラルナースング学会 理事、日本ルーラルナースング学会誌 査読委員 千葉看護学会誌 査読委員 信州公衆衛生学会誌 編集委員 日本看護系大学協議会 看護学教育評価検討委員 医療マネジメント学会長野支部看護師分科会北信地区看護連携協議会 退院支援・退院調整基礎研修講師 松本保健所管内保健師研修会講師「人材育成と保健師配置について ～保健師育成できる視点を日頃から積み上げる」 長野県中堅期保健師研修講師「保健事業の枠組みを確認しよう」「実践プロセスの意義と育成する能力」 長野県新人保健師研修企画運営（全 4 回） 上伊那保健師協議会研修講師「保健師活動の原則」 信州木曽看護専門学校 非常勤講師

氏名	活 動 内 容
屋良朝彦	伊那市医療政策審議会委員
	日本医学哲学・倫理学会 国際誌第10号 査読委員
	教員免許状更新講習 講師「こどもの哲学 ―哲学的対話の理論と実践―」
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
	信州木曾看護専門学校 非常勤講師
	岡谷市看護専門学校 非常勤講師
	長野県須坂看護専門学校非常勤講師
	伊那谷 生と死を考える会 会員
	地域円卓会議@駒ヶ根 哲学対話集会 主催
渡辺みどり	日本老年看護学会 代議員・査読委員
	日本老年看護学会災害支援検討委員
	日本老年看護学会生涯学習支援委員
	日本看護福祉学会 理事・査読委員
	日本看護科学学会 代議員
	千葉看護学会 査読委員
	科学研究費委員会専門委員
	佐久大学外部評価委員
	長野県看護職員認知症対応力向上研修 企画・運営、講師
	日本老年看護学会認知症対応力向上研修 長野会場、島根会場 講師

(表7) 本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援（五十音順）

氏 名	病院等施設名	支 援 内 容
東 修	市立函館病院	SalusVision® を活用した臨床看護師に対する看護研究支援 計11回
	函館渡辺病院	SalusVision® を活用した臨床看護師に対する看護研究支援 計11回
有賀智也	伊那中央病院	院内研究指導1題、発表会での助言
	長野県民主医療機関連合会	研究発表会での助言
伊藤祐紀子	伊那中央病院	院内研究指導1題
小野塚元子	伊那中央病院	院内研究指導1題
上條こずえ	伊那中央病院	院内研究指導1題
金子さゆり	伊那中央病院	院内研究指導1件
	伊那中央病院	共同研究に向けた研究計画書の支援1件
	名古屋市立大学病院	研究指導3件
熊谷理恵	伊那中央病院	院内研究指導1題
近藤恵子	伊那中央病院	院内研究指導2題、発表会での助言
高橋百合子	伊那中央病院	院内研究指導1題、発表会での助言
竹内幸江	日本重症心身障害福祉協会	研究指導8題
田中真木	伊那中央病院	院内研究指導1題
松本淳子	伊那中央病院	院内研究指導2題
御子柴裕子	長野県訪問看護研究委員会（長野県看護協会）	訪問看護に関する調査研究
宮越幸代	伊那中央病院	院内研究指導 1題

第4章 社会貢献

第1節 公開講座

平成28年度に開催した公開講座の状況は、以下のとおりである。

	開催日・時間	テーマ	講師	参加人数
1	2月18日(土)	看護ケアの意味するもの - 治る力を引き出すために -	長野県看護大学 小林 たつ子 教授	97名
合計				97名

第2節 分野の活動

平成28年度に行った分野としての活動は、以下のとおりである。

分 野	活 動 内 容
基礎看護学分野	オープンキャンパス：フィジコ、AED その他シミュレーションの展示と体験の説明（血圧測定、マットレス耐圧体験など看護模擬演習コーナーを開設）。災害看護：救急蘇生や搬送にかかわる授業の様態および一部教材を提示。
	産学連携協定している伊那市タカノ株式会社（福祉機器製造開発）の開発製品を用いての「床ずれ防止に関する体圧分散について」の研修協力
	長野県鍼灸師会フィジカルセサメント講習会（9月4日）講師：小林たつ子、那須淳子、上條こずえ
母性・助産看護学分野	妊婦体験、妊婦歯科健診、陣痛を乗り切るノウハウ、命を育てる食事（食事指導）、胎児心拍聴診体験等に係る参加者の誘導・案内と各ブースのサポート。 日時：平成28年11月3日 場所：伊那市保健センター 参加者氏名：阿部正子 西村理恵 塩澤綾乃 井出彩織
	救急隊員のための基礎講座～産科・新生児～（講義）、車中および自宅での分娩時対応について（演習） 日時：平成29年1月30日10時～12時 場所：伊南南消防署 参加者：112名 講師：阿部正子、佐々木美果、塩澤綾乃、廣瀬紀子、井出彩織
小児看護学分野	駒ヶ根市近郊に住むアレルギー疾患をもつ子どもと親の会「たんぽぽの会」の活動を支援し、学内での月1回の定例会を継続している。毎月の定例会では、アレルギーに関するミニ講話や専門学会における新たな知見や疾患管理に関する情報を提供するとともに、安心して親同士の経験を語り合える場になるよう支援している。ホームページからの情報発信も行っている。

分 野	活 動 内 容
小児看護学分野	平成 28 年 10 月 29 日に、『食物アレルギーの子どもの食事について学ぼう！食物アレルギーの基本と日常生活の対応』をテーマに講演会を開催した。内容は（1）「たんぼぼの会」の母親からのメッセージと（2）小児アレルギーエデュケーターによる講演で、参加者は 41 名であった。参加者のアンケート結果からは全体に大変好評であり、「基本的な知識が得られてよかった」「同じ悩みを持つ母親がいるとわかり気持ちが楽になった」「演者の言葉に勇気づけられた」「当事者として振り返ることができた」などの意見が聞かれ、参加者への支援に繋がったと考えられる。
老年看護学分野	認知症対応力向上研修（長野県看護管理者研修：認知症加算 2 対応研修）、認知症看護対応力向上研修（日本老年看護学会長野会場：認知症加算 2 対応力向上研修）を企画・運営し、講師を担った。認知症加算 2 取得に必須となる研修を県内で複数回実施することにより、県内病院の医療経営に間接的に貢献したと考えられる。
	地域高齢者への水中運動（継続的な運動プログラムの提供と実施）と骨密度、身体機能測定、生活相談（個別対応による身体・精神・認知機能の測定及びデータの還元）を実施した。
精神看護学分野	近隣の精神科病院を訪問のうえ、看護研究・管理者研修・事例検討会・倫理審査などの支援を行った。また、直接訪問する支援以外に Web 会議システムを用いて、大学研究室の教員と臨床現場の看護師がお互いに移動することなく直接つながり、情報共有とディスカッションが可能かどうか試験的に実施し、その実用性を検討した。
地域・在宅看護学分野	駒ヶ根市ネパール交流市民の会が JICA 草の根技術支援事業の補助を得て取り組んでいるポカラ市カスキ郡での「安全・安心な出産のための母子保健改善事業」の一環である本邦研修の一部に協力した。地域保健活動、家庭訪問の方法の学習支援に協力した。
	上伊那保健師協議会、長野県伊那保健福祉事務所と共同で、保健師を対象とした「リフレクション研修」を開催した。研修ニーズの検討から始まり、プログラム内容の検討、実施、評価の一連の過程を共同で行った。

※ 本学教員が行った社会・地域貢献活動については、第 3 章「教員の研修・研究、社会活動」第 3 節に掲載しています。

第5章 学内委員会等の活動及び検証

第1節 運営委員会

1 所掌事項

看護大学の管理運営に関する重要事項を調査審議する。

2 活動と成果

(1) 委員会活動

【開催日】

第1回	28年4月15日	第10回	28年10月28日
第2回	28年5月13日	第11回	28年11月11日
第3回	28年6月3日	第12回	28年12月2日
第4回	28年6月17日	第13回	28年12月20日
第5回	28年7月1日	第14回	29年1月13日
第6回	28年7月14日	第15回	29年2月3日
第7回	28年7月29日	第16回	29年2月7日
第8回	28年9月14日	第17回	29年3月3日
第9回	28年9月30日	第18回	29年3月16日

【審議内容】

大学運営に関する学長の構想・意思の具体化への検討や、教授会、人事教授会及び研究科委員会に諮る協議事項・報告事項等に関する審議及び内容の確認を行った。

(2) 成果

事前に議題の内容等を協議・点検・整理し、大学運営の方向性の確認や調整を行い、教授会等における円滑で効率的な審議に資した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題

ア 評価委員会における大学の自己点検・評価の課題について、運営委員会で検討し改善改革につなげていく。

イ 大学が取り組むべき主な課題の検討スケジュールに基づき、本委員会において取り組んだ内容について教授会等における審議に資する議論を行う。

(2) 将来的な課題

ア 今後の法人化議論に備えた準備をする。

第2節 広報・交流委員会

1 所掌事項

- (1) 大学の広報に関すること
- (2) 公開講座に関すること
- (3) 大学説明会に関すること
- (4) 国際交流に関すること
- (5) 地域交流に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

委員会及び開催行事は下記のとおり（行事の事前準備活動の記載は省略）。

○会議：全9回（4/15、5/12、6/30、7/25、9/1、11/14、12/14、2/17、3/13）

主な議題：PATHWAY・オープンキャンパス（OC）・公開講座・進路説明会・大学見学・模擬授業・学報・その他広報活動・活動費用

○開催行事：オープンキャンパス（7/30）、公開講座（2/18）、大学見学（複数日）、進路説明会（複数日）、模擬授業（複数日）

（2）成果

1) 進路説明会（進学相談）・模擬授業

外部からの依頼46件のうち18件に対応し（対応述べ教員数は34名）、これに加えてOC及び学祭時に個別進学相談会を実施した（対応述べ教員数は13名）。このうち相談者数は、OC時57件、学祭時14件であった。外部での模擬事業は2件に対応した。

2) 大学案内PATHWAY発行

構成の主軸の1つである「学部の学生生活が伝わる大学案内」を維持・促進するとともに、教務委員会の主体の改変により教育課程の流れを閲覧者に分かり易い形に改変した。

3) 学報発行

読みやすく充実した紙面の学報を2回発行し、関係各所に配布しました。

4) 大学説明会（オープンキャンパス）

午前、午後を通しての開催とし、単なる全体説明会とはせずに「看護（実験）体験コーナー、個別進学相談、学生トークライブ、模擬授業、学食体験」などを例年と同様に組み込みこんだ。今年度は前年度の参加者657名を上回る703名と増加した。参加者アンケートからもおおむね好評を得ていた。

5) 公開講座開催

地域貢献の一環として、下記のとおり、公開講座を1回開催した。参加者アンケートの結果は非常に良好であった。

期日：平成29年2月18日（土）

タイトル：「看護ケアの意味するもの ― 治る力を引き出すために―」

講師：小林たつ子（長野県看護大学 基礎看護学講座 教授）

参加者：97名

6) 学外掲示板の更新

公開講座のポスターほかを更新した。

7) 県や業者による広報誌、パンフレットの内容の作成、確認を行なった。

8) 大学院案内パンフレットを発行した。

3 今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

上記恒例事業の企画、実施が最重要課題である。

オープンキャンパスをはじめ、委員会所掌の行事において多数の参加者が得られたが、今後も大学の広報に努め、内容を検討し、滞り無く安全に行事を開催できるよう、企画、準備していくことが必要である。

依頼件数が例年通り多い進路説明会等への教員派遣については、教員の業務が増加傾向にある為、委員会内外で派遣が難しい傾向にあった。したがって高校からの模擬授業や大学訪問の依頼については、より必要なものに対応することとし、業者による説明会等は成果があまり期待できない内容の報告も多かったため、その内容と得られる成果をよく吟味してから対応していくことが重要である。

(2) 将来的な課題

少子化時代の学生募集対策として、従来の事業実施の変更の必要性について、大学執行部から意見が出ている。大学教員の業務量の増大と多様化の中でより効率的な広報活動を行うには、最も重要な対象者の1つである「学部入学志願者」への効率的な広報活動のありかたについて検討していく必要がある。

第3節 教務委員会

1 所掌事項

- 1) カリキュラムの進行にあたり必要な事項の検討
 ガイダンスの計画
 学生便覧・シラバスに関すること
 時間割の作成
 非常勤講師の任用
 卒業研究の要綱の検討・ガイダンス・担当教員の調整
- 2) 履修に関すること
 履修登録の確認（重複登録、未登録等、特に再履修の科目の多い学生、復学している学生について）
 必要時、学年顧問と連絡を取り、学生の履修面の相談
 編入生の履修相談
 卒業判定・単位認定資料の確認作業
- 3) カリキュラムの改善に関する検討

2 活動と成果

(1) 委員会活動

期日	審議事項/活動内容	
4月11日	1. 平成28年度教務委員会の活動と役割分担 2. H28年度スタートアップセミナーについて	3. 休学願いについて
5月10日	1. 平成28年度スタートアップセミナーグループ活動の進め方について 2. 「医療経済学」非常勤講師の任命について	3. 平成28年度入学生の入学前既修得単位の認定について
6月7日	1. 平成28年度スタートアップセミナー発表会の進め方について	【報告】未修得単位のある学生の履修登録状況について
7月5日	1. 平成28年度スタートアップセミナー学生・教員アンケート検討	2. 休学願いの審議（1件）
7月19日	1. 看護統合実習の履修について	
9月8日	1. 平成28年度スタートアップセミナーアンケート結果と運営全体の振り返り 2. 「医事法学」の開講時期について	3. 「数学」の科目名称について 【報告】助産師課程履修学生の単位取得状況について
10月12日	1. 基礎看護実習Ⅱと看護専門領域実習を同じ年度に履修する学生について 2. 平成29年度卒業研究について	3. 平成29年度シラバスの作成について 4. 助産師課程履修学生の選抜方法について 5. 学生の到達度評価について
11月9日	1. 平成29年度非常勤講師について 2. 平成29年度学年暦について	3. 「医事法学」開講時期および「数学」科目名称について
12月7日	1. 平成29年度スタートアップセミナーの計画について 2. カリキュラムに関する研修会について	3. 平成29年度教務ガイダンスについて 4. 平成29年度時間割について

1月11日	1. 平成29年度科目等履修生募集要項について 2. 平成29年度県内大学単位互換履修生募集要項について 3. 平成29年度学生便覧教務関係ページの検討	4. 「助産概論」「地域母子保健」の開講時期変更について 5. 平成29年度卒業研究シラバスについて
2月9日	1. 休学願について（1件） 2. 平成28年度卒業予定者の単位認定状況 3. 平成29年度卒業研究シラバス	4. 平成29年度教務ガイダンスについて 5. カリキュラムに関する研修会の検討 6. 平成29年度スタートアップセミナーについて
3月8日	1. 国際看護実習（選択科目）の履修生について 2. 休学願について（2件） 3. 教務ガイダンスの教務委員会担当部分について 4. 平成28年度単位取得状況について	5. 履修規程の改正について（これまでの審議事項の集約） 6. カリキュラムに関する研修会まとめ 7. 平成28年度委員会活動の成果と課題について

（2）スタートアップセミナーの実施

初年次教育の充実のために学長提案を契機として平成27年度から検討に取り組み、平成28年度に全学的プログラムとして1年生を対象とする「スタートアップセミナー」を実施した。

スタートアップセミナーの概要

回数	内容	日程
1	大学での学習方法を学ぶ（講義、屋良准教授）	4月12日（火）
2	学習の助けとなる情報の調べ方を学ぶ（講義と演習、附属図書館 原司書）	4月19日（火）
3～7	グループ単位で活動目標（テーマ）を定めて主体的に取り組む（グループ活動）	5月～7月の期間に行う
8	グループでの取り組みについて発表し共有する（発表）	7月26日（火）

グループ活動は、学生を14のグループに分け、各グループに教員1～2名が側面的支援者として関わった。グループ支援に関わる教員は、全ての講座および分野からでいただいた。人数は21名であった。

スタートアップセミナー終了時の学生の評価は、「日程・グループ構成」、「内容・方法」に関して、肯定的な意見がみられ、「この大学で学んでいく意欲が高まった」に対して、「強くそう思う」「どちらと言えばそう思う」の回答を合わせると82人中61人（74.4%）であった。

（3）成果

- 1) 初年次教育の充実のために検討した全学的プログラム「スタートアップセミナー」を教務委員会が中心となって実施した。終了時の学生アンケートによれば、プログラム内容は今後の学生生活や学習に役立つ内容であるという良い評価が得られた。
- 2) 履修サポート班は、必修科目の単位取得ができていない学生の履修指導を学年顧問と協力して行った。本来、履修計画は学生自身が考えるものであるが、時間数の多い必修科目や複数の必修科目を再履修しなければならない場合は、履修登録科目が時間割の上で重複しないよう注意する必要があると、教員の指導が必要であった。
- 3) カリキュラムの改善に向けた取り組みを行った。平成28年度は、看護学教育ワークショップに2名の教務委員が参加し、研修を受けることができた。平成29年2月22日には、全教員を対象として「カリキュラムに関する研修会」を開催し、本学の教育理念、教育目標、3つのポリシーを再確認するとともに、看護学教育ワークショップ参加報告を行い、卒業時の看護実践能力の到達度評価についてグループ討議を行った。

3. 今後の課題

<喫緊の課題>

- 1) 平成 29 年度のスタートアップセミナーは、アンケート意見を踏まえてグループ活動の回数を見直し、発表会を 6 月末に設定する。本プログラムに関する評価を学生側と教員側の双方から行い、スタートアップセミナーのカリキュラム上の位置づけを検討する資料の 1 つとする。
- 2) 平成 30 年度からの開始が予定されている文部科学省が示す新しいカリキュラムへの対応ができるよう、カリキュラム検討に取り組む。教員の FD に関連する内容や実習科目の教育方法等については、FD・SD 委員会や実習委員会と連携を取りながら進める必要がある。

<継続的な課題>

- 1) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に対し、具体的な到達状況を把握する方法の検討を継続して取り組む。

第 4 節 実習委員会

1 所掌事項

- (1) 実習の目標・計画・実施・評価に関すること
 - 1) 実習要項（共通部分）の作成
 - 2) 専門領域実習の学生グループ分けおよび実習ローテーション表の作成
 - 3) 実習記録等に関する調整事項
 - 4) 実習の実施に関する調整事項
 - 5) 実習の教育評価に関する事項
- (2) 実習施設との連絡調整に関すること
 - 1) 実習施設との連絡調整（各分野）のサポート
 - 2) 実習指導者会議に関すること
 - 3) その他実習施設との連絡調整に関すること
- (3) 実習中における安全と事故防止に関すること
 - 1) 「個人情報保護」や「同意書」等への対応
 - 2) 事故発生時の対処方法
 - 3) 災害発生時の対処方法
- (4) その他実習に関すること
 - 1) 実習に関わる交通機関の調整に関すること
 - 2) 実習用学生ユニフォームに関すること
 - 3) 実習期間中に使用するバス、共用の学内の部屋、携帯電話の調整

2 活動と成果

- (1) 委員会活動
 - 1) 第 1 回委員会：平成 28 年 4 月 18 日
 - ①実習委員会の任務の確認 ②副委員長を選任
 - ③平成 28 年度前期の実習ローテーションの確認
 - ④平成 28 年度実習委員会活動計画，役割分担，会議日程等の検討
 - ⑤実習配置案の中止 ⑥昨年度からの検討事項の確認

- 2) 第2回委員会：平成28年5月10日
 - ①実習に使用する携帯電話・学内の共用室の調整
 - ②実習病院の環境整備：ロッカーキー及びコピー使用簿の管理の確認
 - ③実習に関する個人情報保護、守秘義務—SNS への課題への取り組み
 - ④4年間を通した実習支援及び指導困難な学生への支援への教員間の情報共有
- 3) 第3回委員会：平成28年6月14日
 - ①各領域実習の報告 ②実習バスの運転に関する問題への対応
 - ③小児ウィルス感染症の検査方法とワクチン接種基準の変更と今後の予防接種の時期についての検討課題
 - ④実習要項の「個人情報」に関する記載内容の改訂
 - ⑤実習病院の環境整備：昭和伊南病院・伊那中央病院の学生ロッカーの管理
 - ⑥4年間の実習を通した学生の学びと評価
- 4) 第4回委員会：平成28年7月26日
 - ①各実習報告
 - ②今年度後期実習に向けた準備の確認：実習バス・オリエンテーション等
 - ③実習FDに関して ④4年間の実習を通した学生の学びへの支援
- 5) 第5回委員会：平成28年8月30日
 - ①各実習報告 ②今年度後期実習に向けた準備の確認：オリエンテーション等
 - ③平成29年度後期からの実習開始時期およびローテーション
 - ④実習FD
 - ⑤各実習における「看護技術の経験チェック表」の活用に関する検討
- 6) 第6回委員会平成28年10月14日
 - ①小児ウィルス感染症の抗体価検査と予防接種スケジュールの変更
 - ②平成29年度国際看護実習履修生選考について ③各実習報告
 - ④学生による実習情報のSNS への掲載の予防に関する今後の取り組み
 - ⑤平成29年度実習日程案について ⑥実習FD
 - ⑦長野県看護大学臨地実習インシデント・アクシデントレポートに関する規程の変更
- 7) 第7回委員会：平成28年11月24日
 - ①ソーシャルメディアガイドライン（案）の検討 ②各実習報告
 - ③実習FD ④各実習における「看護過程」の学生への指導状況とその効果
- 8) 第8回委員会：平成28年12月20日
 - ①各実習報告 ②学生便覧の実習に関する記載
 - ③実習FD企画 ④拡大実習院階での検討すべき事項と開催方法
- 9) 第9回委員会：平成29年1月12日
 - ①平成28年度各実習報告 ②平成29年度実習準備等
 - ③実習FD企画 ④拡大実習委員会で検討すべき事項と開催方法等の再確認
 - ⑤4年間の実習体験を記録し成長を促す方策
- 10) 第10回委員会：平成29年2月17日
 - ①拡大実習委員会報告書の確認 ②平成29年度の実習準備の確認
 - ③伊那中央病院ロッカーの整備 ④実習指導教員への携帯電話の配備
 - ⑤実習FD準備の進捗状況の確認 ⑥新たな実習施設の申請
 - ⑦「臨地実習における交通費の補助に関する要綱」の改正

⑧4年間の学生の実習体験を記録し成長を促す方策の関する今後の検討

11) 第11回委員会：平成29年3月13日

- ①平成28年度インシデント・アクシデント報告
- ②実習ガイダンスの分担とユニフォーム注文に関する準備
- ③実習指導教員の携帯電話の配備に関する県担当者からの情報
- ④4年間の学生の実習体験を基に成長を促す方策
- ⑤今年度全体の振り返りと次年度に向けた課題
- ⑥各分野における実習評価に関する学生へのフィードバックの仕方

(2) 成果

1) 実習FDについて

今年度は、目黒悟講師「考える人としての私を育てる～実習指導におけるリフレクション」の研修を実施し、学内教員36人・臨地実習指導者25人が参加した。アンケート結果から、とても具体的で実習指導に役立つものであり、次の段階である同講師の「授業デザイン」に関する講演の希望も聞かれた。

2) 実習環境の整備

- ・伊那中央病院の学生ロッカーの確保に関して、上下別のロッカーとの交換ができ、総数で、16人のロッカーの追加確保ができた。
- ・28年度は学外連携部門の一つとして、ユニフィケーションチームが位置づけられ、実習委員会は、そのチームと協力しながら、①教員および実習担当者の現代の学生の理解および、②施設を越えた担当者間の実習指導に関する情報共有、③施設側と大学関係者の関係構築等を促進し、よりよい実習環境の改善に向けて貢献できたのではないかと考える。

3) 実習に関する課題の共有

- ・各分野における「看護過程」の指導状況及び学生の理解と実習状況等について各分野の実習前の授業による学生の理解と実習状況および指導などについて共有できた。
- ・28年度も昨年に引き続き、紙面による各実習報告および検討課題等を各実習担当教員に配布し内容の確認及び意見を求めた。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 実習中に使用する教員の携帯電話に関すること
- 2) 実習中の事故（インシデント・アクシデント他）に関すること
- 3) 学生の学習課題に関する指導、評価に関すること（各領域の指導・評価の共有）

(2) 将来的な課題

1) 実習の評価に関する指標の検討

平成26年度後期から開始した新カリキュラムが30年前期で4年間となる。カリキュラム全体の中での実習に関する評価指標の検討を行い、評価を実施していく必要がある。

2) 学生の4年間の実習体験と学びのプロセスに関すること

各学生の実習における学習課題に関する継続支援・指導に関する課題として、多様な学生個々への教員の対応技術等の向上とともに4年間を通した学生の成長を支援するための学生および教員への体系的なプログラム等の検討について

議論してきたが、実習だけでなく4年間を通した学生の学び全体からの検討も必要であることから、教務委員会との協議も合わせて検討していく必要がある。

3) 実習環境の改善

分野教員と臨地実習指導者との学生教育に関する連携をさらに促進し、よりよい実習環境の実現を図っていく必要がある。

第5節 入試検討委員会

1 所掌事項

委員会は、次の事項について調査及び審議する。

- ①大学入試に関すること
- ②入試科目及び期日の選定に関すること
- ③合否判定の基礎資料に関すること
- ④入試の追跡調査に関すること
- ⑤入試のあり方に関すること
- ⑥その他入試に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

開催回数	開催日	議 題
1	平成28年 4月13日(木)	①委員会における人事と役割分担について ②平成28年度における委員会の活動計画について ③各試験における業務の役割分担について ④平成29年度入学者選抜に関する要項(案)について
2	5月11日(水)	①平成28年度の委員会活動計画(改訂版)の確認 ②平成29年度入学者選抜に関する要項の確認
3	6月10日(水)	①平成29年度学生募集要項(案)について ②大町岳陽高校の特別選抜(推薦)の推薦人員数について ③平成27年度高校訪問におけるアンケート結果と平成28年度の高校訪問について
4	6月29日(水)	①平成29年度大学入試センター試験にかかる長野県地区連絡会議の協議内容について ②平成28年度高校訪問の実施計画について
5	7月12日(火)	①平成28年度高校訪問の実施計画について ②平成29年度入試業務にかかる人員の配置について
6	9月6日(火)	①平成28年度高校訪問の中間報告について ②平成29年度大学入試センター試験入試担当者連絡協議会(第1回)の報告について
7	10月25日(火)	①平成29年度推薦・社会人入学試験業務処理要領について ②平成29年度推薦・社会人入学試験における面接試験の共通質問項目について
8	11月15日(火)	①平成29年度推薦・社会人入学試験の合否判定案について
9	12月2日(金)	①平成29年度大学入学者選抜大学入試センター試験 試験実施・業務処理要領(案)について ②平成29年度大学入試センター試験の準備日程(問題冊子等の搬入および仕分け)について

10	12月13日（金）	①平成29年度大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第2回）の報告について ②大学入試センター試験監督者説明会について ③センター試験に係る問題冊子等の搬入及び仕分け作業について
11	平成29年 2月6日（月）	①平成29年4月年度一般入学試験（前期日程）業務処理要領について ②平成30年度入学者選抜の日程（案）について ③平成29年度一般選抜入学試験（前期日程・後期日程）における面接試験の共通質問項目について
12	2月27日（月）	①平成29年度一般選抜入学試験（前期日程）の合否判定案について ②平成29年度一般入学試験（後期日程）業務処理要領について
13	3月14日（火）	①平成29年度一般選抜入学試験（後期日程）の合否判定案について

（2）成果

1）県内高等学校等への訪問の実施

本学についての説明や入試関連情報の提供等を目的とし、昨年度に引き続いて県内の高等学校への訪問を実施した。平成28年度については、昨年度より卒業生の輩出が始まった松本秀峰中等教育学校を新たに加えて、その実施数を22校とした。

2）入学志願者数の確保

入学志願者数については昨年度に比して推薦入試で2名、前期日程においては60名の減少があったが、後期日程では10名の増加が見られた。選抜試験全体での志願者数は275名で、その数は昨年度の332名よりは少なかったものの、志願倍率については3.4倍と、ここ5年間の平均である3.5倍程度をおよそ維持することができた。

3）入学者選抜試験の円滑な実施

特別選抜試験（推薦・社会人入学）及び一般選抜試験（前期日程・後期日程）の全試験を通して、滞りのない試験の実施を行うことができた。

4）大学入試センター試験の円滑な実施

大学入試センター試験については、例年通り事前に2回の監督者説明会を開催し、滞りなく試験を実施した。

3 今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

1）高大接続システム改革会議「最終報告書」を受けての大学入学者選抜試験改革

昨年3月に取りまとめられた高大接続システム改革会議の「最終報告書」を受け、本学においても大学入学者選抜の改革を行う必要がある。具体的には、「大学入学希望者学力テスト（仮称）」の活用やより多様な選抜方法の導入等により、「学力の3要素」を多面的そして総合的に評価し得る新たな入学者選抜への移行である。こうした新たな入学者選抜は平成32年度からの実施が予定されており、その2年前の平成30年度中に選抜方法等の予告・公表を行うことが求められている。県への通知等にかかる時間も考慮すれば、本学では来年度（平成29年度）中にはその選抜の具体的な内容や方法等を決定しておく必要がある。

2）編入学試験制度の廃止とそれに代わる入学者選抜の検討

本学では編入学試験を平成26年度まで行ってきたが、現在はそれによる募集を停止している。これに代わる新たな選抜試験の導入、並びに各選抜試験にかかる募集定員数の配分等についての検討を行い、なるべく早期に編入学試験を廃止する必要がある。新たな選抜試験については、前述した大学入学者選抜試験改革のスケジュールに合わせて、

その実施を目指すことが適当と考える。

3) 入学志願者の確保について

今年度を含めた過去10年間の志願倍率は、推薦・前期日程・後期日程の3つの選抜試験全体では、2.8倍（H27）～4.2倍（H28）の範囲で推移している。また、これらのうちで志願者数の最も多い前期日程についても、極端に志願者の少なかった平成27年度を除いては、概ね2倍以上の志願倍率をこれまで維持している。本県の医療に貢献していく看護職者を輩出していくためには、如何に優れた学生を多く確保するかが重要となる。昨今は全国的に看護学部の新設が相次ぎ、その傾向は今も続いていることから、長期的にみて本学においても今後志願者数が減少することが懸念される。引き続き対応策を検討していくべきであると考え。

(2) 将来的な課題

1) 看護学部の新設を見据えた志願者確保のための対応策

平成31年4月の開設を目指し、長野市内に2つの看護学部の設置が予定されている。このことは、本学の入学志願者数へも少なからぬ影響を与えるであろう。

2) 選抜試験成績と入学後の学業成績との相関（各選抜試験別の追跡調査）

現在実施している入学者選抜の適確性を評価し、その改善点等を探っていくためにも、入学後の学業成績と選抜試験成績との相関を検証すべきであると考え。

3) 面接試験成績の点数化

入学者選抜で行なわれている面接試験については、その評価の明確な点数化が行われておらず、合否を総合的に判断するための一つとして採用されている。評価を点数化し、合否の判定に関わる総合点に加えることを考慮しても良いのではないかと考える。

4) 推薦入学者の質を確保するための方策

推薦入学試験で実施されている評価は、英語試験を含む小論文試験と面接試験とによるものである。出願の際の要件として一定以上の「評定平均値」を求めているが、志願者の有する基礎学力を測るための指標として、これらの試験科目や「評定平均値」が果たして適当であり得るのか。一般選抜の合否判定では大学入試センター試験の成績を利用しており、入学者の基礎学力はこうした客観的な指標によって評価されている。今年度の推薦入学者（昨年度の推薦試験合格者）には大学入試センター試験成績の提供を求めたが、その点数は全体的に低かった。基礎学力の観点から「質」を考えるとすれば、推薦入学者の「質」を確保するためには、何らかの方策をその試験に導入する必要があるのかもしれない。

第6節 図書委員会

1 所掌事項

- ①図書の整備及び購入計画に関すること
- ②図書館の運営に関すること
- ③学内情報処理に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

委員会で審議、報告された議題は以下の通り。

1) 第1回：平成28年4月27日（水）

- ① 委員会成立要件の確認、および副委員長の名指

- ② 図書購入について
- ③ 平成 28 年度図書館開館カレンダーについて
- 2) 第 2 回：平成 28 年 5 月 24 日（火）
 - ① 予算について
 - ② PsycINF0 の契約中止について
 - ③ 図書館洋雑誌の購読中止について
 - ④ 平成 27 年度図書館活動報告
- 3) 第 3 回：平成 28 年 7 月 27 日（水）
 - ① 附属図書館の業務委託について
 - ② PsycINF0 の契約中止について
 - ③ 図書館資料の除籍について
 - ④ 図書館洋雑誌の購読について
 - ⑤ 図書購入について
 - ⑥ 見計らい図書について
- 4) 第 4 回：平成 28 年 9 月 28 日（水）
 - ① PsycINF0 契約中止について
 - ② 図書館資料の除籍について
 - ③ 図書購入について
- 5) 第 5 回：平成 28 年 11 月 16 日（水）
 - ① 学部生貸し出し冊数の拡大について
 - ② DVD の購入について
 - ③ 新規購入図書について
 - ④ 研究室所蔵資料の図書館システム登録について
- 6) 第 6 回：平成 29 年 1 月 19 日（木）
 - ① 図書館和雑誌の精選について
 - ② 平成 29 年度の図書館開館計画について
 - ③ 図書館資料の除籍について
- 7) 第 7 回：平成 29 年 2 月 16 日（木）
 - ① 平成 29 年度医学看護系洋雑誌電子ジャーナルデータベース・メディカルオンライン・医中誌・最新看護検索 WEB の契約について
 - ② 平成 29 年度図書館和雑誌の選定について
 - ③ 図書館資料の除籍について
 - ④ 平成 29 年度図書館開館カレンダーについて

（2）成果

- 1) 図書館開館計画の策定と図書館所蔵資料の廃棄・除籍など、円滑な図書館の運営を行った。
- 2) 購読雑誌及び電子ジャーナルの選定など、図書館予算の適正な執行を行った。特に本委員会、大学運営委員会、教授会での審議を経て、PsycINF0 の契約を中止し、図書館経費の大幅な削減を実現した。
- 3) 図書館購入予定書籍及び資料の選定を行った。
- 4) 学部生の貸出冊数を増やし、要望に対応し、図書館利用の利便化を図った。

3 今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

図書館で随所に雨漏りが発生しており、図書の保管に重大な問題が発生している。28 年度は、応急処置にとどまり、根本的な解決に至っていない。対処に司書の時間を費やすな

どの問題も生じている。委員会としても、図書館の円滑な運営に影響のある事態を早急に解決すべく引き続き大学に働きかけていく必要がある。

(2) 将来的な課題

28 年度に PsycINFO の契約を中止し、図書館経費の大幅な削減を実現したが、今後は少額であっても図書館経費の削減に向け、努力していく必要がある。限られた予算をどのように活用し、現在の図書館機能をいかに維持していくかについて、引き続き検討が求められる。

第7節 紀要委員会

1 所掌事項

①紀要に関する事項について調査及び審議すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 第1回：平成 28 年 4 月 27 日（水）
- 2) 第2回：平成 28 年 5 月 27 日（水）
- 3) 第3回：平成 28 年 9 月 28 日（水）
- 4) 第4回：平成 28 年 10 月 4 日（火）
- 5) 第5回：平成 28 年 11 月 4 日（火）
- 6) 第6回：平成 29 年 1 月 19 日（木）
- 7) 第7回：平成 29 年 2 月 16 日（木）
- 8) 第8回：平成 29 年 3 月 24 日（金）

以上の日程で次の事項を実施した。

- ①紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリストの見直し
- ②平成 28 年度紀要原稿の募集日程の決定
- ③平成 28 年度紀要編集・発行日程の調整
- ④紀要原稿の査読者と編集担当者の決定
- ⑤紀要原稿の査読結果の取り纏めと編集作業
- ⑥紀要の発行作業

(2) 成果

- 1) 紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリストの見直し
- 2) 長野県看護大学紀要の発行

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

投稿者からの提出内容に整合性が取れていないケースが見られた。28 年度においても、執筆要領の内容や提出ファイルの見直しを行ったが、引き続いて確認、修正を行い、適正かつわかりやすい内容へ改善して、投稿者への浸透を図り、より円滑な編集作業が進められるよう、検討を要する。

(2) 将来的な課題

近年、論文執筆においても、研究者倫理規範を修得し遵守することが求められるようになってきている。従来、論文執筆における倫理的な不文律は当然存在するが、編集作業時に参照できるような一定の基準の整備を視野に入れておくことが、より質の高い紀要の発行に繋がるであろう。

第8節 学生委員会

1 所掌事項

- ①学部及び大学院の学生の生活指導及び援助に関すること（新入生オリエンテーションに関することを含む）
- ②学部及び大学院の学生の課外活動に関すること
- ③学部及び大学院の学生の健康管理，健康相談及びカウンセリングに関すること
- ④寄宿舍及び寄宿生に関すること
- ⑤奨学生に関すること
- ⑥学部及び大学院の学生の就職に関すること
- ⑦その他学部及び大学院の学生の構成に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

開催日	活動内容（○報告 ●協議）
第1回 4月12日	○平成27年度キャリア支援活動の総括○平成27年度卒業生・修了生の進路状況報告○平成27年度国試結果報告○平成28年度オリエンテーション報告○平成28年度ハラスメント相談員の任命 ●平成28年度国試模試の開催日程●平成28年度学部生向けワーキングセミナー実施●平成28年度キャリアガイダンス実施計画●平成28年度学生委員会活動の役割分担
第2回 5月17日	○看護師国家試験対策ガイダンスⅠの報告○第1回国試ガイダンスと平成28年度卒業予定者の個人面接○平成28年度新入生オリエンテーションアンケート結果○学生相談（鈴風祭における学生の飲酒問題に関する自治会からの問題提起） ●キャリアガイダンスⅠⅡⅢ－②の企画内容●国試指導参考図書の配布●第2回国試対策ガイダンス日程●平成27年度学生委員会活動成果と今後の課題
第3回 6月21日	○キャリアガイダンスⅠ○キャリアガイダンスⅡの準備状況○平成28年度ワーキングセミナー・アンケート結果報告 ●平成28年度団体・サークルの決定●平成28年度長野県内市町村保健師作用合同説明会の実施●第21回鈴風祭における全面禁酒について
第4回 7月19日	○キャリアガイダンスⅡ○第2回市町村保健師採用合同説明会への参加申込状況○就職内定状況○第1回看護師模試終了○学長名による鈴風祭における全面禁酒の掲示○学生の生計調査○すずらん寮への防犯カメラ設置
第5回 9月20日	○卒業予定者内定状況○キャリアガイダンスⅡ報告○第1回看護師模試自己採点結果○第2回市町村保健師採用合同説明会報告 ○第21回鈴風祭実施報告○国家試験日程○平成27年度卒業生集まれ実施報告 ●国試模試受験者拡大●後学期学生委員会開催スケジュール●国試特別補講の開講希望調査●学生生活アンケートの実施と回収
第6回 10月18日	○卒業予定者進路状況○平成29年看護師国家試験日程と出題形式の変更○平成28年度学生生活アンケート集計結果○第1回看護師模試最終結果○キャリアガイダンスⅢ－②③準備状況○小児ウイルスワクチン接種の前倒しに伴う抗体価検査結果の事前提出の必要性○学生の生計に関するアンケート進捗状況○長野県性被害者のためのワンストップ支援センターの周知 ●キャリアガイダンスⅢ－①企画
第7回 11月22日	○卒業予定者進路状況○国試ガイダンスⅡ○国試模試（看護師2回目，保健師1回目）の自己採点結果 ●キャリアガイダンスⅡ●国試特別補講開講希望調査結果●学生に対する年度末注意喚起ポスター●平成28年度学生便覧の改訂●長野県性暴力被害支援

	センター・パンフレットの掲示●3年生対象の国試ガイダンスの前倒し実施
第8回 12月13日	○卒業予定者進路状況○キャリア大ダンスⅢ-①②③○新入生オリエンテーションのスケジュールと学生自治会との打ち合わせ結果○国試公開模試結果●第2回看護師模試・第1回保健師模試の最終結果●平成28年度国試特別補講のスケジュール●平成28年度新入生オリエンテーション実施内容の検討
第9回 1月17日	○卒業予定者進路状況○国試公開模試結果（看護師3回目，保健師2回目）○キャリアガイダンスⅢ-①②③の実施状況○第3回看護師模試・第2回保健師模試自己採点結果○平成28年度国試特別補講実施状況●平成29年度新入生オリエンテーションのプログラムと役割分担および学生自治会による作業進行状況
第10回 2月14日	○平成28年度国試模試（看護師・保健師）の成績評価一覧○平成29年度公務員試験対策講座への参加者●国家試験合格発表時の対応●平成29年度新入生オリエンテーションにおける学生委員会担当・学生自治会担当プログラムの進行状況●平成29年度新入生オリエンテーション企画運営補助者合同会議の日程
第11回 3月15日	○平成28年度卒業生・修了生進路内定状況○平成28年度求人状況の変化○進路指導室利用状況○国試合格発表時の対応●平成29年度ハラスメント相談員の任命●平成29年度キャリア形成支援計画・国試ガイダンス・国試模試の日程●学生生活のしおり作成●平成28年度新入生オリエンテーションの協議●平成28年度教務ガイダンスの担当●平成29年度新入生オリエンテーションおよび企画運勢協力者合同準備会議●平成29年度教務ガイダンス「学生生活」の担当

(2) 定例の委員会以外で学生委員会が中心となった会議・活動等

学生生活ガイダンス	平成28年4月5・6日 各学年に学生生活ガイダンスを実施 青少年生活設計講座（1・2・3・4年生） 年金制度説明会（1・2・3・4年生） 防犯講習会（1・2・3・4年生）
新入生オリエンテーション	平成28年4月8，9日（於：本学学内） 参加者数：新入生85名，在学学生35名，教職員20数名
就職・キャリア支援関係	第6章第2節参照
国家試験特別補講	・看護師：1月19日（金）9：30～17：50 成人：浦野先生，熊谷先生，伊藤先生，牛山先生 精神：東先生，災害：宮越先生， 計算問題対策：太田先生 1月24日（火）9：00～14：30 薬理学：坂田先生，小児：高橋先生 1月25日（水）15：10～17：50 在宅看護論：柄澤先生，病態：喬先生 ・保健師：1月31日（火）9：45～17：15 原先生，北山先生，秋山先生，御子柴先生 ・助産師：1月13日（水）9：00～12：10 阿部先生，西村先生
次年度新入生オリエンテーション 企画運営協力者合同会議	平成29年3月18日（金）：13：15～14：00
看護師保健師助産師国家試験会議	平成29年3月27日（月）：15：30～

(3) 成果

- ・学生生活ガイダンスを学年顧問と協力し各学年に対して実施できた。
- ・今年度より新入生オリエンテーションを辰野パークホテルでの宿泊形式から，本学学内（体

育館と大講堂)での実施に転換し2日間の日程で無事実施できた。宿泊形式で行われてきた従来のプログラム内容を引き継ぎながら、学内での実施に伴って従来バス移動に要していた時間を「サークル紹介1日目(体育館)・2日目(大講堂)〔全部で22グループによる新入生勧誘の発表〕」と「大学歌の練習」を新たにプログラムに付け加え、滞りなく実施できた。新入生オリエンテーションの目的である新入生どうし、新入生と在学生および教職員の交流を図り、新たな学生生活への移行と適応を支援することができた。来年度の本学学内での実施に際して、その運営上の課題も明らかになった。

- ・キャリアガイダンスⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、医療機関や自治体から管理者や本学卒業生をお招きし、計画通り各学年毎に実施することができた。
- ・参加者が少なかったキャリアガイダンスⅡは、2年次に特化した企画とし、母性看護学分野と地域・在宅看護分野からのインセンティブ(参加者を増やす刺激策)によって開催でき、結果、多数の参加者を得て実施することができた。
- ・アルバイトに際して雇用者とのトラブルを避け、また生じたトラブルの解決のために、学生便覧に南信労政事務所の電話相談窓口を記載することができた。
- ・第1回市町村保健師採用合同説明会(平成27年度実施、7つのブース、学生延56名参加)を継続し、平成28年度も第2回目の合同説明会を実施できた。長野県庁を含めて参加自治体は8カ所を数え、鈴風祭初日にもかかわらず、学生延92名が各ブースで途切れることなく面談を受け、来年度第3回目の実施に向けて前向きな課題を残して盛会裡に終了できた。
- ・平成26年度看護師国家試験の合格率が全国平均を下回った事態を真摯に受け止め、平成27年度には国試模試の前倒し実施、自己採点方式による受験結果の早期フィードバック、卒業研究配置の早期確定などの対策を講じたが、100%の合格率には及ばなかった。この現実を受け止めて平成28年度には、①4年生の進路面接を4月中に終了すること、②自己採点方式によって模試の受験結果の分析とアドバイスを早期にフィードバックすること、③受験結果の情報を卒研担当分野にタイムリーに提供すること、④模試受験者を3年生に拡大し国試に向けて学生の新たな雰囲気づくりを行ったこと、⑤学内外の教員による特別補講に80%の受験生が参加したことなどが幸いして、合格状況は、看護師100%(既卒者を含む)・助産師100%、保健師96.5%(3名不合格)であった。
- ・看護師模試を年間3回開催していたが、新年度には必修問題に特化した模擬試験(125題)を新たに加え、年間4回実施できるようにした。
- ・平成28年度卒業生の長野県内への定着率が68.3%と、昨年度に比べ10ポイント以上上回り、県内保健医療福祉分野に従事する専門職を輩出する県立大学としての役割を、昨年度に増して達成することができた。
- ・学生自治会からの申し入れがあり、運営委員会、教授会での協議を経て、学長名による「鈴風祭期間中は学内での飲酒禁止」のポスターを張り出した結果、違反者もなく徹底させることができ、鈴風祭を事故もなく平穩のうちに終了できた。
- ・性被害に遭った時にワンストップで支援する窓口が長野県に設置されたことに伴い、「長野県性暴力被害者支援センターりんどうハートながの」のパンフレットを通じて、学生に啓蒙することができた。
- ・進路指導室を事務室向かいから学生ホールに移転して2年目を迎えるが、学生が利用しやすい環境づくりに配慮した結果、国試関連図書の利用状況が昨年度の73件から128件に増加した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題(懸案事項)

- ・安易な口コミを通じた求人（先輩から後輩へ）について，引き続き警告を発する必要がある．最近，求人ルールに違反した教室への張り紙が影を潜めている反面，line による先輩から後輩への求人が目立っているため，随所で警告していく必要がある．
- ・第3回市町村保健師採用合同説明会は，参加する自治体の拡大を検討しながら継続する必要がある．
- ・本学学内で実施した第1回目の新入生オリエンテーションの企画・運営を，学生自治会の協力を得ながら，教職員と在学生がこぞって新入生を歓迎する機会として継続していく必要がある．
- ・平成28年度国家試験の合格率を維持しながら，引き続き保健師・助産師・看護師の100%合格を目指して，細やかな工夫を継続する必要がある．
- ・行政保健師の内定者を，常時10名以上確保する必要がある．

(2) 将来的な課題

- ・中山間地域において行政保健師確保に困難な市町村に，市町村保健師採用合同説明会を通じて，保健師確保支援の場を継続して提供していくこと．
- ・卒業予定者が国家試験に100%合格でき，長野県内への定着率が今年度以上に高まるように，引き続き各種の支援策を工夫し実行していくこと．

第9節 ネットワーク推進委員会

1 所掌事項

(1) ネットワーク環境維持・管理に関すること

- ①コンピュータネットワーク（以下「ネットワーク」という。）のデザイン策定と執行
- ②ネットワークにかかわる予算策定と折衝
- ③ネットワークにかかわる機器の購入・設置・設定
- ④ネットワークのセキュリティ対策
- ⑤ネットワーク関連機器の監視
- ⑥ネットワークに関するクレーム対応
- ⑦アウトソーシング業者の窓口
- ⑧メールアドレスの登録削除変更の学内側の窓口
- ⑨メールアドレス管理

(2) 情報公開・広報に関係すること

- ア 「長野県看護大学ウェブサイト管理運営要領」および「ガイドライン」に示される業務
- イ 大学ウェブサイト（広報関係）の制作主体

(3) IT啓発に関係すること

- ア 学内教職員、また学生向けの啓発活動

(4) その他委員会が必要と認める事項

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- ・委員会の開催6回と下記の関する活動を行った
- ・Google Apps の管理
- ・サイボウズの管理
- ・SSLVPN の管理
- ・人事異動に伴う各種アカウントの処理
- ・ESET および SPSS ネットワークライセンスの認証サーバーの管理

- ・Firewall の機器管理
- ・バーチャルサーバー（インフォバレーと GMO の 2 台）の管理
- ・ドメインの管理（nagano-nurs. ac. jp および. com）
- ・大学ホームページの管理
- ・ホームページによる広報
- ・DHCP サーバー（L 2、L 3）等の機器の管理
- ・新任教職員への G メール・サイボウズ等の使用方法のガイダンス
- ・新入生等への Gメールの使用およびスマホでの受信ガイダンス
- ・領域別実習の全体オリエンテーションでのメール受信方法ガイダンス
- ・大会義室と図書館の無線 LAN の管理
- ・大学院生室 1 から 4 の無線 LAN の管理
- ・大学院生室 1 から 4 のネットワークプリンターへの接続サポート
- ・上記以外の各種個別ガイダンスやサポート

- 多くの活動等で、現状のレベルを維持または向上させ、IT インフラや広報的な点からも学内外へ貢献することができた(ホームページ,Eメール,セキュリティソフトウェア ESET, サイボウズ, SSLVPN, SPSS ライセンス, ドメイン管理等)。また、メールやサイボウズ等、年度末に伴うアカウント作成・切り替え作業、ホームページの更新などについて、これまでの作業方法の見直しを行い、簡素化を行った。これにより、作業時間が短縮された。

そのほか、下記の活動を実施した。

- 「ソーシャルメディア利用ガイドライン」および「学生の SNS 等ソーシャルメディアの使用について」の作成、SNS に関して発生した炎上等の問題について対応フローチャートの作成
- 本委員会で行っている活動や各種作業を文章化した。これにより委員会で共有し、活動の全体像を把握できるようになった。委員間の引継ぎがより円滑にできるようになった。
- 大学ホームページのトップページのバナー等デザイン修正、またサーバーの容量追加
- 大学で購入している SPSS の最新バージョンへのバージョンアップ
- 一定レベルのスキルとキャパシティーを持つ委員の配置による委員会内役割配分の前進があったこと。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

委員会構成の変更や離職などにもなう異動により、継続して委員会内に在籍する委員に過剰な負担がかかる仕組みとなっている。現在、担当を複数に分担し、負担を分散させる試みを行っているところである。

ホームページ管理運営要領には「ホームページの管理に必要な実務を大学の事務局が代行」、「大学の広報として公開するドキュメントは大学の事務局が作成するものとする。」と定められている。このような管理が事務局で実際に実施されればより多くの学内教員が本推進委員会へ配置（担当）可能と考えられる。しかしながら短期間の異動の多い事務職員では難しい。またアウトソーシングとした場合も相当の費用を要する。

これまで学内組織のメーリングアドレスの作成も本委員会で請け負ってきたが、委員の負担を考慮し、今後はサービス利用者のメール環境に実装されているメーリングリストと同様の機能により、利用者自身で対応してもらうことを検討している。

(2) 将来的な課題

委員会活動を行えるスキルを持っている教職員が依然として少なく、これらの教職員が離職した場合、各種システムが管理できなくなる可能性がある。また、技術や知識の習得も、各委員の努力にゆだねられており、負担を強いている現状がある。

また近年、教育機関への標的型の攻撃等、インターネット関連の脅威が増大しており、管理運用にネットワーク上のセキュリティ対策の充実と高度な技術が求められている。しかし委員個人の努力では対応が不可能な側面がある。

第10節 FD委員会活動報告書

1 所掌事項

- ①教員の教育能力開発に関すること
- ②研究能力の開発に関すること
- ③カリキュラム開発への協力に関すること
- ④授業改善に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

第1回／平成28年5月9日(月)

- ①今年度の活動計画および役割分担
- ②第1回FD研修会のテーマ検討

第2回／平成28年7月4日(月)

- ①第1回FD研修会の準備(当日の役割分担等)

第3回／平成28年8月30日(火)

- ①第1回FD研修会の準備(アンケート内容の確認等)
- ②第2回FD研修会の準備(当日の役割分担、アンケート内容の確認等)

第4回／平成28年10月4日(火)

- ①第1回FD研修会の振返りおよびアンケート集計結果の報告
- ②第2回FD研修会の振返りおよびアンケート集計結果の報告

第5回／平成28年11月9日(火)

- ①長野県看護大学研究集会(以下、研究集会)企画・運営の準備(演題発表要領、ご案内のチラシ、発送先等の検討)

第6回／平成28年12月19日(月)

- ①研究集会の運営の準備(演題応募状況の報告、プログラム、購入物品等の検討)

第7回／平成29年2月2日(木)

- ①研究集会の運営の準備(最終発表演題数の報告、抄録集、プログラム、座長等の確認)
- ②新任教職員オリエンテーションの内容の確認および準備

第8回／平成29年2月28日(木)

- ①研究集会の運営の準備(当日の役割分担等の最終確認)
- ②次年度新任教職員オリエンテーションの準備(最終確認)
- ③次年度委員会活動内容の検討

(2) 成果

- ①FD研修会：H28年度は、以下の2回の研修会を開催した

＊第1回FD研修会(FD・SD研修会)

開催日時：平成28年9月1日(木) 13:30～15:30

テーマ：公立大学の現状と課題

講師：公立大学協会事務局長 中田晃氏

研修会概要：H28年度の研修会は、職員も対象に含めた「FD・SD研修会」として開

催した。公立大学がおかれている現状や課題について、教育的・組織運営的観点からの詳細な説明があった。参加者のアンケートでは「大変良かった」～「良かった」と回答した者が9割以上を占め、「公立大学の特徴、在り方、大学改革の向かう方向に関心をもった」という意見が出る等、教員、職員共に、公立大学の理解につながる有意義な研修となった。

＊第2回FD研修会（科研費獲得のための研修会および説明会）

開催日時：平成28年9月7日（水） 16:00～17:50

テーマおよび講師：第1部講師：科研の申請に際し考えたこと（曾根千賀子助教）

第2部講師：審査を経験した立場から（内田雅代教授）

第3部講師：科研費申請手続き（事務局 竹澤隆幸課長補佐）

研修会概要：H28年度は、科研費の採択を目指し、第1部は若手教員の中の科研継続採択者による申請書作成の際の工夫点、第2部は過去に科研の審査員を経験した教員からの申請書作成のポイント、そして第3部は事務からの申請書類作成に際しての注意点を説明してもらった。実施後アンケートでは、7割の参加者が「大変良かった」「まあ良かった」と回答しており、有意義な研修であった。最終的に、H29年度の本学の科研費採択は、応募数26件中、新規採択が8件（新規採択率30.8%）であった。

②長野県看護大学研究集会

開催日時：平成29年3月17日（金） 9:00～15:30

会場：長野県看護大学（大講義室、自習室1、在宅看護実習室、2階エレベーターホール）

参加者：88名（学外者32名、学内教職員56名）

概要：県内看護職者との共同研究、県内看護職による院内研究、産学官関係者による研究、本学の教員特別研究や看護実践国際研究センターの各部門から、計37演題が発表された。参加者数および研究発表の演題数は例年並みであったが、各会場では、看護実践や教育・研究の意見交換が活発に行われ、県内看護職者や学内教員にとって有意義なものとなった。次年度に向けては、ここ数年、会場としている自習室1や在宅看護実習室が手狭になってきており、会場選択を検討していく必要がある。

③平成28年度 新任教職員オリエンテーション

開催日時：平成28年4月1日（金）、6日（水）

会場：長野県看護大学 管理棟 小会議室2

対象者：新任教職員12名

概要：新任教職員を対象に、本学の理念、カリキュラム、システム、事務書類の手続き方法等について、各担当部署より説明を実施した。新任教職員が本学の一員であることを自覚し、新生活にスムーズに適応することの一助となった。

3 今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

- 1）平成28年度に科研助成を受けて行った教員は講師以上で30名中13名、若手教員（助手・助教）で、30名中8名であった。若手教員の採択率の低さが伺われた。FD委員会として、若手教員の「研究能力開発」を支援していく必要があり、次年度の活動として検討していく。
- 2）文科省では看護学教育モデル・コア・カリキュラムの策定が進められているため、FD委員会の所掌事項「カリキュラム開発への協力」を関連委員会に協力しながら進めていく。

（2）将来的な課題

- 1）長野県看護大学研究集会は、H28年度で13回目を迎え、研究成果や情報を交換し合う

場として定着してきている。今後は研究集会のさらなる発展を目指して、学術集会へ移行することを視野にいていく必要がある。

- 2) SD が義務化されたことを受け、本委員会は、次年度 (H29 年度) より、「FD・SD 委員会」となる。それに伴い、委員会規定の第 2 条 (任務) に「(5) 教職員の職務遂行能力の開発に関すること」が加筆された。この任務について、今後はどのような活動を導入するかを事務局も含めて検討していく必要がある。

第 11 節 評価委員会

1 所掌事項

自己点検・評価及び第三者評価 (以下、「大学評価」という。) に関し、次の事項について審議し、取り組んでいる。

- ア 自己点検・評価の企画及び実施に関する事項
- イ 第三者評価への対応に関する事項
- ウ 自己点検・評価の結果の公表に関する事項
- エ 大学評価の結果に基づく活用及び改善方策に関する事項
- オ その他本学の大学評価に関する事項

2 活動と成果

(1) 委員会活動

開催日	委員会	審議事項
5 月 23 日	評価委員会	・ 副委員長の指名 ・ 改善報告書の検討結果について ・ H27 年度の委員会等の活動報告と H28 年度の活動予定について ・ 大学評価実務説明会報告
10 月 15 日	小委員会	・ H27 後学期分の閲覧状況について ・ H28 前学期分の評価結果、教員コメントについて ・ H29 年度に向けた授業評価について
12 月 15 日	評価委員会	・ 第 3 期認証評価における大学評価システムの変更について ・ 評価スケジュール及び報告書担当 (案) について ・ 平成 28 年度長野県看護大学運営協議会での意見について
4 月 6 日	小委員会	・ H28 前学期分の閲覧状況について ・ H29 後学期分の評価結果、教員コメントについて

(2) 成果

- ① 平成 27 年度活動内容を取りまとめた自己点検・評価報告書を作成し、関係者及び教職員に冊子を印刷して配布するとともに、外部への公表として本学ホームページに報告内容を掲載した。併せて、次年度の報告書作成のための準備等を行った。
- ② 平成 27 年度から設置した「授業評価小委員会 (メンバー：学部長、研究科長、FD 委員長、事務局長、教務・学生課長)」を開催し、学生による授業評価結果や教員のコメント等について確認した。
- ③ 平成 30 年 1 月に申請する大学評価に向けて、大学評価システムの変更点やスケジュール、点検・評価報告書の作成担当等について決定した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題 (懸案事項)

内部質保証・質向上のため、各委員会等に助言・提案等を行う等、評価委員会の更な

る機能強化を図る必要がある。教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証し改善改革につなげていくシステムを検討し、教育の質保証に向けた、取り組みを推進していく。

(2) 将来的な課題

引き続き長野県看護大学評価規程第12条に定められている「自己点検・評価」を計画的に実施し、その結果を改善につなげる。

第12節 倫理委員会

1 所掌事項

- ① 申請のあった人及び人に由来する試料を対象とした研究計画の審査
- ② 実施後の報告書の審査
- ③ 研究倫理教育に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 毎月第4火曜日に定例審査及び、倫理審査申請書の改訂の検討などの会議を、計9回開催した。
- 2) 申請の受付および審査を適正に行い、本学における教育、研究が倫理に沿って適正に遂行される条件を提供した。平成28年度の定例審査に申請された案件の審査結果の集計を表1に示す。
- 3) 研究報告書の提出状況の確認を行った。

「倫理委員会規定」第12条に報告義務がうたわれており、別紙様式3が本学ホームページ倫理審査申請用紙と共に添付されている。文科省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」第2章 第5(研究責任者の責務)2(7)にもその義務が謳われていることから、「研究実施後の報告書」および新しく「研究期間延長届」について、倫理審査結果の「承認」報告書に、研究終了時の報告義務について付記し、教員および大学院生に徹底を図った。

- 4) 倫理審査申請時、倫理教育の研修済みであることを「倫理教育研修会のビデオ」の閲覧をもって研修に代えてきた。しかし、昨年より Green book(日本学術振興会編集委員会編：科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一)(丸善出版)の通読学習や愛知淑徳大学教授 山崎茂明先生から倫理教育の研修を受け学んできた。Green book から、また CITI (Collaborative Institution Training Initiative) Japan プロジェクトからも e-Learning が発信されたことを受けて、これらに基づく倫理教育に関する研修に替えることになった。(H28.5.17 授会)
- 5) CITI (Collaborative Institution Training Initiative) Japan e-Learning の無料試行期間が今年度かぎりであるため、大学の団体申し込みを行い全員の取得(任意)を目指した。倫理委員会では成績管理者を竹内・秋山両委員に担当してもらうことにした。取り組みがなかなか進まず再三のメールおよび教授会で呼びかけた。
- 6) 倫理教育研修がこれまでの DVD 視聴から e-Learning に替えていく移行期として倫理審査申請書の改訂を行い過渡期の対応をおこなった。また合わせて大学院生の倫理教育研修については大学院共通科目「看護倫理」「看護研究法」の科目取得または CITI Japan e-Learning が修了していることとした。学部生については、「看護研究方法」の中で、Green book(日本学術振興会編集委員会編：科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一)(丸善出版)を用いて、倫理教育を行っていくこととした。

(2) 成果

- 1) 倫理審査申請とその結果は、表2に示すように、申請件数25件であった。その内決定延期が5件あったため、承認件数は20件であった。承認決定延期の5件は、1件は再々申請、

1 件は再申請、他の 2 件は対象が同一で研究目的により 2 件に分けた申請であったため重なり整理し整えて 1 件の申請にまとめるかたちにして、5 件とも審査の結果承認となった。

条件付き承認となった 20 件中、19 件は修正された研究計画の再提出があり、随時審査を行ない承認となった。1 件は事情により提出が遅れる連絡があり、本年度中の再提出はなかった。

2) 研究報告書提出の徹底をはかり、大学ホームページ上に「研究実施後の報告書」および新しく「研究期間延長届」を掲載し公開した。表 3 に示すように H26 年度は倫理審査実施 28 件、完了報告 17 件、未完了(研究進行中)7 件、進行中で期間延長報告未提出 4 件であった。H27 年度は審査総数 27 件、完了報告 3 件、未完了 15 件、延長報告未提出 6 件であった。延長報告未提出者には個別に連絡し提出を求めている。大学院生及び教員については完了報告が徐々に徹底されてきているが外部の研究者は延長報告未提出が多いので、共同研究の本学教員に指導をお願いしたい。

表 3 研究実施後の完了報告状況 (H29. 3. 31 現在)

年度	倫理審査承認 総数※	完了報告	未完了	延長報告未提出
H26	28	17	7	4
H27	22	3	13	6
H28	20	0	0	0

※申請件数より決定延期の件数を除いた承認件数を扱いとしている。

3) CITI Japan e-Learning の無料試行期間が今年度かぎりであるため、大学の団体申し込みを行い、教員全員 60 名(既に修了者の教員は除く)が申し込み、57 名が修了している(3 月 31 日現在)。

4) 倫理教育研修は CITI Japan e-Learning の受講により日頃曖昧な点や認識していなかったことなど学びがあった。しかし受講内容が修了してしまうとフィードバックできないのが残念であった。今年度は CITI の受講があったので、倫理教育研修会を企画しなかったが、来年度は検討してみたい。

5) 倫理審査申請書の文言の見直しを行ったが、申請書の修正版を作成するには至らなかった。

表 1 倫理審査申請とその結果

月	申請 件数	承認	条件付き承認			決定 延期	備 考
			承認	未確定	取下げ		
4	1	1	1				
5	1	0	0			1	
6	3	1	1			2	(5 月の 1 件を含む。2 件とも 7 月に再申請され承認となる)
7	5	5	5				
8	8	6	6 ^(B)			2	(2 件の申請の対象が同じ為) (9 月 1 件に合体し提出有り)
9	3	3	3				
10	2	2	2				
11	0	0					
12	1	1	1				
1	0	0					
2	0	0					
3	1	1	1				
合計	25 ^(A)	20	20	0	0	5	(A) : 決定延期 5 件を含む (B) : 1 件は条件付き承認以降提出なし

3 今後の課題

1) 喫緊の課題(懸案事項)

(1) 研究倫理教育研修のあり方

倫理教育研修を定期的なものとするか、また新採用者対象の研修などをどのようにしたらよいか、研修の効力の期限はどのくらいにしたらよいかについて検討が必要である。

(2) 研究倫理教育の啓発

- ① 教職員及び大学院生を対象に、研修会をどのように開催していくか。
- ② 学部生の倫理教育について、教務委員会と連携するなどの検討が必要である。

2) 将来的な課題

(1) CITI Japan e-Learning の団体での学習申し込みについて新採用者の対する対応をどのようにするか、経費捻出と合わせ検討が必要である。

(2) オーサiershipにおいて、申請書内に共同研究者の役割を明記する方法を検討する必要がある。

(3) 卒業研究で倫理審査の必要が生じる場合やその対応についての申し合わせが必要と思われる。

第13節 ハラスメント防止委員会

1 所掌事項

- ハラスメント防止のための啓発活動に関すること
- ハラスメントの相談に関すること
- ハラスメントに起因する問題の解決及び被害の救済に関すること
- その他ハラスメントの防止等に関すること

2 活動と成果

1) 委員会活動

(1) 第1回ハラスメント防止委員会：平成28年4月25日（月）

- ① 委員会委員の総入れ替わりで、所掌事項の確認
- ② 副委員長の指名
- ③ 新規採用者及び学生へのガイダンスの実施報告
- ④ 今年度の委員会活動の確認（役割分担）

(2) 第2回ハラスメント防止委員会：平成28年5月25日（水）

- ① ハラスメント防止研修会について
- ② コミュニケーション促進月間について
- ③ ハラスメント相談マニュアルの様式1（ハラスメント相談事案対応申立書）について

(3) 第3回ハラスメント防止委員会：平成28年6月13日（水）

- ① ハラスメント防止研修会について
- ② コミュニケーション促進月間について

(4) 第4回ハラスメント防止委員会：平成28年7月6日（木）

- ① ハラスメント防止研修会について
- ② コミュニケーション促進月間についての報告
- ③ 教職員の忘年会について

(5) 第5回ハラスメント防止委員会：平成28年9月5日（月）

- ① ハラスメント防止研修会について
- ② 忘年会実施について

(6) 第6回ハラスメント防止委員会：平成28年11月14日（月）

- ① 忘年会実施について

(7) 第7回ハラスメント防止委員会：平成29年3月21日（火）

- ① 大学への委員会活動報告について
- ② 研修会と忘年会についての報告と次年度の実施内容の議論
- ③ 次年度の役割分担

(8) そのほか、平成28年度 相談員との連絡を行った。

2) 成果

(1) 新規採用者及び学生へのガイダンス

平成28年度の新規採用教職員及び新入生を含めた学生を対象とし、年度始めのガイダンスにおいて、ハラスメント及びその防止に関する本学の対応を説明した。

(2) コミュニケーション促進月間の実施とマスコットキャラクターの塗り絵の募集

ハラスメントの防止を目的として、学生及び教職員間のコミュニケーションを促進させるため、「7月をコミュニケーション促進月間、朝のあいさつ運動」と定め次の活動を行った。

- ・教職員や学生からリーフレットに使用するマスコットキャラクターの塗り絵を募集し、コミュニケーションの促進を呼びかけた。

(3) ハラスメント防止研修会の実施

教職員への研修会を平成28年9月12日に実施した。武蔵野大学 佐藤佳弘教授が「健康センターの活動報告「インターネット社会におけるコミュニケーションとその落とし穴」と題した講演を行った。59名の参加があり、講演後のアンケートでは概ね肯定的な評価が多数であった。学生・教職員のインターネット社会におけるコミュニケーションとその落とし穴に関し、実例を通してその重要性について受講生の理解が促進できた。ただ、受講生のレベルの差があるため、一部は内容的に不十分で、視点が絞られて、もう少し具体的な話を聞きたいとの意見もあった。

(4) 忘年会の実施

教員のみでなく職員の方も含めて忘年会を実施し、よりいっそうの親睦を図った。この催しには35名が参加し、相互の理解を深めるための一助になった。

3) 昨年度の喫緊課題の解決について

(1) ハラスメント相談マニュアルの様式1(ハラスメント相談事案対応申立書)について

で委員会で検討の結果、このまま運用し、相談員の意見も含め今後検討していくこと。

(2) 研修会への出席率（特に職階が上位の者）は今年度、改善していると確認した。

（教授出席10名/欠席3名、准教授8名、全員出席、講師出席8名/欠席1名）

4) ハラスメント事案の対応 : なし

3 今後の課題

1) 喫緊の課題（懸案事項）

ハラスメント対策ガイドラインを実際に運用する際に必要となる書式や書類、および具体的なマニュアル等の更なる整備が必要である。具体的には、ハラスメント事案への対応を申し立てる際の手続きに要する書式や、マニュアルでは対応できない場合の対策を準備する必要がある。

ハラスメント防止に関し、教員、職員および学生の意識を更に高めていく必要がある。事案は起こっていないものの、本学に構築されている解決方法についての周知の促進などが考えられる。

2) 将来的な課題

ハラスメント防止の効果的活動を検討する。また、ここ数年、ハラスメント相談員へ

の相談件数が皆無または数件程度の状況が続いている。この原因が、学内の人間関係がよい状態なのか、相談員への相談がしにくい状態なのかなどを見極めていくシステムの構築や検証が求められる。この際、総合的な組織づくりの構築も必要と思われる。

第14節 動物実験委員会

1 所掌事項

- (1) 動物実験計画書の申請及び審査に関すること
- (2) 動物実験の実施状況及び結果に関すること
- (3) 施設等及び動物実験の飼養保管状況に関すること
- (4) 自己点検・評価に関すること
- (5) 動物実験の適正な実施に関すること
- (6) 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者に教育訓練の講習会を開くこと
- (7) その他、学長の諮問に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 第1回動物実験委員会：平成28年4月18日
 - ① 文部科学省からの動物実験に係るアンケートへの回答
 - ② 新年度にともなうサイボウズの修正
 - ③ HPの＜研究倫理＞の差し替え
 - ④ 外部検証の申し込みについて
 - ⑤ 外部検証のための必要書類の準備
 - ⑥ 動物実験計画書の審査
 - ⑦ 実験動物慰霊祭の日程の決定
- 2) 第2回動物実験委員会：平成28年6月27日
 - ① 新年度にともなうサイボウズの修正
 - ② 外部検証の申し込みについて
 - ③ 動物実験報告書の確認
- 3) 第3回動物実験委員会：平成28年7月11日
 - ① 自己点検票の位置づけの確認
 - ② 外部検証に関する細部の確認
 - ③ 動物実験計画書の審査
- 4) 第4回動物実験委員会：平成28年10月25日
 - ① 自己点検票の補充とサイボウズへのアップ
 - ② 実験動物慰霊祭に関する各委員の役割分担の確認
 - ③ 外部検証に関する書類および当日の役割確認
- 5) 外部検証：平成29年3月9日
 - ・信州大学の松本清司先生をお迎えして外部検証が行われた
- 6) 第5回動物実験委員会：平成29年3月21日
 - ① 年度末に係る書類の確認（使用実験動物数・動物実験等の成果についての報告書、実験動物の飼養及び保管に関する記録、動物実験に関する自己点検・評価報告書、動物実験委員会活動報告）
 - ② 動物実験報告書の確認
 - ③ 次年度に実施すべき課題について

(2) 成果

- 1) 動物実験計画書の審査と委員会による承認
- 2) 動物実験に係る教育訓練の実施
- 3) 動物実験に関する自己点検・評価報告書の作成及びその公表
- 4) 動物実験等に関する情報の HP での公表
- 5) 動物慰霊祭の実施
- 6) 動物実験施設の査察
- 7) 外部検証の実施

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

今回の外部検証を通して指摘された、各種届け出用紙（施設廃止届、動物実験計画変更届、苦痛度の集計表、動物室環境記録等）の不備を補う。

(2) 将来的な課題

次回の外部検証に向けて、喫緊の課題以外の、ご指摘を受けたさまざまな課題を精査して、徐々に改善していく。具体的には、動物愛護法を規程に反映させる課題、計画書の有効期限の設定等である。

第 15 節 感染症対策委員会

1 所掌事項

- (1) 本学におけるインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症発生の予防と対応に関すること
- (2) 感染症に関する情報の収集、調査に関すること
- (3) その他感染症に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

1) 委員会での審議、感染症予防活動等

年月	内 容
28. 4	ガイダンスにおいて学生に本学における感染症対策を周知
28. 9	結核週間に合わせ、啓発
28. 10	インフルエンザについて注意喚起、予防対策指導（掲示） 第 1 回感染症委員会にて、小児ウイルス感染症の抗体価検査と予防接種のスケジュールの変更について、及び具体的な進め方について審議。また、職員のインフルエンザ予防接種勧奨についても検討。教授会へ提案、承認。
28. 11	インフルエンザ予防策（予防接種）について情報提供（掲示）
28. 12	世界エイズデーにあわせエイズ・性感染症啓発（掲示）
28. 12	インフルエンザ・感染性胃腸炎について注意喚起、予防対策指導（掲示）
29. 1	インフルエンザ・感染性胃腸炎について注意喚起、予防対策指導（メール）
29. 2	インフルエンザについて注意喚起、予防対策指導（メール）
29. 3	第 2 回感染症委員会にて、小児ウイルス感染症の抗体価検査の進捗状況、職員のインフルエンザ予防接種状況について確認。28 年度の感染症による出席停止の状況についても確認。

2) 感染症発生時の対応（感染者の把握・情報収集と対応）

年月	内 容
28. 4	インフルエンザの学生1名に保健指導
28. 11	感染性胃腸炎を疑う学生1名に保健指導
28. 12	インフルエンザの学生3名に保健指導
29. 1	インフルエンザの学生3名に保健指導
29. 2	インフルエンザの学生1名に保健指導
【出席停止 件数】	感染性胃腸炎疑い : 1件 インフルエンザ : 8件

(2) 成果

- 1) インフルエンザ・感染性胃腸炎疑いと診断された学生に対し、保健指導を行った。特に感染性胃腸炎疑いの学生には、資料を作成し、家庭訪問にて指導した。その結果、新たな感染拡大はなかった。
- 2) 新年度入学者に対しての小児ウイルス感染症の抗体価検査と予防接種の実施スケジュールを見直し、入学前に抗体価検査を勧奨した。年度内にほぼ必要な情報を回収する事ができ、次年度の活動につなげる事ができた。

3 今後の課題

- ・学部学生及び大学院生・教職員に対して、有症状時の受診や出席停止等について引き続き周知徹底していく。
- ・小児ウイルス感染症の抗体価検査と予防接種のスケジュール及び具体的な進め方について、28年度の状況を見直し、改善していく。
- ・新興感染症等が出現した時には、長野県看護大学新型インフルエンザ等発生時業務継続計画の応用や新たな対応の検討が必要である。

第16節 コンソーシアム運営委員会

1 所掌事項

委員会の所掌事項を定めた学内規定等はない。設置の目的は、「コンソーシアム信州に加盟している本学が、これに関する活動を学内外で実施する際、円滑に行われる様にする」とと委員会は認識している。事実上の暫定的な所掌事項として下記の項目が挙げられる。

- (1) コンソーシアム信州の教育部会に関する事
 - ア 教育部会への出席と、本学窓口としての協議
 - イ 推進チーム会議への出席と、本学窓口としての協議
 - ウ 遠隔授業等の発信および受信（受講）に関する事項
 - エ ピア・メンター育成合宿に関する事項遠隔授業の受信に関する事項
 - オ 長野県内大学単位互換制度の、本学窓口としての協議
 - カ その他、コンソーシアム信州の活動に関する事
- (2) コンソーシアム信州の学生支援部会に関する事
 - ア 学生支援部会への出席を本学学生委員会に要請
- (3) コンソーシアム信州の推進チーム会議に関する事
 - ア 推進チーム会議への出席と、本学窓口としての協議
- (4) その他委員会が必要と認める事項

2 活動と成果

1) 委員会活動

(1) 第1回委員会：平成28年4月26日（火）

学内周知を行うため、教授会で報告した。

- 学内で開催される平成28年度教員免許更新講習の案内（喬・屋良）
- 今年度の遠隔授業について
- 県内9大学合同学生キャンプについて

(2) 第2回委員会：平成28年9月6日（火）

- 県内9大学合同学生キャンプの参加（本学教員1名、学生5名）
- 次年度の遠隔授業の教員の募集（喬：教授会案内）
- 次年度教員免許更新講習の募集
- 県内9大学連続市民セミナーについて

(3) 第3回委員会：平成29年2月7日（水）

- 来年度のコンソーシアム信州の教育部会関係事業について、これまでの部会等（教育部会、学生支援部会、推進チーム会議）が1つに集約（推進チーム会議）され、本運営委員会の3名のメンバーは、次年度からの「推進チーム会議」のメンバーにそのまま移行（会議参加）することを決定した。

2) 成果

- (1) 遠隔授業（宮越准教授）を今年も実施した。本学の履修生9名が履修した。
- (2) 9大学合同キャンプに本学学生5名が参加した。
- (3) 野辺山高原 global night に本学学生4名が参加した。
- (4) 県内9大学連続市民セミナー「健康長寿を考える」を7回受信した。
- (5) 教員免許更新講習会を行い、2つの講座を開設し、計62名の小、中、高等学校の教員が受講した。
- (6) 教務ガイダンスで学生への遠隔授業を案内した。
- (7) 学生共同募集PR事業に参加した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 遠隔授業については引き続き学生などへの案内とともに他大学学生が履修しやすい時間割等の調整を引き続き行い、受講者の獲得に努める必要がある。

(2) 将来的な課題

高等教育コンソーシアム信州の存続への係わり方について、様々な観点から検討する必要がある。

第17節 防災委員会

1 所掌事項

- 1) 学生及び教職員の防災及び減災意識の向上に関すること
- 2) 災害発生時の対応策に関すること
- 3) 大学施設の防災及び減災に関すること
- 4) 地域との防災及び減災の連携等に関すること
- 5) その他防災及び減災に関すること

2 活動と成果

1) 平成 28 年度の活動目標と実施状況

- (1) 委員会メンバー交替に伴う防災体制に関する現状把握と喫緊の事項に対する対応
 - ① 自衛消防隊組織等の更新とアクション・カードの所持・運用理解の周知徹底
 - ② 1 年生への防災関連のガイダンス実施
- (2) 発災時の「学内」初動体制の確認と周知徹底
- (3) 「防災マニュアル」の点検・修正、配布
- (4) アクション・カードを用いた防災訓練の実施および評価
- (5) 駒ヶ根市との包括的連携に基づいた防災・減災対策、発災時の初動・避難所対応の確認整備

2) ワーキング・チームと活動内容

委員会組織の改変に伴い、所掌事項に沿って次のとおりワーキングチームを編成し、活動した。

No.	項目	活動内容
1	組織・情報伝達	1) 各防災組織・連絡体制図の更新 2) 自衛消防隊班員の更新と班長顔合わせ 3) 初動体制の確認と周知徹底
2	防災マニュアル、アクション・カード	1) 「防災マニュアル」の点検・修正 2) アクション・カードとマニュアルの整備・徹底 3) 防災ハンドブックの検討・作成
3	防災訓練	防災訓練の企画・周知・実施・評価
4	防災備品の点検整備・文書管理	1) 防災備品庫の点検リストの作成、点検の定期化、欠品の補充 2) 自衛消防隊委員配布品の整備 3) 無線機の使い方の講習・訓練時の導入 4) 委員会で扱う資料の整理・文書管理 5) 非常時持ち出し袋の新設・点検の定期化 6) 全課程学生および学内関係者すべての名簿整備と更新の定期化
5	地域との連携	1) 駒ヶ根市との包括連携協定内容の確認と周知 2) 発災時の初動、備蓄等、必要な対応の確認とシステム整備 3) 地域防災訓練等の企画への参加 ・駒ヶ根市防災訓練（平成 28 年 8 月 28 日） ・上穂地区 5 町内防災訓練（同上） ・市福祉課防災企画（平成 28 年 11 月 26 日） ・市中沢区防災訓練（平成 29 年 3 月 5 日）
6	防災・減災教育	1) 新入生への防災ガイダンス実施（鈴風寮含む） 2) 学生への「大規模災害時の対応」の周知（学生便覧への加筆） 3) 全課程・全学年への防災ガイダンス企画（平成 29 年度より予定） 4) 関係機関との連携および研修機会等への参加 ・駒ヶ根日本赤十字奉仕団の定例会議、救命法等の定期訓練参加 ・日赤救命法および日赤救急員養成講習 受講 ・日本トイレ研究所「基礎編」「計画編」セミナー受講 ・富士市 DIG（災害図上訓練）セミナー受講 ほか

3) 今年度の委員会の開催状況と内容

* 第 2 回より「学長への報告事項とコメント」「各ワーキング・チームの進捗状況」報告を定例化した。

回数	期日	主な審議事項
1	6月14日(火)	1) 「長野県看護大学防災委員会規程」「防災委員会活動報告」の内容確認 2) 委員会内業務の確認と分担の決定、年間スケジュール案の検討 3) 平成28年度防災訓練日時および内容案の検討
2	7月21日(火)	1) 駒ヶ根市との「包括的連携に関する協定」「災害時における協力体制に関する協定(平成22年)」に関する現状と今後の課題 2) 各ワーキングチームの連絡担当者、短期・長期活動目標の確認 3) 防災訓練の内容検討
3	9月5日(月)	防災訓練進行表の検討
4	10月12日(水)	防災訓練の内容検討(準備日程・消防隊名簿の更新・実施計画・評価等)
5	11月17日(木)	1) 平成29年度防災委員会予算案 2) 防災訓練の振り返り(アンケート結果・実施報告書案) 3) 次年度防災訓練時期および内容
6	1月18日(水)	1) 次年度防災訓練についての検討 2) 学生への防災知識提供資料の検討 3) 生協施設の構造点検と防災対策の検討 4) 本学が避難所になった場合の「災害時トイレ運用」試案作成の提案 5) 今年度予算で購入する委員会関連物品の確認
7	2月20日(月)	1) 「大規模災害時の学校における避難所運営の協力に関する留意事項について」(文部科学省初等中等教育局)の内容確認 2) 新年度防災ガイダンス実施案の検討
8	3月16日(木)	1) 平成28年度本委員会「自己点検・評価報告書」案の内容検討 2) 新年度防災ガイダンス内容の検討 3) 次年度の活動に関する検討

4) 防災訓練の実施・評価

平成28年10月21日(金)：午前10:30～11:30【地震を想定した情報伝達訓練】

午後14:20～15:00【地震による火災を想定した避難訓練】

内容：進行資料およびアクション・カードを用いた「情報伝達訓練」と「消防避難訓練」を行った。

総括：委員が交替し、かつ訓練に参加できない教職員にも訓練内容を周知する目的で、関連資料を事前公開した結果、午前の訓練は昨年よりもスムーズに進行したが、資料間の不整合や本部機能の偏りなど、今後の防災対策上、改善を要する点の情報を得ることができた。特に、訓練前にどこにどの情報を公開するか、という訓練内容の共有方法やタイミングは、準備段階の重要な課題となった。午後の訓練では、進行役が重複した役割を担当していたため、一部で対応できなかった場面があった。また、進行の遅れもあった。今回の訓練から午前と午後の訓練ごとに、直後のフィードバックを設けたことは、実際の災害時を想定した動きや備えを昨年以上に考える機会となり、防災訓練は防災への備えを高めるだけでなく、(学生を含めた)防災教育の場として活用できる可能性も見出すことができた。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題：

- 1) 防災訓練のフィードバック結果等をもとに、生協施設等を中心としたハイリスク箇所

を中心に、関係者が連携して対策を検討し、平成 29 年度防災訓練までに優先度の高い箇所の対策を講じる。

- 2) 学部・大学院・認定課程・新任職員全員への防災ガイダンスを 4 月当初に全員を対象に実施する。
- 3) 自衛消防隊組織表の見直し、名簿の更新、班長顔合わせを毎年度 7 月までに計画的に実施する。
- 4) 平成 29 年度 5 月～6 月に「防災マニュアル」の修正更新版を作成し、配布媒体・方法・配布対象を決定後、自衛消防隊の班長会議で担当者に解説する。
- 5) 教職員を対象とした防災・減災に関する研修会を、平成 29 年度内に最低 1 回実施する。
そのほかに教職員への防災/減災の啓発として、自助・共助の具体的提案に関する学内への情報提供を、防災訓練後と 3 月 11 日前後の合計 2 回行う。
- 6) 大災害の発生時の学生・教職員の安否確認方法について、従来のメールシステムおよび災害用伝言ダイヤルの利用以外に、情報通信網の断絶を想定したより確実な代替案の検討を引き続き行う。

(2) 将来的な課題：

- 1) 学生の防災・減災に関する企画をサークルや大学行事に組み入れ、実施には地域との連携も試みる。
- 2) 本学の避難所等としての運営に関する検討を、上穂 5 町内と連携して平成 29 年度春より開始する。
避難所として活用される際の要検討事項としては、次の点があげられる。
①防災直後の体育館開放の基準・開錠方法（鍵の管理含む） ②大学教職員の動き方、配置
③市役所等との連絡体制の構築 ④グラウンドから体育館への動線（未舗装、階段など危険）
⑤グラウンドでの車輛の駐車位置 ⑥受付、名簿の作成、チェック体制、各種トリアージ体制
⑦即座に必要なトイレ対策（収容人数に対する絶対的不足、未洋式化、備蓄なし）
⑧実際の収容可能人数の算定と各人の必要スペース、配置図の策定 ⑨収容想定人数に対する必要備品、物資の検討、公助として提供される物と自主的な備えの想定

第 18 節 安全衛生委員会

1 所掌事項

- (1) 教職員の危険及び健康障害を防止するための基本となるべき施策に関すること
- (2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること
- (3) 公務災害の原因及び再発防止対策に関すること
- (4) その他教職員の危険及び健康障害の防止並びに健康の保持増進に関すること

2 活動

(1) 委員会活動

年月日	内 容
28. 6. 30	職員安全衛生管理規程に基づく第 1 回安全衛生委員会を開催。安全衛生管理体制や教職員の健康管理状況、化学物質等に係るリスクアセスメントの状況、ACE プロジェクト、年次休暇取得状況及び超過勤務実績状況等について協議、検討
28. 7	労働安全衛生月間を周知 ストレスチェック実施
28. 8	ストレスチェック結果を配付
28. 10	全教職員に「労働者の疲労蓄積度自己診断チェック表」を配信、心身のセルフケアについて啓発
28. 11	職場点検チェックリストを活用した職場巡視実施

28. 11. 8	第2回安全衛生委員会を開催。学内のストレスチェック結果について委員会内で共有し、職場環境改善策を検討
随時	交通労働災害防止等について教授会等で啓発
随時	定期健康診断や人間ドック、各種検診、ACE プロジェクト・ストレッチについて周知、啓発、受診勧奨、精密検査等の事後指導実施

(2) 成果

ストレスチェックが実施され、その結果を踏まえて委員会を開催し、学内の状況を確認、問題点を共有し、今後の対策等を検討する事ができた。

3 今後の課題

- ・健康障害の防止や健康の保持増進に係ることについて、教職員の啓発や受診勧奨等を継続強化していく。

第19節 研究科委員会教務部会

1 所掌事項

長野県看護大学看護学研究科教務部会は、看護学研究科博士前期課程、博士後期課程の大学院教育に関する以下の内容を扱う。

- 看護学研究科カリキュラムに関すること
 - カリキュラムの検討と作成
 - 非常勤講師について（依頼と決定）
- 看護学研究科単位取得に関すること
 - 博士前期課程・後期課程の大学院生の単位取得状況の確認
- 看護学研究科科目履修に関すること
 - 大学院科目履修の決定
 - 科目履修生の選考
- 看護学研究科院生の休学、退学、長期履修などに関すること
 - 休学・退学願、長期履修願、奨学金返済免除者の審査
 - 長期履修希望者の選考
- 看護学研究科修士論文、博士論文の審査及び学位授与に関すること
 - 修士論文審査基準と審査方法の見直し
 - 修士論文発表会の進行
 - 博士論文審査委員選出
 - 博士論文審査基準の見直し
 - 博士論文発表会進行
 - 博士論文審査結果公表の手続き等
- 上記1～5に関わる学則の検討
- 看護学研究科院生の大学院生活全般に関すること
 - 年1回の大学院生と教務部会委員との話し合いの開催

2 活動と成果

(1) 部会活動

第1回教務部会（4月5日）

- ① 副部会長を選任した。
- ② 退学願1名について審議した。

- ③ 博士論文研究計画書審査体制を確認した。
- ④ 研究生の研究期間延長について審議した。
- ⑤ H27 ティーチングアシスタントの実施状況について確認した。

第2回教務部会（5月13日）

- ① H28 修士論文研究テーマ(仮)・論文指導及び審査委員(案)について審議した。
- ② 大学院授業科目の履修登録状況(修士・博士)について確認した
- ③ 教務部会の年間計画について確認した。

第3回教務部会（9月14日）

- ① 休学願1名について審議した。
- ② 研究生の研究期間延長について審議した。
- ③ 研究生の選考について審議した。
- ④ 大学院生との話し合いの結果について確認した。

第4回教務部会（10月18日）

- ① 平成29年度大学院博士前期・博士後期課程入学願書提出者における長期履修希望状況及び、長期履修の申請条件（博士前期課程3名）を確認し、承認した。
- ② 大学院シラバス・学生便覧作成スケジュールについて確認した。

第5回教務部会（12月2日）

- ① 平成28年度後期 博士論文審査委員（案）を審議した。
- ② 平成29年度非常勤講師について審議した。

第6回教務部会（1月17日）

- ① 長期履修希望状況及び長期履修の申請条件（博士前期課程1名）を確認し、承認した。

第7回教務部会（1月24日）

- ① 大学院修了予定者単位取得状況について確認した。
- ② 平成28年度修士論文発表会の日程を審議した。
- ③ 平成29年度科目履修生募集要項（案）
- ④ 平成29年度研究生募集要項（案）を審議した。
- ⑤ 平成29年度長野県看護大学県内大学単位互換履修生募集要項（案）を審議した。

第8回教務部会（3月16日）

- ① 長期履修在学期間の短縮について審議した。
- ② 退学願（博士前期課程1名、博士後期課程1名）について審議した。
- ③ 博士前期課程の修得単位の認定について審議した。
- ④ 博士後期課程の修得単位の認定について審議した。
- ⑤ 平成29年度研究生の選考について審議した。
- ⑥ 平成29年度大学院時間割を確認した。
- ⑦ 平成29年度学年暦について確認した。
- ⑧ 平成29年度大学院生名簿及び研究室名簿について確認した
- ⑨ 平成29年度大学院教務ガイダンス日程について確認した。
- ⑩ ティーチングアシスタントの実施状況について確認した。

（2）成果

- ① 大学基準協会より指摘されていた、ディプロマ・ポリシー（博士前期課程・後期課程）、カリキュラムポリシー（博士前期課程・後期課程）、修士論文・博士論文指導教員、論文審査体制などを明記した大学院学生便覧・シラバスに基づいて、大学院の教育目標、教育課程の方針を入学生、在学生に対して引き続き周知した。
- ② 本学の立地条件と就労しながら学ぶ学生が増加していることなどを鑑み、新たに遠

隔対応科目を拡大し、活用方法を学生に具体的に説明した。

3 今後の課題

- (1) 論文博士審査の学位規程に基づき内規が設けられているものの手順・様式等に一部未整備な個所がある。
- (2) 大学院における教育の質評価の方法を具体的にすることが必要である。

第20節 研究科委員会入試部会

1 所掌事項

- (1) 入試科目及び期日の選定に関すること、(2) 合否判定の基礎資料に関すること、
- (3) 入試の追跡調査に関すること、(4) 入試のあり方に関すること、(5) その他 入試に関すること

2 活動と成果

(1) 部会活動

- 1) 第1回入試部会(平成28年4月12日(火) 16:30~18:00)

- ①入試部会の規程及び部会員の役割の確認
- ②今年度の入試日程の確認
- ③平成29年度学生募集要項の検討
- ④入試科目・システム等の見直し
博士前期課程の英語試験の在り方について協議
- ⑤今年度の活動計画・課題の確認
- ⑥その他

北山部会長の提案により、オブザーバーとして適宜、渡辺研究科長、酒井助教、高橋助教の出席を承認した。

- 2) 第2回入試部会(平成28年5月10日(火) 13:30~15:15)

- ①平成29年度学生募集要項の確認
- ②受験者確保対策の検討(病院等の施設訪問の検討)

- 3) 第3回入試部会(平成28年6月14日(火), 13:30~14:45)

- ①受験者リクルートのための訪問施設、訪問教員の確保及び持参する資料等の検討
- ②入試科目・システム等の見直し(各委員の模擬問題の検討等)について
・今年度10月の大学院博士前期課程入試(1次)より看護系からの出題を取り入れる。
・北山部会長からの英語問題出題についてのチーム構成(作問と採点の各チーム)素案検討

- 4) 第4回入試部会(平成28年6月28日(火) 13:30~14:30)

- ①受験者リクルートの為の訪問施設と訪問教員の確認等
・研究科委員会で病院等施設訪問に関するオリエンテーションを行う。
・受験者リクルート(訪問次第、持参する資料等の確認)について
- ②入試科目・システム等の見直し(作問委員、採点委員の選出・役割等の検討等)について
- ③その他(・サラスシステム利用の課題について)

- 5) 第5回入試部会(平成28年7月12日(火) 9:00~9:50)

- ①博士前期課程「英語」試験問題作問等について
第1回目の委員会は7月19日(火)教授会後に開催
- ②受験者リクルート(持参する資料の確認)について

- 6) 第6回入試部会(平成28年9月7日(火) 9:00~10:00)

- ①病院等施設訪問進捗状況について
- ②学報の大学院だよりの企画について
- ③博士前期課程「英語」の試験問題作成について
- ④入試配置表の検討
- 7) 第7回入試部会(平成28年9月20日(火)13:00~14:00)
 - ①病院等施設訪問進捗状況について
 - ②博士前期課程出願資格事前審査について
 - ③入学試験実施配置表について

これまで博士後期課程と同日程で前期課程の入試を行っていたが、今後前期課程の受験者が増えた場合、同一日程での実施が困難になることも想定されることを確認した。
- 8) 第8回入試部会(平成28年10月15日(土)16:00~16:30)
 - ①入試の可否判定

博士前期課程(修士課程)入学試験合格者を受験者5名全員とした。
 なお、博士後期課程(博士課程)受験者なしであった。
- 9) 第9回入試部会(平成28年12月22日(木)13:30~14:00)
 - ①博士前期課程2次試験出願資格事前審査について
 - ②2次試験業務処理要領・試験実施配置表の確認について
- 10) 第10回入試部会(平成29年1月12日(木)17:30~18:00)
 - ①2次試験実施組織表の修正について
 - ②平成29年度生のサラスの利用調査について
- 11) 第11回入試部会(平成29年1月21日(土)14:15~14:45)
 - ①本日の大学院入試結果についての部会判定に関して

2次試験受験者の博士前期課程1名(看護管理学分野、特別選抜:英語なし)、
 博士後期課程1名(看護管理学分野)の試験結果の判定について検討した。

 - ②平成30年度大学院入試日程に関して

北山部会長より、願書受付の締め切り日から試験日までの日程が過密であることから、
 試験日及びそれ以降の日程を、例年より1週間程度繰り下げることが提案され了承された。
- 12) 第12回入試部会(平成29年3月21日(火)13:30~14:30)
 - ①県内病院等施設訪問「アンケート結果」に関して
 - ②平成29年度の入試に関して

北山部会長より、博士前期課程の英語の試験については今年度同様に看護系教員による
 作問体制にて実施し英語教員のアドバイスをうけること、博士後期課程に関しては、
 外国人入学希望者が英語による口述試験を受けられるよう(平成30年度の実施を視野に入れ)、
 検討していくことが説明され了承された。

 - ③新入生ガイダンス時の「サラス」のインストールについて

サラスシステムの積極的な活用を促すために、新入生に「サラス」のPCインストールと
 使用説明をネ推委員会に依頼した。

(2) 成果

1) 大学院パンフレットの検討

大学院パンフレットに、本学大学院の特長および1次試験・2次試験の日程等をわかりやすく記載するとともに、領域別の研究活動や連絡先を明記した。

2) 学報の「大学院だより」の作成

大学院の広報活動の一環として、学報の「大学院だより」に、新任教員の研究活動や院生

の学修状況等に関する記事を掲載するとともに、大学院入試部会の活動について紹介した。

3) 受験者確保対策

今年度、県内病院等 18 施設に直接訪問して、本学の特長等について説明するとともに、本学卒業生の仕事ぶり・印象・動向、遠隔授業のためのサラス導入の可能性等について意見交換した。アンケート調査も行ない、後日 11 施設からアンケートを返送して頂いた。概要は、以下のとおりである。

- ・本学大学院をキャリア支援として活用できそうと答えたのは約 8 割。
- ・在職中の卒業生は 286 名、1～5 年目 147 名、6 年～10 年目 89 名、10 年以上 50 名。
- ・本学大学院に期待することは、【教員・指導者の確保や教育体制の充実】【研究や情報の発信・看護協会との連携】【就労しながら学びやすい環境づくり】等であった。
- ・訪問に対する感想としては、遠隔授業や長期履修の説明により仕事と両立できることがわかった、キャリア形成としての大学院修学の重要性を感じ本学大学院を看護師に紹介していきたい、顔の見える関係づくりが大切である等であった。
- ・本学大学院修了生の集いの場があればいい。また、病院等施設訪問された教員の皆様の報告書によれば、受験内容や長期履修制度等について直接丁寧な説明を受けて本学大学院がより身近になった、職場や自宅で遠隔授業が受けられるのは便利で有難い、等のコメントがみられた。

以上から、大学院入試部会では施設訪問の目的は概ね達成されたものと認識している。しかし、継続的な志願者確保に繋げるためには教育環境の充実(質の高い教員の確保等)とともに本学大学院に対する理解を深めて頂く必要があり、平成 29 年度も病院等の施設訪問を引き続き進めていく予定である。

4) 英語試験問題作成等

大学院受験における「英語」試験科目について、より看護学分野に近接した内容による読解中心とした問題・解答作成、合否判定を行うために、平成 28 年度から入試部会内に「英語問題作成委員会」を設け、同年度 1 次募集博士前期課程試験で実施した。受験生からは概ね好評であった。試験問題の適切性、公平性等を高めるために、引き続き精査していく予定である。

5) 入試システムの検証と見直し

①募集要項、②入試業務処理要領、③合否判定基準等の検証と見直しを継続的に行う必要がある。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題

1) 受験者および入学者の確保(具体策の検討と実施・評価)

- ①英語試験問題作成等の検証・評価
- ②県内病院等の施設訪問などによる継続的な広報活動
- ③サラスシステムによる『遠隔授業』の拡大と広報活動
- ④特に、博士後期課程の英語による口述試験の導入

(2) 将来的な課題

- 1) 受験者および入学者確保の対策を継続する。
- 2) 大学院博士前期課程の定員について検討する。
- 3) 県内で新たに開設予定の大学看護学部の教員人材育成に貢献する。
- 4) 公正・公平な入学試験実施と定期的な合否判定の適切性の検証を継続する。

第6章 学生生活及び学生への支援

第1節 学生支援活動

1 学生支援体制

1) 目的

学生支援に係る教職員及び健康センターの役割を見直し、学生の学習・生活の両面からの支援の充実・強化を図る他、大学として迅速な対応を行うための体制を整備する。

2) 個人情報の厳正な取り扱い

- ① 相談窓口となる者は、学生のプライバシーの保護に努める。
- ② 相談窓口となる者は、学生個人の権利利益を保護するため、必要な措置を講ずるよう努め適正な取り扱いを行う。

3) 相談窓口及び実施方法

① 学年顧問

- ・ 各学年に2人の学年顧問を置き、学生の生活・履修・進路・学習面の相談を受ける。
- ・ 休学、復学、退学、奨学金や就職推薦に係る書類作成及び、保護者との連絡・調整を行う。
- ・ 卒業延期生は卒業まで同じ教員が担当する。

② 保健室保健師

健康管理（精神・身体）全般を扱う。

③ 学生支援員・就職支援員

学生支援員は日常生活全般に係る支援を、また就職支援員は、進路・国家試験に係る支援を行う。

④ 臨床心理士（教員兼務）

臨床心理士として学生からの相談に応じる。

⑤ 健康センター

- ・ 学生のこころの健康相談に応じる。
- ・ 窓口は保健室保健師とし、必要に応じて精神看護 CNS や健康センター相談員（外部）の助言を得て対応する。

⑥ ハラスメント相談員

ハラスメント相談マニュアルに基づきハラスメントに関する相談等に対応する。

4) 学生支援の責任者と責務

- ① 責任者は、学部にあつては学部長、研究科にあつては研究科長とする。
- ② 上記3)の窓口となっている者は、学生から相談を受けた場合、自身で解決出来ないと判断した際は、責任者に相談する。
- ③ 相談を受けた責任者は、対処方法を検討して関係者に指示するものとする。なお、必要があると認めた場合には、学長に相談・報告する。
- ④ 学生支援に関わる者の意識の高揚及び資質の向上を目的として、各委員会の協力を得て教職員の自己研鑽を進める。

5) 学長への報告

責任者は、生命への危険性が高い事案、ストーカー行為を受けている事案、親密な関係にある者から身体的・精神的暴力を受けている事案等の重要な事象について、学長に報告し、学長の指示を受けて対応する。

6) 学生支援会議

長野県看護大学学生支援会議設置規程による。

7) ハラスメントに当たる事象

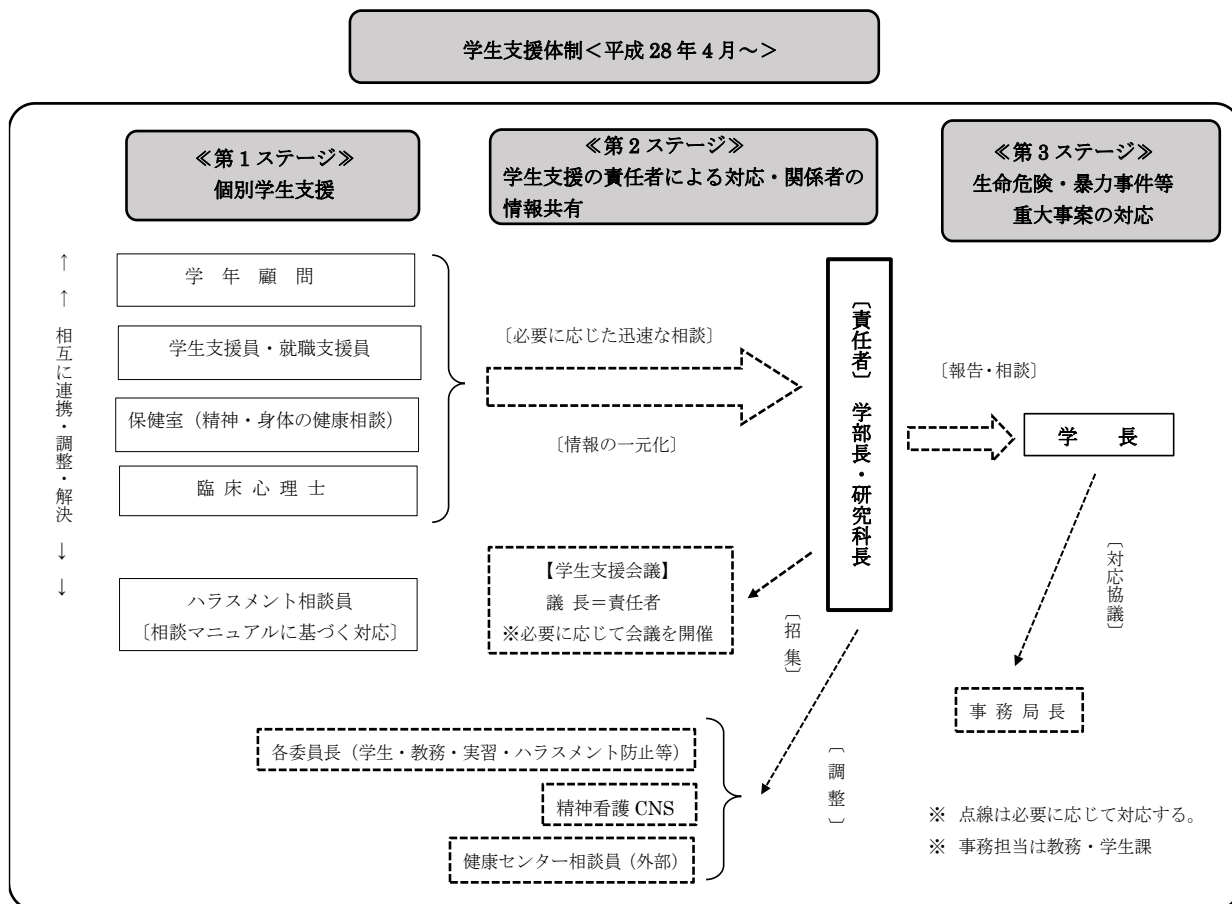
相談窓口となる者は、相談を進めるに伴って学生の抱える問題が明らかになり、ハラスメントにあたるかと判断できる事象が確認された場合、ハラスメント相談として対応することについて学生の了解を得たうえで、ハラスメント防止委員長に報告する。

8) 学生支援体制の見直し等

支援体制の見直し等、学生の支援に関することは、教授会の審議を経て学長が決定する。

9) 事務局

学生支援に係る事務は、教務・学生課が担当する。



2 学年顧問

1) 学年顧問の役割

学年顧問は、学生に身近な存在として学部長の指揮のもと学生の学習や生活に係る相談を受ける。なお、原則として入学から卒業までを同一教員が担当する。

2) 学年顧問の主な仕事

- ① 学生の生活面の困りごとの相談
- ② 学生の学習面の相談（履修単位の修得、実習に関すること、休学・退学等）
- ③ 学生の健康面に関する相談
- ④ 学生の進学・就職、国家試験の準備等に関する相談、看護師国家試験不合格時の支援
- ⑤ その他 奨学金の推薦状の作成等
- ⑥ 学生支援会議に出席する
- ⑦ クラス委員との連絡・調整

3) 学生からの相談に関して学年顧問が連携する部署／担当者

学生の相談内容や問題となっている事項に応じて、就職支援員、学生支援員、保健室保健師、健康センター長、卒業研究担当教員、教務・学生課等の関係者と連携して対応する。

また、必要に応じて学部長に相談・報告をする。

4) 保護者との連絡

学生の保護者への連絡が必要な場合は、学部長に相談のうえ、適任者が対応することとする。また、その結果について学部長に報告する。

平成 28 年度学年顧問

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
顧問の氏名	藤原准教授	有賀講師	千葉准教授	竹内准教授
	小野塚講師	島袋助教	秋山講師	松本准教授

※ 卒業延期生の学年顧問は、卒業まで同じ教員が担当

5) 学年顧問の活動報告

<相談状況>

相談内容 人数等	相談内容別実人数（人） （1 人の学生が、複数の相談をした場合は、相談内容毎に 1 人とカウント）						
	履修・学習	アルバイト	進路・就職	対人関係	健康	家庭環境	その他
1 年	2	2	1				
2 年	9		1		5	4	
3 年	12			2	9		
4 年※	8		3				7

※卒業延期生を除く

<総括>

① 1 学年

H28 年度から開始したスタートアップセミナーに真面目に取り組む様子がみられ、学生委員会主催のキャリアガイダンス I での真摯な聴講態度が印象に残っている。上級生と比べ再試等で単位を落とすことが少ない学年で、学業への取り組みは、まずまずであると受

けとめている。その反面、鈴風祭等の準備段階からの参加は少なく、サークル活動以外で、元気良く他学年と交流する様子はあまりなかった。この学年は、学年顧問として個別の相談を受けることは極めて少ないが、履修上の問題を抱える学生が1名おり、学年顧問2名が協力して、学部長や学生委員長に相談しつつ履修相談を継続的に行っている。

② 2 学年

入学後1年を経て、多くの学生は大学生活に慣れ、安定して授業や実習に取り組むことができていた。一方、授業や実習の単位を複数落とす学生も見られるため、留年の長期化を防ぐための指導を継続していく必要がある。

また、生活面や精神面に問題を抱え、学習面への影響が見られる学生も見受けられた。保健室保健師と情報を共有して対応をしていくとともに、相談の機会などで学生自身が成長できるよう見守っていく必要がある。

③ 3 学年

履修・学習においては、過年度卒業となる学生、基礎看護実習Ⅱの単位が取得できなかった学生を中心に対応した。学生それぞれが立てた履修計画を履修登録前に確認する対応が中心であった。休学期間中に履修すべき科目の開講時期が変更になったことで卒業年度が延長してしまう学生に対しては、当該科目責任者と相談し、当初の計画通りの履修が可能となるよう該当科目の開講時間の調整を行った。

対人関係については、後期からの実習に向けたグループ分けに対して、希望を申し出る学生がいたが、今後も様々な人との関わりが必要であることから、まずは自身で工夫・調整を図ってみて、困ったらいつでも相談するよう伝えた。

健康相談では、休学と学修スケジュールの調整を行ったケースと、心身の健康不安に対し特定の教員に支援を求める学生に対し、該当教員とその上司、学生支援員と情報共有を図り、学生の見守りを行った。

今後も、心身の健康に対して課題を抱えながらの履修、あるいは休学している学生に対しては、適切な治療が受けられる環境の整備と復学後の学修支援を継続していく必要がある。

④ 4 学年

卒業見込みの学生は、看護専門領域実習後半、統合実習を経て、就職、国家試験に向けて、各自が着実に準備をすすめた。

実習に関して大きな問題はなかったが、統合実習における態度面で臨地実習指導者や担当教員から指摘を受ける学生も数名いた。就職の方向性も決まったためか、興味のない分野での実習態度に問題のある学生も数名みられた。助産選択コースも当初は11名いたが、助産実習までに辞退した者3名、実習で単位取得できなかった者2名と、最終的には6名のみの履修となった。意欲的に実習に取り組めないのは、この学年の特徴なのか、現学生全体の問題なのかかわからないが、興味のあることしかやらないという自己中心性が垣間見られた。

就職に関しては、希望通りの就職先で内定をもらう者が多かった。国試については、模試の結果がふるわずに心配されたが、合格率は看護師と助産師が100%、保健師が96.5%と全国平均に比べ好成績であった。

留年生については、健康面も含めたフォローが必要であり、講義や実習に関しては担当教員、健康問題に関しては保健室保健師と相談して対応した。引き続き適宜面接をして、フォローしていく必要がある。

3 新学期の学生生活ガイダンスの実施等

1) 新学期の学生生活ガイダンスの実施

新学期開始直前に、各学年に対して学生生活ガイダンスを実施した。

2) 防犯講習会の開催等

新学期開始直後に、すずらん寮に入居する1年生とアパート暮らしを始める2年を対象に、駒ヶ根警察署の警察官を講師に防犯講習会を実施した。また、10月の全国地域安全運動に合わせ、駒ヶ根警察署と伊南防犯女性部に協力し、学生に対しストーカー被害や個人情報の取り扱い、戸締りの徹底等防犯に関する啓発を行った。

3) ワーキングセミナー

アルバイトに関するトラブルを未然に防止するため、県労政事務所によるワーキングセミナーを開催した。

第2節 キャリア形成支援

1. 在学時における進路支援

1 支援の概要

1) 就職・進学に関する支援

(1) キャリアガイダンスの実施

(2) 進路希望調査の実施

4月：求職票の提出（4学年） 12月：進路希望調査票の提出（3学年）

(3) 個別面談の実施 4月：卒業予定者全員を対象

(4) 求人票・募集要項等の整備

(5) 「進路の手引き」（キャリア支援ハンドブック）の作成

全学年および全教員に配布

(6) 求人等に関する来訪への対応

(7) 職場体験（インターンシップ）・職場見学等の紹介や斡旋

(8) 各種進路関係情報の提供（合同説明会の開催等の情報提供、進路情報誌の配布など）

(9) 大学院等の募集要項の整備

(10) 大学等からの教員募集要項等の整理

(11) 応募及び採用試験への支援

希望者に応募書類作成支援、面接試験個別練習、面接ビデオや関係図書の整備など

(12) 公務員・養護教諭等の受験対策

公務員対策講座への参加斡旋、参考図書等の整備、希望者への個別受験指導など

(13) 新社会人ワーキングセミナーの開催

(14) 県内市町村保健師採用合同説明会の開催

2) その他

(1) 進路資料室の整備・充実

(2) キャリア支援のあり方についての見直し・検討

2 支援の実施状況・結果

1) キャリアガイダンスの実施状況

<一年次>

キャリアガイダンスⅠ 5月18日(水)13:00~14:30

ねらい	○大学における進路選択や就職活動等についての基本的な知識を身につける。 ○本学の卒業時に取得できる免許や資格等を理解する。 ○卒業生の進路動向等により卒業後の進路の可能性を考える。 ○卒業後の進路を見通すことによって学習意欲を高める。 ○学内外の様々な進路選択に関するサポート資源を理解する。
内 容	○本学の進路指導体制や卒業生の進路先など基本的な事項の説明を行う。

<二年次>

キャリアガイダンスⅡ(卒業生シンポジウム) 7月22日(金)13:00~14:30

ねらい	○複数の卒業生による就職活動や職業生活に関するシンポジウムに参加し、進路意識を育むとともに看護職のキャリア形成について考えを深める。
内 容	○卒業生による体験等を踏まえたキャリア形成のためのシンポジウムを行う。 シンポジスト 横谷 優希(伊那中央病院 看護師)、堀内 美紀(塩尻市役所 保健師)、宮阪 理子(丸の内病院 助産師)

<三年次>

キャリアガイダンスⅢ ①12月19日(月)10:40~12:10

② 1月11日(水)14:40~16:10

③ 1月16日(月)13:00~14:30

ねらい	○卒業学年を控えて、希望や個性、特性に応じた進路先を考え、その実現を図るための情報を得るなど就職活動に必要な知識や態度を養う。
内 容	①就職活動のための情報収集や施設見学・職場体験等のポイント、行政保健師(公務員一般試験)および養護教諭(教員採用試験)等について、就職先の選び方などについての指導を行う。 担当者:岡田 実(本学教授)、御子柴 裕子(本学講師)、米窪 伸一郎(就職支援員) ②就職先として可能性のある職場の管理者等を招いて、医療現場の状況や県看護大学生への期待などについて話をさせていただく。 講師:久保 貴三子(諏訪中央病院 小児・産婦人科病棟師長)、中村 杏子(飯島町 保健福祉課 課長補佐 保健師) ③就職情報会社の社員を招いて、履歴書(エントリーシート)の記入や筆記試験、面接試験等就職活動の実際を知るとともに身だしなみ、挨拶、言葉遣い等社会人としてのマナーについての具体的な説明をさせていただく。 講師:村山 亨平(㈱マイナビ キャリアサポート課長)

<四年次><編入二年次>

キャリアガイダンスⅣ 4月6日(水)9:20~9:40

ねらい	○卒業学年として、就職活動に必要な知識や手続きを確認する。
-----	-------------------------------

内 容	○求職活動の手順、履歴書(エントリーシート)の書き方、面接試験や小論文等の筆記試験への対応、求職票の提出についてなど、具体的な就職活動を進めるにあたって必要となる事項の説明を行う。
-----	--

2) 卒業生の就職・進路状況

- (1) 長野県内への就職者は56名(68.3%)で、昨年度(60.0%)に比べ上昇した。県内出身者の県内就職率は85.7%で、高い水準にある。県外出身者の長野県内への就職者が2名あった。
- (2) 看護師は62名で、全就職者の75.6%を占めている。助産師は6名で、昨年度(10名)に比べ減少した。三病院(信州大学医学部附属病院・長野市民病院・伊那中央病院)への就職者は27名で、全病院就職者の40%を占めている。
- (3) 行政保健師は県内7名、県外7名の14名で、昨年度(7名)と比較すると倍増した。
- (4) 養護教諭の就職希望者はなかった。

平成28年度 卒業生の進路状況

平成29年3月31日現在

1. 学部卒業生85名

(1) 就 職 (82名) : 看護師、助：助産師、保：保健師 教：教員] (単位

長 野 県 内						
医療機関・行政機関等	看	保	助	教	他	計
信州大学医学部附属病院	12		1			13
長野市民病院	9					9
伊那中央病院	4		1			5
長野県立こども病院	2					2
昭和伊南総合病院	2					2
佐久総合病院	2					2
安曇野赤十字病院	2					2
丸の内病院			2			2
浅間総合病院	1		1			2
須坂病院	1					1
北信総合病院	1					1
篠ノ井総合病院	1					1
松代総合病院	1					1
北アルプス医療センターあづみ病院	1					1
まつもと医療センター	1					1
信濃医療福祉センター	1					1
諏訪赤十字病院	1					1
諏訪中央病院	1					1
飯田病院	1					1
長野市		1				1
松川町		1				1
木曽町		1				1
辰野町		1				1
豊丘村		1				1
阿南町		1				1
栄村		1				1
計	44	7	5	0	0	56

長 野 県 外						
医療機関・行政機関等	看	保	助	教	他	計
名古屋大学医学部附属病院(愛知県)	2					2
東京大学医学部附属病院(東京都)	1					1
N T T 東日本関東病院(東京都)	1					1
東京医療センター(東京都)	1					1
武蔵野赤十字病院(東京都)	1					1
愛育病院(東京都)	1					1
横浜市立大学附属病院(神奈川県)	1					1
日本医科大学武蔵小杉病院(神奈川県)	1					1
川崎市立川崎病院(神奈川県)	1					1
千葉大学医学部附属病院(千葉県)	1					1
筑波大学附属病院(茨城県)	1					1
春日部中央総合病院(埼玉県)	1					1
戸田中央総合病院(埼玉県)	1					1
愛知がんセンター愛知病院(愛知県)	1					1
長岡赤十字病院(新潟県)	1					1
西新潟中央病院(新潟県)	1					1
新阿武山病院(大阪府)	1					1
長浜赤十字病院(滋賀県)			1			1
多摩市(東京都)		1				1
中野区(東京都)		1				1
足立区(東京都)		1				1
小田原市(神奈川県)		1				1
愛知県		1				1
名古屋市(愛知県)		1				1
江南市(愛知県)		1				1
計	18	7	1	0	0	26
県内・県外 合計	62	14	6	0	0	82

(2) 進 学 (2名)

長崎大学大学院			1
森ノ宮医療大学助産学専攻			1

(3) その他 (1名)

留学			1
----	--	--	---

3 課題及び方策

- (1) 就職希望者が少ない県内の地域中核病院や小規模自治体(行政保健師)について、関係機関等との連携を図り、学生の関心を高め就職に結びつくような方策を検討していく。
- (2) 養護教諭を志望する学生に対する支援について、具体的な方策を構築するよう努めていく。
- (3) 生涯にわたるキャリア形成に資するため、各学年におけるキャリアガイダンスの充実に努めていく。
- (4) 学生の確かな進路選択のために、病院説明会やインターシップへの参加を促し、個人面談等をとおして、適切な指導助言に努めていく。

2. 国家試験の対応状況

1 国家試験への支援の概要

- 1) 模擬試験の実施
看護師 3 回、保健師 2 回、助産師 2 回実施
本学教員に対して模試結果等の関係資料を情報提供
- 2) 国家試験受験手続説明会の開催
11 月 願書の作成について指導、願書の取りまとめ、願書提出(郵送)
2 月 受験票の交付及び受験に関する留意事項等の説明
- 3) 国家試験受験関係業務
受験に必要な書類(願書、修業見込書等)の整備・点検および提出
- 4) 免許申請手続き説明会の開催
2 月 免許申請書類の配布及び留意事項等の説明
- 5) 合格発表後の進路指導
合格状況の確認 不合格者に対する支援
- 6) 既卒不合格者の受験手続や模試等の支援
- 7) 国家試験対策補講の実施(1 月に実施)
- 8) 国家試験受験対策ガイダンス(4 月と 10 月に実施)
- 9) 受験参考書籍等の整備

2 国家試験に関する実績

平成 29 年 2 月に実施した国家試験では、看護師、助産師については全員が合格することができた。保健師については、3 名の不合格者があったが、卒業生全員が希望職種に就職することができた。

＜平成 28 年度国家試験の合格状況＞

	総 数				新 卒				既 卒			
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
第103回保健師	88	88	84	95.5%	85	85	82	96.5%	3	3	2	67%
第100回助産師	6	6	6	100%	6	6	6	100%	0	0	0	-
第106回看護師	83	83	83	100%	81	81	81	100%	2	2	2	100%

3 課題及び方策

受験者全員の合格を目指して、国家試験受験ガイダンスの充実や公開模擬試験および特別補講など今までの取り組みを更に発展・充実するよう努めていく。助産師資格受験者に対して、十分な受験準備が出来るよう支援していく。既卒の受験者に対しては、受験手続きの相談に応じるとともに公開模試の受験促進などの支援を継続していく。

第3節 保健厚生

1 概要

保健室では、学生が心身共に健康で充実した学生生活を送れるよう健康診断や健康相談、傷病等緊急時の応急処置などを行っている。設備は、ベッド、応急セット、衛生用品、薬品棚、書類保管庫、寝具入れ、車椅子1台、血圧計、身長体重計、視力計などがある。保健室には、常勤保健師1名が配置されている。必要に応じて学校医へ相談し、学生支援員（看護師）、学年顧問らと協力・連携して対応している。

○保健室の役割・業務内容

- ①傷病者の応急処置に関すること
- ②健康診断、健康管理に関すること
- ③保健指導及び健康相談に関すること
- ④教育研究活動中の災害を補償する保険に関すること
- ⑤感染症予防や予防接種に関すること
- ⑥学校行事等の救護
- ⑦その他保健に関すること

2 実績

（1）保健室利用状況

平成24年度から28年度の保健室利用状況を表1に示す。相談内容は、体調不良、怪我、月経に関すること、友人関係、進路、精神的問題に関することなど多岐に渡っている。体調不良や怪我等の状況により、受診同行や保護者への連絡などの支援も行った。

また、平成28年度にはインフルエンザ（疑いを含む）等感染症のため9名の学生が出席停止となった。発症した学生等に対する保健指導、大学全体に向けての注意喚起・予防啓発を行い、その結果、重症化した学生や感染拡大・集団感染はなかった。

表1 保健室利用状況

区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
健康相談（身体）	190	168	273	261	295
健康相談（精神）	81	68	61	61	40
相談（その他）	71	69	76	88	98
合計	342	305	410	410	432

（2）定期健康診断の項目と受診状況

定期健康診断の項目は、①身体測定（身長と体重）、②血圧測定、③胸部X線検査（間接撮影）、④血液検査（貧血）、⑤尿検査、⑥内科診察の8項目である。平成24年度から28年度の定期健康診断の受診状況（学部生）を表2に示す。未受診の未受診項目は、尿検査だった。

定期健康診断の結果、各項目に異常が見られた者や自覚症状のある者には、受診指導や保健指導を行っている。精神的不調の兆候が見られる者には、個別面接を実施し、必要に応じて定期的な面接、受診勧奨などを行っている。

また、入学年度の定期健康診断ではB型肝炎抗原・抗体検査及び小児ウィルス感染症（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）抗体検査を併せて実施している。B型肝炎抗原・抗体

検査でいずれも陰性であった者に対しては、予防接種を実施している。小児ウィルス感染症抗体検査で抗体陰性及び陽性低値の者には、予防接種を指導（勧奨）している。なお、29年度からは、小児ウィルス感染症については、大学入学までに各自で抗体検査を済ませてくることを決定した。

表2 定期健康診断受診状況（学部生）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
健診対象者	337	339	342	341	337
受診者数（全項目を受診した者）	336	336	338	338	325
受診率（％）	99.7	99.1	98.8	99.1	96.4

3 今後の課題

学生相談の窓口としては、保健室、学生支援員、学生顧問など複数整備され、学生は相談者を選択することができる。相談対応者は、学生支援会議や個別のカンファレンス等による情報共有や支援の連携が必要であり、その際には本人の同意やプライバシー保護に十分留意することが重要である。

また、受診支援や救急搬送の際には家族への連絡が必要となるが、家族からの支援を受けることが難しい学生もあり、支援体制の検討が必要である。

心身の健康問題が学業に及ぼす影響は大きく、特に科目試験や課題提出が重なる時期や実習期間などには食事の乱れや睡眠不足から体調を崩す傾向がみられる。激しい月経痛などから失神する事例もあるため、学生が日頃からセルフケアできるよう指導していく必要がある。

第4節 修学資金等

（1）修学資金

事務局で取り扱っている奨学金は「日本学生支援機構奨学金」、「長野県看護職員修学資金」、「上伊那広域連合看護師等修学資金」の3種である。本学独自の奨学金はない。

（1）日本学生支援機構奨学金

大学全体の貸与率は33.2%、学部生では36.0%で3分の1を超える学生が利用している。採択率は、追加割当があるため、ここ数年は100%である。大学院生の貸与者はいない。

（2）長野県看護職員修学資金

大学全体の貸与率は2.4%と低い。これは、本資金の貸与対象者を「免許取得後（若しくは大学院修士課程修了後）、直ちに県内の返還免除対象施設で就業する意思があること」としているためと考えられる。

<学部生>

- ・病床数200床未満の病院
- ・精神病床を80%以上有する病院
- ・過疎地域にある病院（県立木曽病院、飯山赤十字病院）
- ・診療所
- ・介護老人施設
- ・指定発達支援医療機関
- ・重症心身障害児施設
- ・母子健康センター（助産師に限る）
- ・地域保健法に規定する特定町村（保健師に限る）
- ・訪問看護ステーション（上記免除施設で3年以上の実務経験が必要）

<大学院生>

- ・医療法第1条の2第2項に規定する医療施設
- ・母子健康センター
- ・地域保健法に規定する特定町村
- ・訪問看護ステーション（医療施設で3年以上の実務経験が必要）

(3) 上伊那広域連合看護師等修学資金

上伊那広域連合が、地域医療再生基金を原資として平成 23 年度に創設した制度で、貸与対象者は、将来上伊那地域において看護職員の業務に従事しようとする者である。

地域を上伊那地域に限定していること、将来返還義務が生じない他の貸与制度との併用ができないことから、貸与率は 2.7%と低い。

2. 実 績

各修学資金の貸与実績については、以下のとおり。

日本学生支援機構奨学金貸与状況（平成28年度実績）

種別	学年	学部生					大学院生		合計
		4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
第一種		14	21	17	17	69	0	0	69
第二種		17	7	13	9	46	0	0	46
併 用		2	1	1	4	8	0	0	8
計 (A)		33	29	31	30	123	0	0	123
学生数 (B)		94	82	80	85	341	15	13	369
貸与率 (A/B)		35.1%	35.4%	38.8%	35.3%	36.1%	0.0%	0.0%	33.3%

長野県看護職員修学資金貸与状況（平成28年度実績）

種別	学年	学部生					大学院生		合計
		4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
貸与者数 (A)		1	4	1	3	9	0	0	9
学生数 (B)		94	82	80	85	341	15	13	369
貸与率 (A/B)		1.1%	4.9%	1.3%	3.5%	2.6%	0.0%	0.0%	2.4%

上伊那広域連合看護師等修学資金貸与状況（平成28年度実績）

種別	学年	学部生					大学院生		合計
		4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
貸与者数 (A)		3	4	2	1	10	0	0	10
学生数 (B)		94	82	80	85	341	15	13	369
貸与率 (A/B)		3.2%	4.9%	2.5%	1.2%	2.9%	0.0%	0.0%	2.7%

(2) 授業料の減免

1) 概要

長野県看護大学条例では、経済的理由により授業料を納付することが困難な者、休学等の事情がある者に対して、授業料を減免することができることとしている。

また、希望する者について、年 4 回（4 月、7 月、9 月、1 月）に分納して授業料を納付することができることとしている。

2) 経済的理由による減免の実績

	26 年度	27 年度	28 年度
対象者数	16 人	18 人	19 人
減 免 額	8, 572, 800 円	9, 644, 400 円	10, 180, 200 円

第5節 サークル活動及び大学祭

(1) サークル活動

正課の授業以外に行う課外活動を行うサークルは、平成28年度は28団体であった。

サークル活動は学生の自主性を尊重しつつ、サークル顧問として教職員が関わりサークル活動の相談・支援を行っている。

平成28年度団体・サークル等一覧表

団体・サークルの名称	代表責任者		副代表責任者		顧問 氏名	構成 人数
	学籍番号	氏名	学籍番号	氏名		
軽音楽サークル	20131013	大杉 元人	20141073	森 和裕	御子柴 裕子	58
茶道サークル	20151033	澤島 里奈	20151067	向井 文香	有賀 美恵子	16
書道サークル	20151029	相楽 史織	20151018	黒木 那未	屋良 朝彦	9
ほがらかふれあい農園 サークル	20151024	小林 優香	20151012	上條 紗希	太田 克矢	46
わらわらサークル	20151075	湯浅 美香	20151070	森下 莉奈	田中 真木	53
美術・文芸 サークル	20151075	湯浅 美香	20141022	北原 七瀬	御子柴 裕子	16
Talk&Nurse	20141054	成瀬 真美	20141023	木山澤 郁香	田中 真木	12
アカベラ	20151008	岡村 春奈	20151069	室賀 なつ美	千葉 真弓	16
よさこいサークル鼓魂	20141045	谷口 夏美	20141036	沢井 千花	田中 真木	59
弓道サークル	20141026	熊谷 里奈	20141082	渡邊 裕美	阿部 正子	3
硬式テニス サークル	20151060	堀内 裕貴	20151023	小林 美智	太田 克矢	48
バスケットボール サークル	20151054	林 真言	20151036	清水 晴菜	牛山 陽介	66
バドミントン サークル	20141064	堀内 瑠依伽	20141033	小原 望	森野 貴輝	29
バレエ サークル	20151038	白鳥 聖乃	20151047	出浦 聖奈	酒井 久美子	34
スノーボード サークル	20141055	波田 雄佑	20141076	山岸 定智	高橋 百合子	115
ダンスサークル	20141008	石川 恭子	20141017	岡宮 絢音	千葉 真弓	5
室内楽サークル	20151065	宮沢 真由	20141053	中村 美咲	千葉 真弓	23
卓球サークル	20151032	佐々木 祥吾	20151004	井出 拓実	喬 炎	29
剣道サークル	20151078	脇坂 思緩	20151073	山邊 里奈	三浦 大志	12
フットサルサークル	20151055	福原 晶	20151068	村上 菜穂	森野 貴輝	42
写真サークル	20151017	熊谷 佳奈	20151074	山本 穂	森野 貴輝	11
子どもとあそぼう！ ちちんぷい	20151013	神谷 善之	20153004	丸山 智成	田中 真木	40
ヘルシー&ダイエット ジョギング&ウォーキング倶楽部	20151013	神谷 善之	20153004	丸山 智成	田中 真木	55
現代視覚文化研究会	20151080	渡瀬 千乃	20151059	堀 清花	三浦 大志	5
二輪車サークル	20141043	竹村 公亮	20141076	山岸 定智	太田 克矢	5
Skip	20141040	高野 菜摘	20141036	沢井 千花	屋良 朝彦	32
ASTERISM	20151064	三浦 萌	20151019	栞原 京香	三浦 大志	5
ボルタリングサークル	20141076	山岸 定智	20141043	竹村 公亮	有賀 智也	6

(2) 大学祭

長野県看護大学大学祭（名称「鈴風祭」：すずかぜさい）は、毎年9月上旬～中旬に2日間の日程で開催している。運営は1・2年生が中心となり、約80名による鈴風祭実行委員会を組織し、4月から約半年間をかけて準備を進めている。

平成28年度は9月10日（土）、11日（日）に開催した。看護大学ならではの特色ある企画として、ヘルスチェックやハンドマッサージコーナーを開設するとともに、地域の方々や子どもたちにも喜んでもらえるような催し物を開催し、近隣住民の方をはじめ、老若男女問わず大勢の方々に賑わった。

また、会場の一隅には「大学説明コーナー」を設け、広報交流委員会のメンバーが、本学への進学を検討している高校生に対し、進学相談を行った。

○事前の周知活動

- ・PRのための学校訪問：小学校6校、中学校3校
- ・パンフレット広告スポンサー：約100社

○当日の主な催し物

- ・ヘルスチェック、ハンドマッサージ等の健康サービス
- ・大学説明コーナー
- ・サークル発表（よさこい、ハモネプ、室内楽、軽音楽、茶道、書道、美術・文芸）
- ・ビンゴ大会等の開催
- ・ゲストによるパフォーマンスショー
- ・移動動物園
- ・各種模擬店

第6節 関係団体の活動

1. 大学生協

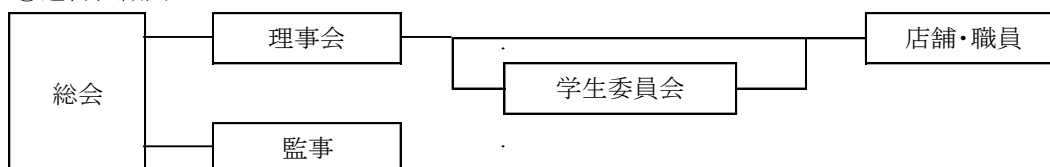
1 概要

(1) 組織

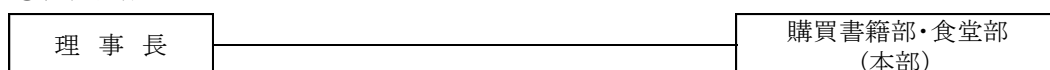
総会で選任された理事を構成員とする理事会の基に、第生活協同組合活動を応援する学生からなる学生委員会と教職員及び店舗職員が共同して、各種の学生生活を応援する活動を行っている。また、生協活動および決算等について監査を行う監事についても、総会で選任され、財務等の監査を行っている。

経営は、理事長の指示の元に、主として購買書籍部及び食堂部の職員が信州大学生生活共同組合と連携を図りながら、日々の業務を行っている。

①運営組織図



②経営組織図



(2) 業務

看護大学生協同組合は、平成 10 年 1 月 21 日に前身の看護大学福利組合から業務を引き継いで運営が開始され、今日に至っている。

その目的は、看護大教職員、学生等の組合員の生活の文化的、経済的な改善向上を目指し、活動に取り組んでいる。

2 活動実績

(1) 主な日常の業務

大学生協パート職員により、以下の業務を行った。

食堂部：昼食及び臨時の夜の飲食を提供した。

購買書籍部：書籍、文具、生活用品及び保管食品を販売した。

(2) 総会・理事会等開催

大学生協の理事及び理事等役員(理事：13名、監事：4名)による理事会等を以下により開催した。

項目	開催日	主な議題
第一回理事会 (総会)	28 年 5 月 25 日	理事長、専務理事の互選について 代表理事の選出
第二回理事会	28 年 7 月 4 日	3～6 月経営状況及び活動報告 夏期営業日程について 冷蔵ショーケース（備品）購入について
第三回理事会	28 年 9 月 20 日	3～8 月経営状況及び活動報告 共済運営組織の形成について・棚卸ロスについての報告 冬期営業日程について
第四回理事会	28 年 11 月 15 日	3～10 月経営状況及び活動報告 全国大学生協連及び大学生協共済連代議員選出について 第 5 回理事会開催日程及びインフルエンザ予防接種補助について
第五回理事会	29 年 2 月 15 日	16 年度見込み報告並びに 17 年度予算提案 就業規則改訂、及び定時職員給与の改定について 第 19 回総会について
第六回理事会	29 年 4 月 20 日	2016 年度決算及び活動報告 第 19 回総会議案及び運営について

※ 看護大学生協の会計年度は 3 月から 2 月まで、役員の年度は 5 月の総会後から、翌年の総会までとなっている。

(3) 学生委員会総会・理事会等開催

看護大学の学生により、生協の活動を PRするとともに、学生の生活を支援するため、学生委員会を組織し以下の活動を行った。

学生委員会の活動報告

月	主な活動内容（学生委員会の活動含む）
2016/4	お引っ越しお助け隊（3/26・27 4/2・3） お友達企画（4/4） 新入生オリエンテーション（4/7・8）

	新入生歓迎会 (4/27)
5	生協総会 (5/25)
6	ケーキバイキング (6/7)
7	「Nsの☆」完成・発行 (7/22)
9	鈴風祭模擬店出店 (9/10・11)
12	食堂装飾 クリスマス会 (12/20)
2017/1	引継ぎ
2	懇親会

(4) その他の成果

近年の粗利の減少傾向および総供給高の減少から運営が危ぶまれていたが、信州大学生協に委託していた業務の一部などを本生協で処理することにより委託費の削減と業務の効率化を図るなど、相当の業務改善を行った結果、3年連続の黒字を達成することができた。

3 課題及び方策

(1) 喫緊の課題

・小さな諸問題はあるものの、組合員から概ね支持された食堂運営や購買部の活動がなされているが、この活動を維持していく手段が一部のパート職員のみ依存しており、多忙を極めている。したがって、パート職員の増員と職員同士がお互いの分担をカバーしあえる体制づくりが最も急がれる課題である。

(2) 長期的な課題

・正規職員の不在による不安定な運営が持続している。

2007年に正規職員（店長）の退職後、パート職員のみで現場が運営されている。中でも、歪を理解しないまま「黒字経営状態で健全運営ができている」との認識が広がっているのは、最も大きな問題の1つである。実態は、店長を雇用する余力がない状態であることが、周囲の会員や大学に理解されていない。今後、理事を様々な教職員に経験させるなど、経営の根幹的な問題に直面する機会を増やすとともに、教職員、大学生にこの状態を周知し取り組んでいく必要がある。

- ・学生委員会の活動を旺盛に進め、生協の活動を知らせるよう取り組む必要がある。
- ・自治会と協力しての企画も求め、その活動を周知する必要がある。

2. 後援会

1 概要

長野県看護大学の運営に協力援助を行い、もって教育研究の発展に寄与するとともに、学生が豊かで充実した学生生活を送れるよう福利厚生事業等を行うことを目的として、平成7年4月8日に発足したものである。

組織は、総会並びに会員から選出された理事及び監事からなる役員会があり、業務・立案は、理事から選ばれる会長及び副会長と理事により行われている。事務局は、会則に基

づき、看護大学事務局総務課に置き、看護大学事務局次長が事務局長として庶務会計の事務を行っている。

主な業務

- ・学生の課外活動に対する援助。
- ・学生の生活指導・厚生等に対する援助。
- ・大学の運営・教育設備の設備充実等に対する協力 等

2 活動実績

(1) 主な業務

①新入生オリエンテーション、学生自治会への補助

オリエンテーション経費補助、自治会活動（鈴風祭、サークル）へ補助

②進路指導や福利厚生のために必要な事業等への補助

B型肝炎ワクチン予防接種（1年生：3回）、B型肝炎抗体検査（全学年）、国家試験対策ガイダンス経費・進路指導書等購入への補助

③実習交通費・宿泊費等の補助

学生への学外実習に係る旅費（交通費・宿泊代）の補助

④卒業式及び卒業生を送る会等、地域との交流等に対しての補助・協力

送る会経費の補助、町内会費、区費、看住協議会への交付金

⑤後援会だよりの発行

第19号（450部）の発行

(2) 総会・役員会等開催

項目	開催日	主な議題
第1回役員会	28年4月1日	総会議題等について
総会	28年4月4日	・平成27年度事業報告・収支報告書について ・平成28年度事業計画・収支予算、役員選任について
第2回役員会	28年9月10日	・平成28年度中間報告、実習補助費、卒業式、就職求人状況等について ・平成29年度役員体制案について
第3回役員会	29年3月10日	・平成28年度事業・決算見込みについて ・平成29年度新役員体制の確認等について

3 課題及び方策

実習施設の増加及び遠隔地化に伴い、実習交通費等補助に係る経費が年々増加し、会計全体に占める割合が高まり、後援会の他の事業の実施に支障をきたす恐れが生じてきたことから、実習交通費等の補助については、平成29年度の後援会予算から切り離し、大学管理の「実習交通費等会計」を別に設置することになった。

後援会としては、その分の減額する予算を勘案して、会費の額を見直し、新たな予算の枠組みの中で活動していくことになった。

今後は、平成29年度からの予算規模を踏まえつつ、大学の運営或いは学生への援助（学生自治会補助・サークル補助等）において、どのような内容がより有効であるかを検討しつつ、援助・活動を行う必要がある。

3. 同窓会

1 概要

同窓会「鈴風会」は平成 15 年、長野県看護大学創立 10 周年を機に設立された。会の名称は、母校の学園祭「鈴風祭」と同様に、駒ヶ根市を象徴する「すずらん」と「風」をイメージして付けられている。

鈴風会は、会員相互の親睦を図り、併せて母校と看護学の発展に寄与することを目的として活動しており、その目標は、母校と会員（卒業生・修了生）とをつなぐ架け橋となることである。主な事業は、以下のとおりである。

- (1) 会員名簿の作成及び会報の発行
- (2) 総会、講演会、研修会等の開催
- (3) 母校の後援及び相互の連携に関する事項

会員は、会員（卒業生・修了生等）、準会員（在学中の学生）に分けられる。最高議決機関として総会があり、ここで鈴風会の活動に関する決定がなされる。実務機関として執行部会があり、会長・副会長・会計・庶務の各役員で運営されている。

2 活動実績

- (1) 平成 28 年度基本方針

- ・会員同士のネットワーク強化
- ・同窓会活動の充実

【活動内容】

＜会員同士のネットワーク強化に関すること＞

○ホームページの活用

同窓会の活動の様子を活動報告として掲載している。行事の案内についても、郵送に加えてホームページに掲載することにより、連絡先不明等で通知が届かない会員にも情報を発信する場としている。

○会員の参加・アクセスしやすい活動方法の検討

同窓会から会員や新入学生への配布物にホームページ URL を掲載するなど、会員・準会員がアクセスできるよう同窓会ホームページの周知を図った。また、連絡先変更等の手続きもホームページから行えるよう体制を整えている。

＜同窓会活動の充実に関すること＞

○同窓会活動に関する意見募集

同窓会から会員への配布物には意見募集の連絡先を明記し、同窓会活動に対する意見を随時募集している。また、岐阜県立看護大学同窓会役員の皆様を迎えて交流会を開催し、意見交換を行うことで、今後の活動への示唆を得た。

○会員サービスの検討

隔年開催の計画となっている同窓会パーティーを開催した。幅広い世代の参加があり、会員の親睦を深める場となった。

○母校との連携

大学の広報・交流委員会からの依頼に応じ、長野県看護大学学報に同窓会活動報

告を寄稿した。大学から事務室として非常勤講師宿舍の一室を借用したため、事務室管理規定を作成した。

○予算執行・管理方法の検討

税理士・公認会計士に相談し、一般積立金会計の運用を開始した。

(2) 平成 28 年度活動日程

活動	開催日	主 な 議 題 等
第 1 回 執行部会	28 年 6 月 3 日	・平成 28 年度入学生と同窓会入会状況について ・岐阜県立看護大学同窓会との交流会の企画について ・同窓会パーティーの企画について
第 2 回 執行部会	28 年 7 月 11 日	・岐阜県立看護大学同窓会との交流会の企画について ・同窓会パーティーの企画について ・同窓会事務室の管理規定について
他大学同窓会 との交流会	28 年 8 月 29 日	大学にて岐阜県立看護大学同窓会との交流会開催
第 3 回 執行部会	28 年 8 月 29 日	・同窓会パーティーの企画について ・ホームページ掲載メールアドレスの管理について
同窓会 パーティー	28 年 10 月 8 日	アイパルにて同窓会パーティー開催
第 4 回 執行部会	29 年 1 月 20 日	・定例総会について ・大学新入生への同窓会入会案内について
第 15 回 定例総会	29 年 3 月 10 日	定例総会開催
第 5 回 執行部会	29 年 3 月 10 日	・新旧役員引継ぎ ・平成 29 年度の活動について

3 課題及び方策

鈴風会設立以来、新入会員の会費徴収は大学にご協力いただいていたが、平成 28 年度より徴収方法が変更となったことから、入会者及び会費収入が大幅に減少している。そのため、活動の拡大は困難であるが、入会促進を図るとともに、会員・準会員にとって有意義な活動となるよう検討を進める必要がある。平成 29 年度の活動方針は以下のとおりである。

(1) 会員同士のネットワーク強化

- ・ホームページによる情報発信を継続し、同窓会活動に参加する会員の増加を図る。
- ・同窓会活動の PR の充実や、意見募集の活性化に向けた方法を検討する。

(2) 同窓会活動の充実

- ・活動継続に向け入会者の増加を図るため、入会案内や会費徴収方法について検討する。
- ・同窓会活動の充実を図るため、会員の意見を募集する機会を引き続き設ける。
- ・大学祭に合わせた企画など、会員の参加できる企画を検討し、実施する。
- ・大学への貢献事業について、大学側の意向も踏まえながら内容を決定し、実施する。
- ・母校の発展に寄与できるよう、本会に対する要請に柔軟に対応していく。

第7節 学生生活アンケート

1 アンケート調査の概要

(1) 目的

学生（学部学生）の生活状況を把握して、教育活動ならびに学生生活指導を検討する資料とする。

(2) 実施時期

平成28年9月～10月

＊平成28年度調査のポイント

- ・学年毎の学生生活の現状を正確に反映させるために、各学年ともに80%以上の回収率達成を目標に講義や演習終了後に調査に入った。

2 結果の概要

1) 回答者数 306（学部在籍者総数 341 に対する割合：89.7%）

2) 平成28年度の学年比較の特徴

- ・授業理解及び学習時間については「とてもよく理解できている」「よく理解できている」が41.5%と前回調査（H26年度、32.3%）よりも改善の傾向が見られた。
- ・卒業後に保健師を目指す学生は、21.3%と前回調査（H26年度、10.3%）から倍増している。
- ・日本学生支援機構からの奨学金を受けている学生は、各学年共に33～42%を占めている。
- ・実家からの仕送りを受けていない学生は全体の35.6%を占めており、特に4年生は37.5%と高い傾向にある。
- ・アルバイトに就いている学生数は1年生（77%）、2年生（90.8%）と多いが、3・4年生では減少している。しかし、4年生の63.9%はまだ2～20時間のアルバイトに就いている。
- ・アルバイト収入は各学年共に3～5万円が多く、5～10万円の収入のある学生の比率は3年生が最も多い（25.3%）。
- ・悩み事の内容では、「自分のこと」が各学年共に約19%と一定の割合を占め、2・4年生は「大学での勉強・研究」が最も多くを占め（22～30%）、3年生では「卒後の進路」が30%を占めている。悩み事の多くは友人や親に相談して解決していた。

3 集計結果について

- ・学生の生活経済の実態を正確に把握するために、今後も高い回収率を目指す。
- ・アンケートを通じて得られた結果を、学生生活の向上に役立てる。

学生生活アンケート集計結果（平成28年度と平成26年度の比較）

年度別	平成28年度			平成26年度		
	在籍数	回答数	回答率(%)	在籍数	回答数	回答率(%)
1年生	85	83	97.6	83	72	86.7
2年生	80	76	95	83	75	90.4
3年生	82	75	91.5	82	65	79.2
4年生	94	72	76.6	90	77	85.6
合計	341	306	89.7	338	289	85.5

4 平成 28 年度 学生生活に関する調査 集計結果（抜粋）

- (3) あなたは大学の授業内容を全体的にどの程度理解できていますか。
最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
とてもよく理解できている	1	1.2%	0	0.0%	1	1.3%	2	2.8%
よく理解できている	34	41.0%	23	30.3%	36	48.0%	30	41.7%
どちらともいえない	45	54.2%	43	56.6%	34	45.3%	37	51.4%
あまり理解できていない	2	2.4%	10	13.2%	4	5.3%	3	4.2%
ほとんど理解できていない	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合 計	83		76		75		72	

- (4) あなたは普段、予習や復習を1週間にどの程度行っていますか。
最も当てはまるものを1つ選んで下さい。（試験前を除く。課題は含まない。）

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
予習や復習は行わない	8	9.6%	16	21.1%	20	26.7%	15	20.8%
30分未満	12	14.5%	25	32.9%	16	21.3%	11	15.3%
30分以上1時間未満	19	22.9%	17	22.4%	12	16.0%	16	22.2%
1時間以上2時間未満	17	20.5%	12	15.8%	11	14.7%	13	18.1%
2時間以上4時間未満	18	21.7%	3	3.9%	9	12.0%	9	12.5%
4時間以上7時間未満	6	7.2%	3	3.9%	3	4.0%	5	6.9%
7時間以上14時間未満	3	3.6%	0	0.0%	4	5.3%	1	1.4%
14時間以上21時間未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
21時間以上28時間未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%
28時間以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合 計	83		76		75		72	

- (7) あなたは卒業後どのような進路を考えていますか。
最も希望しているものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
看護師	45	54.9%	31	40.8%	54	72.0%	49	68.1%
保健師	20	24.4%	26	34.2%	9	12.0%	10	13.9%
助産師	13	15.9%	12	15.8%	8	10.7%	9	12.5%
養護教諭	3	3.7%	6	7.9%	1	1.3%	0	0.0%
進学	1	1.2%	0	0.0%	2	2.7%	4	5.6%
その他	0	0.0%	1	1.3%	1	1.3%	0	0.0%
合 計	82		76		75		72	

- (18) あなたは現在奨学金を受けていますか。
受けている奨学金をすべて選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
奨学金は受けていない	39	50.6%	39	48.8%	32	39.5%	26	33.3%
日本学生支援機構	28	36.4%	27	33.8%	27	33.3%	33	42.3%
長野県看護修学資金	3	3.9%	2	2.5%	5	6.2%	2	2.6%
病院の奨学金	3	3.9%	5	6.3%	14	17.3%	8	10.3%
その他の奨学金	4	5.2%	7	8.8%	3	3.7%	9	11.5%
合 計	77		80		81		78	

- (19) あなたは現在実家などから仕送りを1ヶ月にどの程度受けていますか。
最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
仕送りは受けていない	27	32.5%	27	35.5%	28	37.3%	27	37.5%
3万円未満	14	16.9%	11	14.5%	11	14.7%	10	13.9%
3万円以上5万円未満	27	32.5%	25	32.9%	19	25.3%	21	29.2%
5万円以上10万円未満	14	16.9%	10	13.2%	13	17.3%	12	16.7%
10万円以上	1	1.2%	3	3.9%	4	5.3%	2	2.8%
合 計	83		76		75		72	

(20) あなたは現在アルバイトを1週間にどの程度行っていますか。
最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
アルバイトは行っていない	19	22.9%	7	9.2%	20	26.7%	26	36.1%
2時間未満	2	2.4%	2	2.6%	2	2.7%	7	9.7%
2時間以上5時間未満	7	8.4%	5	6.6%	7	9.3%	7	9.7%
5時間以上10時間未満	19	22.9%	24	31.6%	22	29.3%	20	27.8%
10時間以上20時間未満	30	36.1%	28	36.8%	20	26.7%	9	12.5%
20時間以上	6	7.2%	10	13.2%	4	5.3%	3	4.2%
合 計	83		76		75		72	

(21) あなたは現在アルバイトによって1ヶ月にどの程度収入がありますか。
最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
アルバイトは行っていない	16	19.5%	7	9.2%	19	25.3%	26	36.6%
3万円未満	21	25.6%	12	15.8%	13	17.3%	20	28.2%
3万円以上5万円未満	31	37.8%	38	50.0%	24	32.0%	17	23.9%
5万円以上10万円未満	14	17.1%	19	25.0%	19	25.3%	7	9.9%
10万円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
合 計	82		76		75		71	

(24) あなたは現在悩んでいることがありますか。
悩んでいる内容について、当てはまるものをすべて選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
自分のこと	31	18.7%	33	18.8%	30	19.2%	25	18.0%
友達のこと	17	10.2%	11	6.3%	6	3.8%	4	2.9%
異性のこと	3	1.8%	5	2.8%	5	3.2%	5	3.6%
家族、家庭のこと	7	4.2%	7	4.0%	11	7.1%	7	5.0%
アルバイト	20	12.0%	17	9.7%	5	3.2%	5	3.6%
サークルなどの活動	5	3.0%	9	5.1%	4	2.6%	3	2.2%
大学での勉強、研究	32	19.3%	41	23.3%	31	19.9%	43	30.9%
卒業後の進路	32	19.3%	35	19.9%	47	30.1%	30	21.6%
経済状態	14	8.4%	12	6.8%	9	5.8%	15	10.8%
その他	5	3.0%	6	3.4%	8	5.1%	2	1.4%
合 計	166		176		156		139	

(25) あなたは、困った時や悩んだ時には誰に相談しますか。
当てはまるものをすべて選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
友人	61	42.1%	57	39.0%	64	43.5%	62	36.7%
親	47	32.4%	43	29.5%	45	30.6%	56	33.1%
兄弟姉妹	11	7.6%	15	10.3%	11	7.5%	23	13.6%
学年顧問	2	1.4%	1	0.7%	0	0.0%	1	0.6%
保健室保健師	3	2.1%	2	1.4%	1	0.7%	2	1.2%
就職・学生支援員	0	0.0%	2	1.4%	4	2.7%	3	1.8%
大学の教職員	1	0.7%	3	2.1%	4	2.7%	7	4.1%
大学やアルバイト先の先輩	11	7.6%	10	6.8%	8	5.4%	5	3.0%
高校時代の担任	1	0.7%	1	0.7%	0	0.0%	1	0.6%
相談する人がいない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
誰にも相談したくない	5	3.4%	6	4.1%	7	4.8%	5	3.0%
その他	3	2.1%	6	4.1%	3	2.0%	4	2.4%
合 計	145		146		147		169	

第7章 施設の管理運営等

第1節 施設の状況

(1) 施設の全体概要

1. 校地

本学の校地面積は、75,733 m²と学生数の割に広大であり、東に南アルプス、西に中央アルプスを望む恵まれた自然環境の中で、古代ギリシャ都市の「アゴラ」に倣って設けた中央広場を中心に、その周りに図書館・教育研究棟・講堂・学生食堂・管理棟を配置している。また、道路を挟んで屋内プール棟・有酸素運動研究コース・語らいの並木が併設されている。

校舎敷地	運動場用地	寄宿舍用地	プール他用地	計
36,951.00 m ²	15,948.00 m ²	5,760.00 m ²	17,074.00 m ²	75,733.00 m ²

2. 施設・設備

1) 管理棟 (2,248.81 m²)

学長室、事務室、会議室、保健室、食堂、売店が配置されている。食堂については、カフェテリア方式で185席の利用が可能となっており、また、売店が併設され、パン・おにぎりなどの食品や文具等を販売している。両部門とも、長野県看護大学生活協同組合が組織され、経営を行っている。

2) 教育研究棟 (9,079.39 m²)

講義室、演習室、実験室、自習室、情報処理教室(パソコン53台)、LL教室(機器50台)、研究室(講師以上は個室、助教・助手は複数人で1室)、大学院生研究室等を配置している。

講義室が大・中・小合わせて8室、実習室が「基礎」「成人」「母性・小児」「地域・老年」など看護領域ごとに6室、その他実験室、自習室などを完備している。その他大学院生用として、大学院生研究室が4室ある。なお、中講義室のうちの1室には、県内8大学を結ぶ遠隔講義システムを導入しており、他大学が配信する授業を自大学で受講することが可能になっている。

3) 講堂 (962.43 m²)

511席を配置し、AV設備、音響設備等を備えたもので、ピアノも設置している。

利用は、入学式や卒業式その他、公開講座とともに、学生の音楽系サークル活動(練習、ライブ、コンサート等)にも利用されている。

4) 図書館 (1,200.62 m²)

閲覧室80席、教員学習室、グループ学習室、AVコーナーを設置している。

開館時間は平日の場合、9時～19時で土曜日にも開館しているほか、病院の実習期間中は、21時まで利用可能としている。

5) 体育館 (893.68 m²)

木材を多用した造りで、バスケットボール1面、バレーボール2面がとれる。

学生は、鍵の貸与により常時利用可能としている。

6) 学生棟 (802.21 m²)

学生ホール、自治会室、クラブ室等を配置し、自治会活動や学生のサークル活動に利用している。

7) 屋内プール棟 (1, 131.64 m²)

通年で利用可能な6コース(25m)の温水プールを設置し、そのうち1コースがスロープコースとなっている。また、筋力トレーニング機器を備えた健康増進研究室(ジム)と講義・測定室が併設されている。

学生は常時これらの設備を使用できるほか、温水プールについては、本学主催の高齢者水中運動教室等教育研究活動の一環としても活用されている。

また、長野県障害者福祉センターの南信地域における拠点である障害者水泳支援センターとして障害者に開放しているほか、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

8) グラウンド・テニスコート (15, 948.00 m²)

250mトラックが設置可能なグラウンドと、夜間照明を備えた全天候型テニスコートが4面併設されている。

学生は常時利用できるほか、休日にはグラウンド・テニスコートを地域のスポーツ少年団等を中心に開放している。

9) 有酸素運動研究コース (12, 505.00 m² [隣接の「語らいの並木」を含む])

コース延長 600mの歩経路のほか、地域住民と学生が協働して植付け・管理を行う「ふれあい花壇」、「ほがらか農園」を設置している。

また、大学正面へ続く学園通りを囲んでケヤキ並木の語らいの並木を整備している。

10) 寄宿舍 (2, 504.44 m²)

2棟80室(1DK)に学部1年生が入居しており、2年以降は地元のアパートを借りている。

11) 非常講師勤宿舍 (328.00 m²)

全国各地から非常勤講師を招聘できるよう、1棟8室の宿泊施設を整備している。

また、研究のために帰宅が遅くなる大学院生の宿舍としても活用している。

教育研究棟	管理棟	学生棟	図書館	
9, 079.39 m ²	2, 242.13 m ²	802, 21 m ²	1, 200.62 m ²	
体育館	講堂	寄宿舍	非常勤宿舍	合 計
893.68 m ²	962.43 m ²	2, 504.44 m ²	328.00 m ²	18, 012.90 m ²

○教育研究棟

教 員 研 究 室	個人研究室	45室
	共同研究室	5室
講 義 室	大講義室	1室
	中講義室	4室
	小講義室	3室
	認定看護師教育課程講義室	2室
演 習 室	演習室	4室
実 験 ・ 実 習 室 等	生化学・生理学実験室	1室
	微生物・病理実験室	1室
	基礎看護実習室	1室
	母性・小児看護実習室	1室
	成人看護実習室	1室
	地域・老人看護実習室	1室
	在宅看護実習室	1室
	助産実習室	1室
情 報 処 理 学 教 室	情報処理教室	1室
語 学 学 習 室	L L教室	1室

3. 設備機器

○情報処理機器等

学内 LAN は、管理棟、教育研究棟、図書館、非常勤講師宿舍、寄宿舍の全域に配置し、利便性を保つと同時に、教職員使用領域と学生の使用する領域を分離、高度な機密情報の保持を徹底している。

教育研究棟内の情報処理教室にパソコン 53 台を設置し、授業以外の時間は学生に開放し、随時使用できる体制となっている。

LL 教室には、LL 学習システムがインストールされた教員用パソコン及び学生用パソコン 50 台（いずれもヘッドセット付き）を設置し、語学学習等に活用している。

4. 課題及び方策

開学から 20 年が経過し、空調設備、温水プールの諸設備など修繕を必要とする箇所が増えてきており、今後更に修繕箇所が増えることが予想される。

設備の修繕や更新には多大な費用がかかるため、緊急性等を勘案しながら優先順位を付けて、改修計画を策定するとともに、予算の確保に努め、修繕、更新を行っていく必要がある。

また、今後も学内の植栽等を常時整備して、教育研究を行うにふさわしい緑豊かな環境を維持しつつ、一層地域住民から愛され、誇りとされるような大学となるよう努めていく。

(2) 図書館

1. 概要

図書館の利用状況

付属図書館は、在学生（学部生・院生）、教員の学習・研究に資するため、図書、雑誌、電子資料などの学術情報の収集、提供を行っている。

1) 図書館施設・設備

閲覧スペースである開架と、閉架書庫に図書・雑誌がそれぞれ配架されているが、利用者はどちらも自由に利用できる。

閲覧席は、個人閲覧席の利用が多い。国試前などの時期によっては席数が不足することもある。通常期は、4 人掛けの閲覧席も含め席数はほぼ充足している。

平成 22 年度に、退館バーの外にソファを設置し、飲食可能スペースとした。

グループ学習室は、グループワークなどに活発に利用されていたが、平成 21 年度に DVD 機器を設置したことで、視聴覚教材のグループ視聴にも利用されるようになった。

データベース検索用の端末は 3 台だが、利用が集中する時期は順番待ちで利用することも多い。データベースのバージョンアップに機器のバージョンが対応できない状況も発生している。

蔵書の収容可能冊数は 10 万冊、現在の蔵書は 74,045 冊である。

表 館内面積および設備

総面積 1200 m ²							
閲覧スペース	688 m ²	書庫	131 m ²	事務室	57 m ²	その他	325 m ²
閲覧席 80 席(内個人閲覧席 12 席)/教員学習室 3 室/グループ学習室/AVルーム(個人ブース 10 席)/館内検索用端末 2 台/データベース検索端末 3 台/コイン式複写機 1 台							

2) 図書館資料

① 図書

図書は看護学の新刊を中心にシラバスの内容に即したものの、教員・在学生（学部生・院生）からの購入希望、その他関連領域の必要と思われるものを図書館司書が選定し購入している。実習に必要な図書は、利用状況をみながら複本も整備している。

また、国家試験や、就職試験に対応するコーナーを設けるなど学生の資料要求に応えられるよう取り組んでいる。

表 図書館蔵書数の推移

年度	和図書	洋図書	合計
2012 年度末	60,677	7,251	67,928
2013 年度末	62,605	7,296	69,901
2014 年度末	64,725	7,051	71,776
2015 年度末	65,717	7,402	73,119
2016 年度末	66,627	7,418	74,045

表 蔵書における分野別の割合

年度	看護学		医学		その他一般書		合計
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数
2016 年度末	16,631	22.6%	21,469	28.9%	35,945	48.5%	74,045

②雑誌・新聞

最新の研究成果や分野における動向を知るために雑誌は欠かせない資料であるが、円安や雑誌高騰から洋雑誌については無料ダウンロードや記事複写依頼で対応することで大幅に減らした。

表 受入雑誌タイトル数の推移

年度	和雑誌（種類）		洋雑誌（種類）		合計	電子ジャーナル	
	購入	寄贈	購入	寄贈		和雑誌	洋雑誌
2012 年度	112	238	37	6	393	972	605
2013 年度	103	304	32	11	450	1,048	536
2014 年度	96	278	29	8	411	1,079	757
2015 年度	84	271	18	0	373	1,211	683
2016 年度	81	302	8	3	394	1,273	535

2016 年度契約電子ジャーナル 和雑誌：メディカルオンライン 洋雑誌：CINAHL With Full text
現在購読している新聞は、全国紙 4 紙地方紙 3 紙である。過去 3 年分を保存している。

③視聴覚資料

表 視聴覚資料数の推移

年度	DVD	VHS	CD	その他	合 計
2012 年度	308	1,841	107	77	2,333
2013 年度	363	1,842	107	81	2,393
2014 年度	395	1,844	108	82	2,429
2015 年度	432	1,844	125	85	2,486
2016 年度	460	1,839	125	84	2,508

④文献検索データベース

文献検索のデータベースは「医中誌 Web」「看護索引 Web」「NACSIS-Cinii」エブスコ社「MEDLINE」「CINAHL with Full Text」が利用できる。

検索結果から該当雑誌の当館の所蔵がすぐ確認できる OPAC リンクを貼り利便性を高めている。これらは学内 LAN 接続のパソコンであればどこからでも利用できる。

3) 利用状況

①開館時間・日数

平日の開館時間は、9 時から 19 時まで、長期休業中は 17 時までであり、土日祝日は休館である。但し、実習期間である 5 月から 12 月については、平日は 9 時から 21 時、土曜日は 10 時から 16 時まで開館している。

利用対象者は、在学生（学生・院生）、教職員、学外者、2011 年度から開講された認定看護師養成課程の受講生である。

2016 年度は、入館者数の減少に歯止めがかかったものの、4 万人には遠く及ばなかった。

表 開館日数及び入館者数

年度	平日開館日数	土曜開館日数	開館日数合計	入館者数	1 日平均
2012 年度	235	23	258	43,515	168.7
2013 年度	242	24	266	40,882	153.7
2014 年度	232	25	257	40,295	156.8
2015 年度	234	23	257	35,910	139.7
2016 年度	234	23	259	36,425	139.5

表 貸出条件

	学 生	院 生	認定看護師	教 員	学外者
貸出期間	2 週間				
貸出冊数	5	15	15	15	5

表 貸出冊数の推移

貸出冊数	学生/院生	教職員	合計
2012 年度	9,264	1,974	11,438
2013 年度	9,124	1,987	11,111
2014 年度	9,601	1,769	11,370
2015 年度	8,612	1,826	10,438
2016 年度	10,165	2,220	12,385

4) 外部開放

①概要

平成 16 年度より、18 歳以上の一般の人を対象に、図書館を開放している。利用時間は、9 時から授業日は 19 時まで、休業日は 17 時までとなっており、貸出冊数は 5 冊、貸出期限は 2 週間となる。初めて来館した際に身分証明書を提示してもらい、利用証を発行する。2 回目以降は、入館の際に利用証提示を求めている。貸出・複写のほか、文献検索データベースの利用も提供している。

②利用状況

入館者数は、微増となった。

表 学外者の入館者数および貸出冊数の推移

年度	学外入館者数（概数）			貸出冊数
	医療関係者	他学学生	その他	
2012 年度	1,024	131	197	2,430
2013 年度	1,040	176	259	2,601
2014 年度	1,027	110	434	2,275
2015 年度	816	75	352	2,126
2016 年度	840	118	223	2,264

2. 成果及び課題

資料費は年々削減されているが、貸出、閲覧、複写などの状況から雑誌や図書の利用動向を把握し、資料選定に反映させている。今後も在学生（学部生・院生）や教員からの購入希望も取り入れ学習・研究に必要な資料要求を満たせる蔵書構築を行っていきたい。

雑誌については、現在増加しているインターネットで公開されているデジタル化された学術資料へのアクセスを利用者に分かりやすく提示するなど、利用可能な資料を最大限利用できるように工夫に努めたい。

入館者数、貸出数ともに減少傾向にある。課題、実習との連携（コーナーの設置、利用者に分かりやすい配架、資料の紹介、カウンター対応の向上、図書館利用の広報など資料活用向上のため努めていきたい。

開学して20年以上経過し資料的価値が低くなった図書が増加したことと、研究室から移管される図書が増加したことにより、書庫の狭隘化が進んでいる。今後は重複本の除籍など、配架場所確保のための方策をとる必要がある。

以上、今後も、学生・教員の資料要求に応えられる蔵書の構築、資料活用のサポート、設備の充実に努め、学習・研究支援の場としての機能を高めていきたい。

（３）施設の利用開放状況

１ 概要

大学のほとんどの施設は、学内利用との調整を図りながら、「長野県看護大学行政財産の目的外使用に関する規程」に基づいて学外者に開放しており、テニスコート、グラウンド、屋内プールなどスポーツ施設の学外者利用度が高くなっている。

屋内プールについては、大学の使用しない時間帯は、長野県障害者福祉センターの南信地域における拠点である障害者水泳支援センター施設として障害者に開放している他、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

グラウンド及び体育館は、災害発生時における地域住民の避難場所となっている。

講堂は、１年に２回程度公開講座を開催しており、広く市民に利用されている。

大学南側に道路を隔てて設置されている有酸素運動コースは、ふれあい花壇に隣接していることもあり、近隣の市民の憩いの場ともなっており、随時ウォーキングなどに利用されている。

２ 利用実績

学外者に対する施設の開放については、学内利用との調整を図りながら行っているところであるが、利用日数、利用者数とも一定の利用がある。

学外者の利用状況

施設名 年度		テニス コート	グラウンド	屋内 プール	講堂	講義室	体育館
平成28年度	利用日数	36	75	310	0	1	10
	利用者数	936	1,750	9,718	0	50	202

３ 課題及び方策

市民の交流によって地域に開かれた大学となっており、一定の利用もあるこの状況を今後とも継続していく。しかしながら、施設開放にあたり、保安上の問題など構造的に不便な箇所があることや、経年劣化等による施設の修繕や設備改修等が懸念され、予算上の制約などにより万全な状況での開放が困難となることが予想されることから、できる限り必要な予算等の確保に努め、大学運営に支障のない限り、大学施設を障害者のスポーツ活動や地域住民などへ開放していくこととしたい。

第２節 財政の状況

１ 概要

（１）予算、決算

本学の予算編成は県全体としての予算編成の中に組み込まれており、県の財政担当課から示される予算編成方針等に基づき予算を編成している。したがって大学独自に財政計画を策定する状況ではなく、県全体の緊縮財政の流れの中で、厳しい財政運営を強いられている。

予算執行は、県の条例、規則に基づき事務処理を行い、会計局会計センターによる検査・指導や県監査委員事務局による監査を受けながら、適正な予算執行に努めている。

(2) 外部資金の獲得

県全体の緊縮財政の流れの中で、教育を支える研究活動を積極的に行うため、外部競争資金の獲得を図っている。

2 実績

(1) 予算、決算の状況（平成28年度）

歳入は、大学の自主財源である学生納付金（授業料など）が約3割、県の一般財源が約7割を占めている。県立大学として、教育研究活動を安定的に遂行するために必要な財政基盤を確立している。

歳出は、教職員及び非常勤講師等の人件費が約7割、大学の管理運営に必要な物件費が約2割、教育研究に必要な物件費が約1割を占めている。

（歳入）

財源、歳入科目等				予算額（円）	決算額（円）	構成比
特定財源	自主財源	使用料	授業料	222,563,000	204,440,496	23.6%
			寄宿料	5,664,000	5,174,300	0.6%
			行政財産使用料	34,000	58,853	0.0%
		手数料	入学料	24,666,000	26,113,200	3.0%
			入学審査料	7,439,000	9,104,600	1.0%
			証明事務手数料	38,000	57,600	0.0%
		財産収入		204,000	296,703	0.0%
		諸収入		1,507,000	1,462,625	0.2%
		計		262,115,000	246,708,377	28.4%
	基金繰入金		3,724,000	3,332,000	0.4%	
	計		265,839,000	250,040,377	28.8%	
県債				48,000,000	50,000,000	5.8%
一般財源				564,554,957	567,424,080	65.4%
合計				878,393,957	867,464,457	100.0%

（歳出）

歳出科目等	予算額（円）	決算額（円）	構成比
報酬	11,737,000	11,393,475	1.3%
給料	340,094,000	343,586,755	39.6%
職員手当	173,159,000	179,937,420	20.8%
退職金	3,167,805	3,167,805	0.4%

共済費	107,632,311	107,454,286	12.4%
賃金	9,448,368	8,085,531	0.9%
報償費	26,659,000	18,246,820	2.1%
旅費	18,529,000	15,759,939	1.8%
交際費	45,000	0	0.0%
需用費	74,923,000	72,941,555	8.4%
役務費	9,690,000	7,532,378	0.9%
委託料	27,190,000	28,956,126	3.3%
使用料及び賃貸料	21,832,000	20,007,853	2.3%
工事請負費	49,056,000	46,224,000	5.3%
備品購入費	2,023,000	994,896	0.1%
負担金・補助金及び交付金	3,121,473	3,022,818	0.4%
公課費	87,000	152,800	0.0%
合計	878,393,956	867,464,457	100.0%

3 課題及び方策

- (1) 県予算全体の緊縮傾向が続く中、固定的経費である人件費の割合が高まっているため、物件費の効率的な予算執行が求められている。限られた予算を有効に活用するためには、物品購入等にあたり積極的に競争原理を導入する必要がある。
- (2) 看護の発展に寄与する優秀な人材を確保、育成するとともに、安定的な財源を確保するために、学部生、大学院生及び認定看護師養成課程受講生の積極的な募集を行う必要がある。
- (3) 施設、設備の適切な維持管理を行うことは、安全、安心な大学生活を送るために欠かすことができないが、十分な予算が確保できていない。計画的な修繕・改修を行うため粘り強く予算の確保に努める必要がある。
- (4) 教育を支える研究活動を積極的に行うため、更なる外部資金を獲得していく必要がある。

第8章 自己点検・評価総括

平成28年度の自己点検・評価の総括として長野県看護大学の中期構想の観点、基準協会による審査の課題、その他の課題から総括する。

1. 長野県看護大学の中期構想

平成26年度より策定された、長野県看護大学の中期構想について3年目の状況について評価する。中期構想では、長寿県としての長野県民の健康を支える役割を担うこと、豊かな人間性と看護の心をたずさえた看護職者の育成を目指しながら、学部教育の充実、大学院教育の強化、看護実践国際研究センターの強化、大学改革の推進を進めている。

1) 学部教育の充実

- ① 平成27年度に検討した学生支援体制の見直しについて、平成28年度からスタートした。具体的には、従来健康センターに配置していた専任の講師に代わり、必要時外部相談員に依頼する体制を整えるとともに、学部長、研究科長に情報を一元化することとした。また、学年顧問は学部長の指揮のもとに位置付けた。
- ② 平成26年末に看護連携型ユニフィケーション事業推進の一環として4つの臨地実習施設と基本協定を締結し、教育連携・相互研修・研究交流を軸とした教育の協働の取り組みがスタートした。平成28年度からは、看護実践国際研究センターの自治体連携部門のチームに組織的に位置づけ継承することになった。平成28年度事業では、看護研究研修の開催、大学教員の現場研修、臨床指導者の教育への参画、臨床指導者研修会の開催、その他領域と病院との看護職者の連携や大学院の講義の聴講などを行った。
- ③ カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを策定し、それに連動させてアドミッション・ポリシーの見直しを平成27年度に行い、平成28年度から3Pを整備した教育がスタートしたことから、引き続いて教育の評価に関するPDCAサイクルについて取り組んでいく。
- ④ 学生支援の充実を図るため初年時教育の検討を進め、平成28年度よりスタートアップセミナーを始めた。
- ⑤ 災害教育の充実の一環として、平成26年度から大学に防災委員会を位置づけ、防災マニュアルの策定、防災訓練の充実、安否確認メール訓練などを行った。特に防災のためのマニュアル作成の原案をもとに整備し配布していくことが課題となっている。
また、看護実践国際研究センターに、国際看護・災害看護部門を位置づけ活動を推進していく。駒ヶ根市日赤奉仕団への参加や災害支援のサークルについても平成28年度から活動がスタートしている。
- ⑥ 平成26年度に同窓会の事務室を学内に設置した。
- ⑦ 後援会費の見直しを検討し、後援会理事会を経て総会で決定した。大きくは、実習経費を別途入学時徴収することにして、後援会費から切り離した。そのため後援会費としては減額とし、平成29年度より開始する。
- ⑧ サークル活動への特別な支援として、特別支援枠20万円の中で大会参加の交通費などを支援した。楽器の購入については、計画的に進めていく予定である。
- ⑨ 4年次生を対象とした学長との学生面談は、時間割の関係で面談日程を組むことが困難

となり、平成 28 年度より、国家試験模試の日程に合わせクラスに入り講話を行った。

- ⑩ 編入試の中止による学部選抜枠並びに定員の検討については、文部科学省の高大接続連携事業の推進に伴う大学入試改革とともに平成 29 年度に検討する予定である。

2) 大学院教育の強化

- ① 研究科組織の明確化については、平成 26 年度よりスタートさせている。平成 28 年度も該当する教員の審査を行い研究科委員会で確認された。
- ② 大学院生の安定的な確保については、入試問題の見直しを検討し、平成 29 年度入試より CNS の入試科目にある英語を課さないことを決めた。さらに、遠隔授業の拡充のための環境整備や卒業生を送り出している病院を訪問する等、大学院生獲得対策に取り組み、平成 29 年度は 6 名の修士課程、1 名の博士課程の学生の入学が決まった。引き続き、病院訪問や看護連携型ユニフィケーション事業協議会等により、大学院生獲得を推進するとともに、英語の出題や採点の体制などを検討していく。
- ③ カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシーは、平成 27 年度よりスタートしており、教育評価に関する PDCA サイクルに取り組んでいく。
- ④ 論文博士の取扱要領については、すでに検討されている内容を確認整備し、便覧に掲載していく。
- ⑤ 病院、教育機関等との人事交流については、教員や看護職員が充足していない状況にあり、引き続き検討していく。

3) 看護実践国際研究センターの強化

- ① アカデミックナッシング・プラクティスの構想の推進として、平成 27 年度にセンターの改革を進め、平成 28 年度は計画を推進する年となった。各プロジェクトの活動や、各部門の活動の充実につながった。看護大学研究集会で報告するとともに活動実績報告書を作成する予定である。
- ② 認定看護師部門では、県の方針の確認やバックアップを求めながら入学者数を確保すると共に、認定看護師教員の主任教員・専任教員体制の整備に取り組む。平成 29 年度感染管理の教育部門を休止することを決定し、それに伴って、認定看護師教育部門の定員を 25 名とした。平成 29 年度入試では 1 次試験で受講生の確保ができた。面接や専門科目の問題などの見直しを行ない、受講生を選抜する体制を整えた。また、次年度の入試体制は全学的に行うこととした。
- ③ 看護大学研究集会の長野県看護学会への発展のための体制整備については、平成 29 年度以降大学の課題が山積している中で、学内合意を経て推進していくことは困難な状況にあるため、当面は長野県看護研究集会の充実を図り運営していく。
- ④ 国際交流の流れが加速しており、海外からの訪問（中国、台湾、ドイツ、ネパール）が多かった。揚州大学からは客員研究員の受け入れを行った。今後も、国際交流の継続を進めながら、大学間交流が深められるような取り組みを進めていく。
- ⑤ 大学が取り組む助成金によるプロジェクトは、新規のテーマによる公募が少ないこともあり、本学が新たに取り組むテーマは現段階ではないが、今後の文部科学省等の新た

な公募を注視していく。

4) 大学改革の推進

- ① 大学の運営資金の有効な活用のため学部教育の教育備品等の全体を把握し優先度を定め整備するため、平成 28 年度にも検討を行った。教育資材の全学的なニーズ調査を行い、備品についてその必要性を確認し、優先度をつけて購入を進めた。今後も計画的に必要な物品の整備を図っていく。

また、大規模設備の改修について県と交渉した結果、教育棟のエアコンの工事を行った。残された旧型のエアコンが不具合を起こしたときには迅速に対応していく。引き続き、ESCO 事業などの県のモデル事業等を活用するとともに、施設整備に向けた要望を継続していく。

- ② 図書館の改革については、県の人員削減方針を受け、外部委託の可能性についてワーキングを立ち上げて検討を行ってきた。他大学の視察を行い、それをもとに引き続き検討を進めたが、最終的には業者委託はせずに現体制の中で行っていくことが決まり、平成 28 年度に教授会へ報告した。

また、経費の削減に向けた見直しとして、教員や学生に対するサポートを行いサービスの低下とならないよう配慮することで、PsycINFO の契約を中止し継続しないことを決定した。

- ③ 大学の在り方の検討として、平成 26・27 年度に独立行政法人で運営している大学の訪問を行った。1 法人 2 大学には県職員も同行し、結果は教授会に報告した。また、FD・SD 研修として、公立大学協会事務局長による「看護系の公立大学の現状」について研修会を行った。平成 30 年度に開学予定の長野県立大学の動向も注視しながら、法人化に関する検討を継続していく。

- ④ 欠員となっている成人・基礎・看護管理教員の人事を進め、平成 28 年度には教授 3 ポストを確保することができた。引き続き、欠員となっている基礎看護学分野の講師・准教授のポスト 2 と成人看護学分野の教授・准教授・講師のポスト 1 の公募と、産休代替の教員の確保を図るとともに、重点課題に対する柔軟な人事配置を進めていく。

- ⑤ 平成 26 年に締結した駒ヶ根市との包括的連携協定については、看護実践国際研究センターの自治体連携部門が中心となり取り組んでいる。平成 28 年度は、ICT を用いた特定健診受診者のフォローアップシステムの構築や少子化対策事業への協力、駒ヶ根市ネパール交流市民の会の活動への協力、駒ヶ根市おれんじネットへの協力等を行った。

2. その他の取組

1) 公的資金の不正利用に関する規則等の整備

不正利用に関する旧規程を廃止し、新たに公的研究費に係る不正防止対策の基本方針を定め、管理監査に関する規程、事務処理手続きの基本ルールを作成した。さらに、研究活動における不正行為への対応に関する規定、不正防止計画を整備した。

2) 研究活動に伴う倫理教育の実施と e ラーニング研修の継続

グリーンブックの e ラーニング教材の完成に伴い、平成 28 年度に全員研修を受けること

とした。また、CITI JAPAN の試験的導入により自主研修を促し、ほぼ全員が研修を終えた。今後の本格的 CITI JAPAN の導入に向けては情報を集め検討する。

3) 教員評価

① 業務評価と職務遂行能力評価の検討と導入

教育公務員特例法等の一部改正に伴い、新たに教員人事評価（業務評価及び職務遂行能力評価）を検討し導入した。従来の業績評価とは異なり、業務評価は年度当初に自己の業務目標を掲げ、それを中間と年度末に評価した。また、職務遂行能力評価の評価項目の設定については、本学独自の内容を検討し、教員の行動指針を評価項目として年度末に評価した。

② 業績評価

平成 28 年度は、前年度に実施した内容をほぼ踏襲しているが、課題として残されていた「卒業研究の担当時間」と「卒業研究担当人数」について、助手・助教の記載が重複する点を加点しないこととした。また、評価対象者は、採用形態に関わらず「研究費を配分され、評価年度に在籍していた者（次年度研究費配分の時点で退職が明確な教員は除く）」とした。

評価結果については、運営委員会並びに教授会に報告を行い、平成 29 年度予算に研究費として反映した。

平成 29 年度評価に向けては、教員からの要望や意見を踏まえた評価項目の見直しや、大学教員の仕事の枠組み（教育・研究・地域貢献・大学運営）のうち、さまざまな大学の課題に取り組む必要から、大学運営及び地域貢献に対するウエイトを上げる見直しを行う。

4) 競争的資金に対する間接経費の使用方針について

長い間、国の定めに基づいて運用していた間接経費について、教員の研究者としての学会年会費に対する使途を明確にするなど、平成 29 年から運用するため使用方針を検討した。

5) 委員会の名称変更

教職協働を一層推進するため、FD 委員会規程を変更し、SD の位置づけを明確にするとともに、委員会の名称を「FD・SD 委員会」とした。

6) 学生便覧、大学院学生便覧に、本学の沿革を加え、学生、教職員の本学の成り立ちと今日までの歩みに対する意識の醸成を図ることとした。

7) 大学ホームページを洗練させ効果的な内容とするための修正を行った。また、英語版の準備を進めた。

学長 清水嘉子

自己点検・評価報告書（平成 28 年度分）

2017 年 7 月発行

編集 長野県看護大学 評価委員会

発行 長野県看護大学

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 1694

TEL 0265-81-5100 FAX0265-81-1256

印刷 ㈱宮澤印刷



長野県看護大学